

眉山活性化基本方針(素案)

- 眉山未来プロジェクト報告 -

BIZAN MIRAI
PROJECT



TOKUSHIMA CITY R7.3

目次

1. はじめに

1.1 徳島市概況	1
1.2 徳島市緑の基本計画	2
1.3 眉山未来プロジェクト	3
1.3.1 眉山未来プロジェクトについて	3
1.3.2 プロジェクトの位置づけ	3
1.4 眉山活性化基本方針の策定	4

2. 眉山の現状

2.1 眉山の地勢	5
2.1.1 眉山の地勢	5
2.1.2 眉山の植生	6
2.2 眉山の歴史	7
2.2.1 眉山の名称	7
2.2.2 眉山公園	8
2.3 眉山を取り巻く社会状況	11
2.3.1 眉山の現状と課題	11
2.3.2 都市計画上の位置づけ	12
2.3.3 公共交通	15
2.3.4 観光動向	20
2.4 眉山の現状（ハード）	23
2.4.1 眉山公園	24
2.4.2 阿波おどり会館・眉山ロープウェイ	28
2.4.3 西部公園	28
2.4.4 眉山の道路	30
2.4.5 登山道	33
2.4.6 眉山の誘導標識・サイン	33
2.4.7 その他の公共施設	34
2.4.8 社寺等	34

2.5 眉山の現状（ソフト）	35
2.5.1 眉山で行われているイベント	35
2.5.2 眉山観光情報.....	36
2.5.3 眉山を舞台とした作品	36
2.6 眉山の利用実態調査.....	37
2.6.1 眉山公園（山頂部）の来園者数.....	37
2.6.2 眉山公園（山頂部）の滞在時間.....	40
3. 策定方針	
3.1 意向調査.....	43
3.1.1 サウンディング.....	44
3.1.2 口コミ調査.....	45
3.1.3 ヒアリング調査.....	49
3.1.4 アンケート調査.....	53
3.2 現状分析.....	63
3.2.1 眉山公園及び周辺地域における魅力	63
3.2.2 眉山公園及び周辺地域における課題と提案.....	63
3.3 目指すべき眉山の未来.....	68
3.4 目標設定.....	68
4. 眉山未来プラン	
4.1 びざんミーティング.....	69
4.1.1 びざんミーティング.....	69
4.1.2 アンケート結果.....	70
4.2 眉山活性化専門部会.....	73
4.2.1 眉山活性化専門部会	73
4.2.2 部会概要	73
4.3 他都市事例.....	75
4.3.1 ソフト面の事例.....	75
4.3.2 公園施設（ハード面）の事例.....	79
4.4 眉山未来プランニングコンセプト.....	85
4.4.1 統一したデザイン	85

4.4.2 眉山の誘導・サイン計画	86
4.4.3 景観・環境への配慮	88
4.4.4 ユニバーサルデザイン	91
4.5 眉山未来プラン	92
4.5.1 眉山公園（山頂部）	92
4.5.2 眉山ロープウェイ	102
4.5.3 眉山公園（大滝山部）	103
4.5.4 西部公園	104
4.5.5 登山道	105
4.5.6 アクセス道路.....	108
4.5.7 移動モビリティ	112
4.5.8 デジタル技術.....	116
4.5.9 利活用	117
5. 眉山未来プランの推進	
5.1 民間活力の導入	118
5.1.1 民間活力の導入検討	118
5.1.2 官民連携の手法の検討	119
5.2 実証実験	121
5.3 スケジュール	122

1. はじめに

1.1 徳島市概況

本市は四国一の大河である吉野川とその支流が育てた三角州に発展した、四国東部に位置する徳島県の県庁所在地です。年間を通じて比較的温暖な気候に恵まれ、東部は紀伊水道を望み、南部は山々の緑を背にした自然豊かな都市で、本市のシンボルである眉山や城山が市の中心部にあるほか、吉野川をはじめとする大小合わせて134もの河川が市内を流れる、他都市に類を見ない水とともに発展してきた「水都」です。

中心市街地には新町川と助任川に囲まれた「ひょうたん島」の愛称で親しまれている地域があり、その周囲を巡る周遊船が運航されているほか、緑やLEDの光によって水の魅力を演出する景観づくりが行われるなど、水を活かした個性的な市街地が形成されています。

郊外においても、鮎喰川、勝浦川、園瀬川等の清流や大神子、小松等の海岸、中津峰山を中心とする山地など、豊かな自然が分布しています。

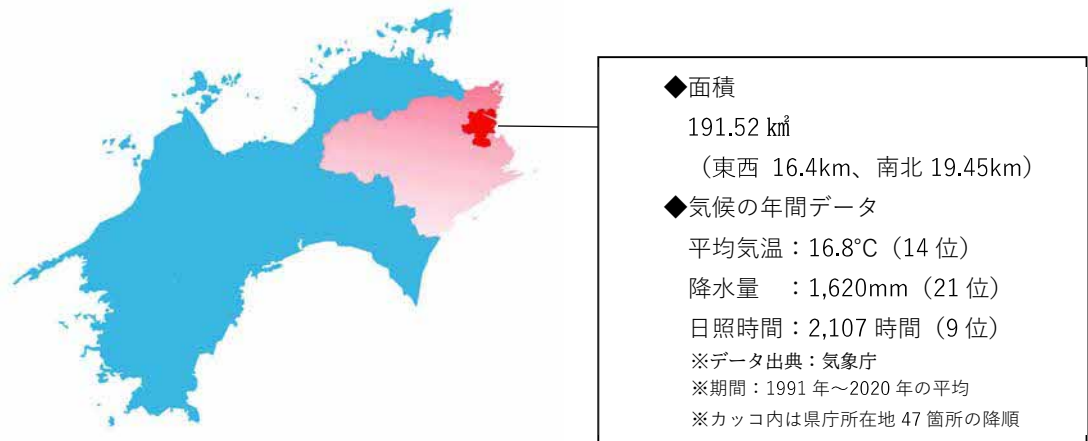


図- 1.1.1：徳島市位置図



眉山山頂から吉野川を望む



ひょうたん島周遊船

出典：Fun!Fun!とくしま

1.2 徳島市緑の基本計画

徳島市緑の基本計画は、都市緑地法第4条に基づき策定され、緑地の保全及び緑化の目標やその推進のための方針・施策などを定めています。本市では令和5年6月に徳島市緑の基本計画を改定し、そこで、本市が目指すべき将来像を次のとおり掲げました。

【将来像】

まちなかにあふれる水・花・緑が人を惹きつけ 笑顔をつなぐ「水都とくしま」

【将来像の達成のための4つの方向性】

方向性1 魅力を高める水と緑をつくり、増やします

まちなかから郊外部にかけて広がる水と緑の環境のつながりをさらに強め、面的なネットワークを構築するために、水と緑のさらなる量の充足を図ります。

方向性2 豊かな水と緑を守ります

貴重な水と緑の資源をこれからも大切に残し続けることで、本市の魅力を高め、健全な自然の循環を支えるために水と緑を保全します。

方向性3 魅力ある水と緑を活かします

本市のブランドである水と緑の資源を最大限に活用し、市民や来訪者が集い、楽しみ、思い思いに過ごすことができる公園・緑地の空間の提供と質の向上を図ります。

方向性4 水と緑を育み、支えます

庁内の他部局や市民、事業者、観光客等、「ダイバーシティ（多様性）」に富んだ主体が水と緑の創出・保全・活用に、共通認識のもと参画することができる仕組みや体制を整えます。

図- 1.2.1：将来像の達成のための4つの方向性

また、徳島市緑の基本計画において、眉山山頂周辺を緑化重点地区とし、「見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル」と目標像を掲げました。

1.3 眉山未来プロジェクト

1.3.1 眉山未来プロジェクトについて

「眉山未来プロジェクト」は、徳島市緑の基本計画において眉山山頂周辺を緑化重点地区として都市緑化を積極的かつ重点的に推進し、併せて景色を活かした企画、施設の充実を図る地区に指定したことから、具体的な取り組み方針を定め、実施を図っていくことを目的としたプロジェクトです。



眉山山頂周辺から中心市街地を望む

1.3.2 プロジェクトの位置づけ

本プロジェクトは関係法令及び上位計画を反映させ、その他関連計画との連携整合性を図ります。

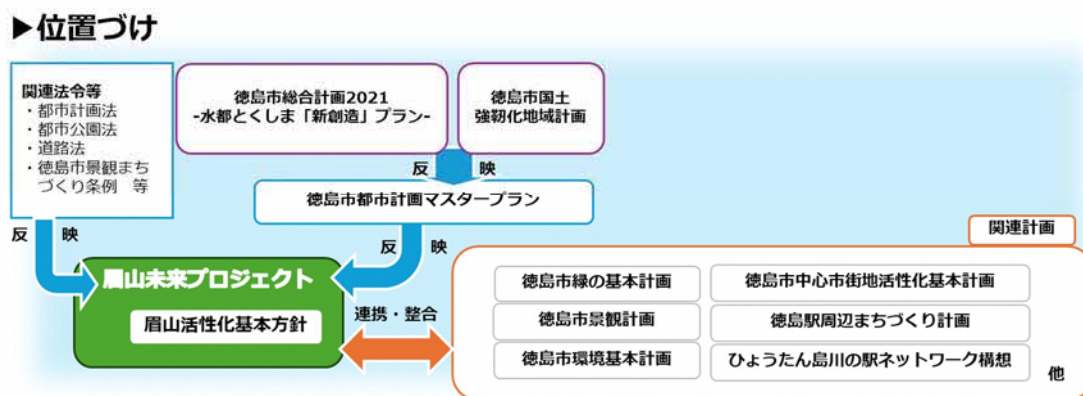


図- 1.3.1：眉山未来プロジェクトの位置づけ

1.4 眉山活性化基本方針の策定

徳島市緑の基本計画において、眉山山頂周辺を緑化重点地区に位置づけ、「見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル」と目標像を掲げました。その実現に向けた基本方針として眉山活性化基本方針を策定します。

眉山活性化基本方針の策定において、様々な見地から有識者の意見を求め、本方針に反映することを目的として、眉山活性化委員会を設置しました。

また、より幅広い視点からの課題の抽出・検討及び提案を目的に、公募市民によるびざんミーティングを設置するとともに、より専門的な課題への対応を検討し、委員会に報告するため、眉山活性化専門部会を設置しました。

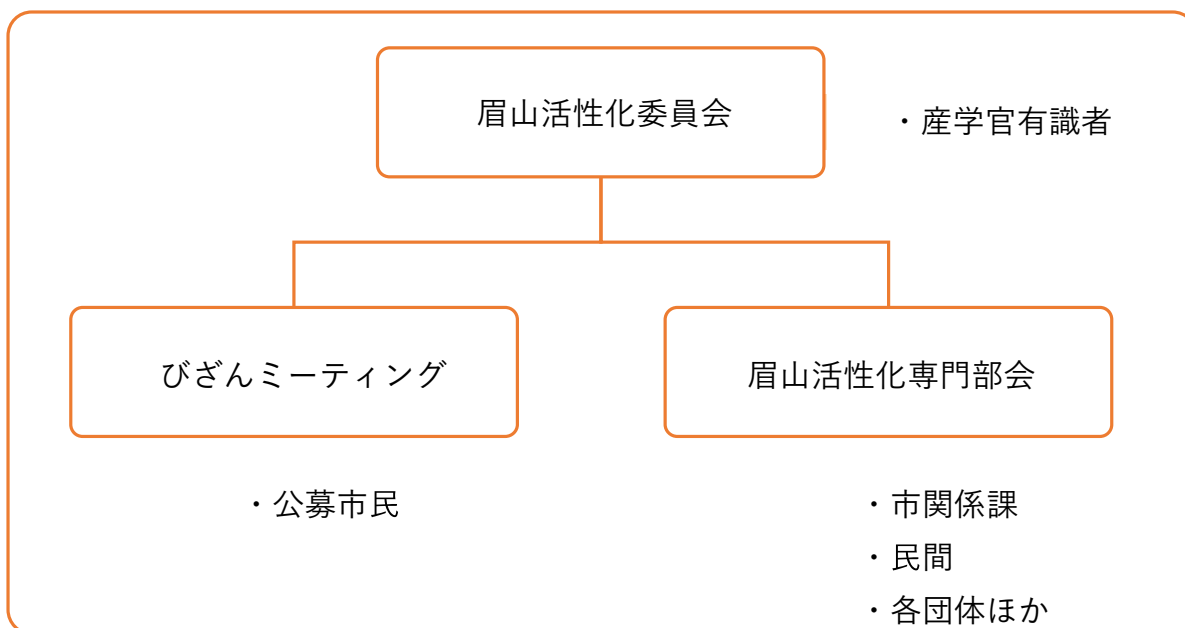


図- 1.4.1：眉山活性化委員会

2. 眉山の現状

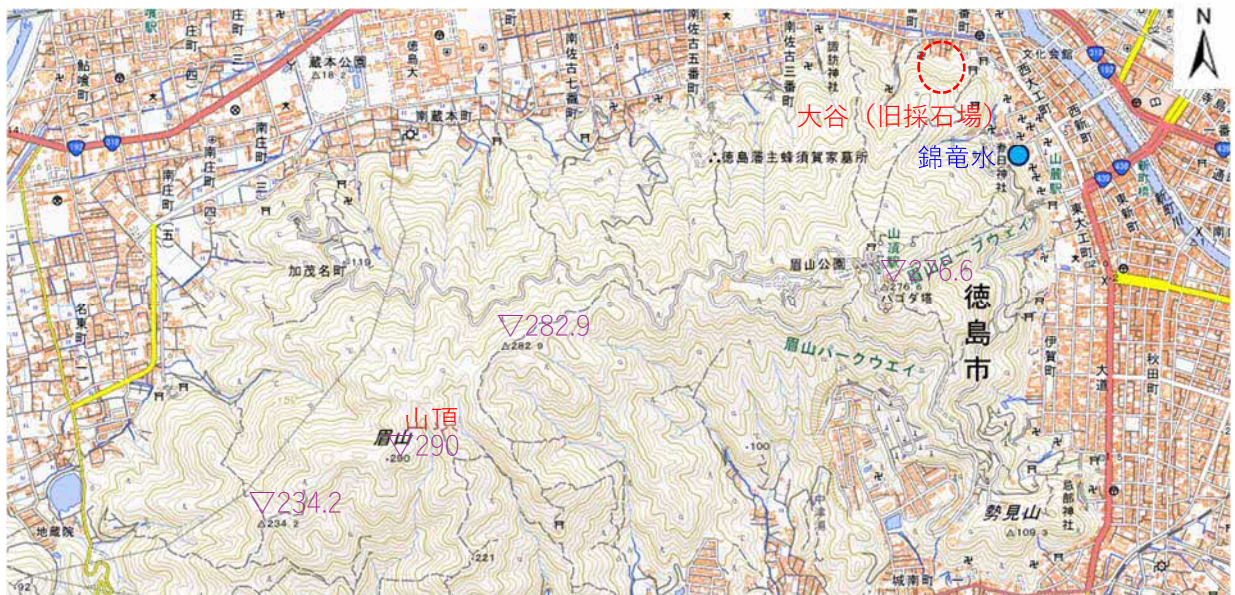
2.1 眉山の地勢

2.1.1 眉山の地勢

徳島市の中心市街地に隣接する眉山は標高 290m の山で、稜線が眉のように東西に延びており眺める場所によって山の表情が変わります。

眉山は三波川変成帯に属し、その地質分布から八万町側の南向き斜面よりも佐古側の北向き傾斜の方が、斜面の傾斜が急勾配になっており、かつては青石（緑泥片岩）の産地として知られ、鉱山もありました。

また、湧き水も多く、眉山の麓の寺町にある錦竜水は、平成 2 年に「名水阿波錦竜水」として、手づくり郷土賞を受賞しています。



出典：国土地理院地図 GSI Maps

図- 2.1.1：眉山の地形図



旧徳島城表御庭園 枯山水に架かる青石橋



錦竜水 殿様が愛した飲料水

出典：徳島市

2.1.2 眉山の植生

眉山は開発された区域以外は、全体が自然林に覆われ、コナラ・クリ・ヤマザクラなどの落葉広葉樹が分布しています。

かつては、アカマツで覆われていましたが、松くい虫被害により枯れてしまい、コナラ等の広葉樹へと移り変わっています。



ヤマガラ

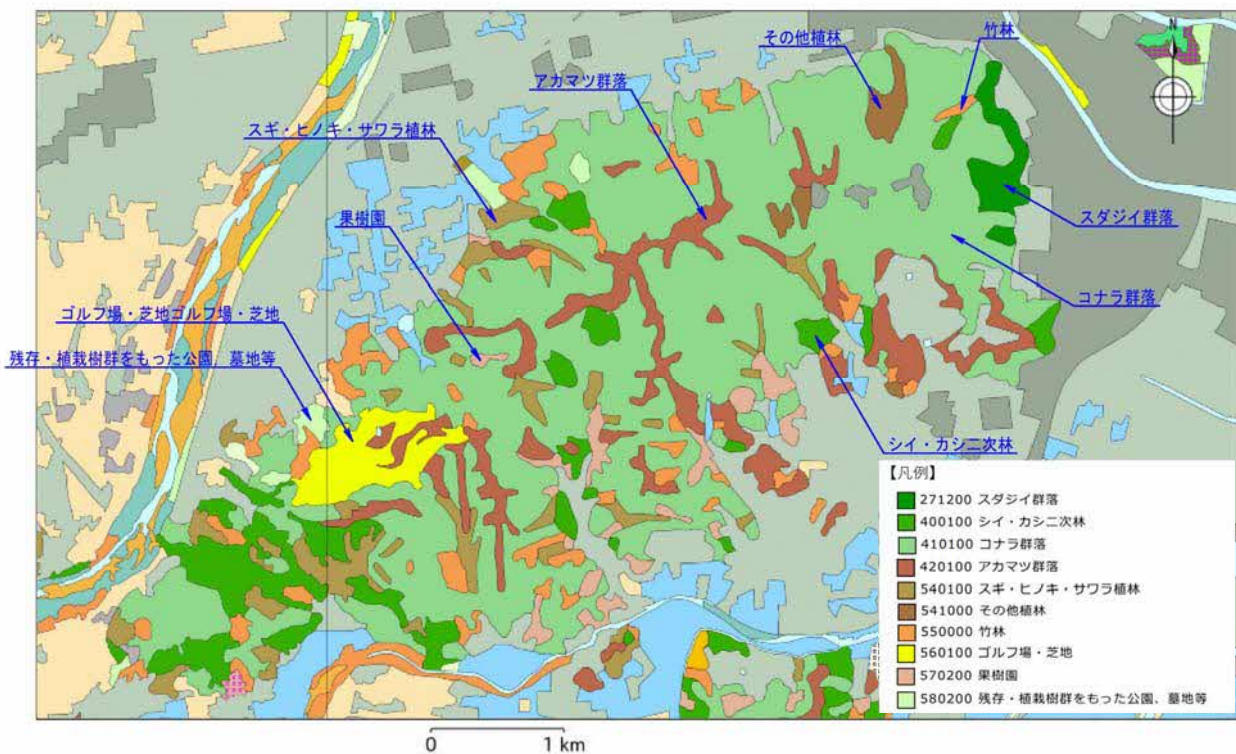
出典：日本野鳥の会 浜井芳明 様 提供



サンコウチョウ

出典：日本野鳥の会 浜井芳明 様 提供

また、眉山には野生動物や昆虫類が多く生息しており、広葉樹主体の自然林で覆われているため、市街地に隣接する立地状況にも関わらず、極めて多種多様な生態系となっています。



出典：1/25,000 植生図 GIS データ(環境省生物多様性センター)を使用し、株式会社エフ設計コンサルタントが作成・加工

図- 2.1.2：植生図

表- 2.1.1：眉山に生息する主な動物

哺乳類		鳥類		
イノシシ	タヌキ	ホオジロ	メジロ	ハイタカ
キツネ	イタチ	ヤマガラ	ホトトギス	ノスリ など
サル	ムササビ など	シジュウカラ	ウグイス	

2.2 眉山の歴史

2.2.1 眉山の名称

眉山は徳島市のほぼ中央に位置し、その雄大な姿から徳島市のシンボルとして広く親しまれています。

その名称は、船王（ふなのおおきみ）が734年3月に詠んだとされる歌「眉のごと雲居に見ゆる阿波の山かけて漕ぐ船泊知らずも」（『万葉集』巻六・雑歌）に由来するとされています。



出典：「阿波名所図会・眉山」徳島城博物館蔵

ただし、「眉山」という名称は、江戸時代中期には学者の間では用いられていましたが、庶民の間では馴染みが薄く、江戸時代後期になってようやく定着したと考えられています。

それ以前は、山麓の地名（富田山、佐古山、八万山等）や、寺社等との関連（大滝山、勢見山、万年山等）の名称で呼ばれていました。

(1) 大滝山

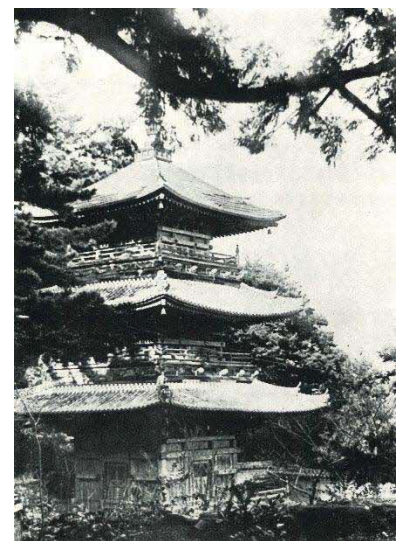
大滝山は眉山東麓に位置する小高い峰と、大滝（白糸の滝）を中心とした山体の総称で、当地に存在した「大瀧山持明院建治寺」の山号がその由来とされています。この寺院は藩祖・蜂須賀家政が、勝瑞の持明院と入田村の建治寺を併せた大刹でしたが、明治維新後は藩の後ろ盾を失い廃滅しました。

明治・大正期になると、大瀧公園として整備され、大門、薬師堂、三重塔などを中心に一大観光地として発展し、山腹の料亭や山麓の焼き餅屋など大いに賑わいました。しかし、昭和20年の徳島大空襲により、三重塔を始め、多くの建物が焼失しました。

戦後、観光道路が開通し、桜の名所として花見栈敷が設置されるなど、賑わいを取り戻しましたが、平成に入ると、レジャーの多様化や桜の古木化などにより、訪れる人が減少し、花見栈敷も姿を消すこととなりました。現在は自然の中に往時を偲ばせる、静謐なエリアとなっています。



出典：林鼓浪筆 徳島城博物館蔵



出典：三重塔（徳島市史編さん室提供）

(2) 勢見山

眉山から南に続く山の南端一帯を指す名称で、現在の西二軒屋町の市街地西側にあたります。

山名は源義経が勝浦に上陸し、自らの軍勢を接見した地の意に由来するとされています。

もとの勢見山は、勝占町の勝占神社にある鉢伏山を言い、元和2年(1616年)に、藩祖蜂須賀家政が勝占神社境内にあった金比羅大権現を徳島城下二軒屋に移し、城下の鎮守とした際、勢見山の山名も当地に移り、元の勢見山は山の形から鉢伏山と改称したとされています。

山中に忌部神社、金比羅神社、北の麓に観音寺があり、山号を勢見山と称しています。また、山頂部には勢見山古墳があります。

(3) 佐古山

眉山の北麓の一角。地誌「阿波志」では、佐古山の大谷(現在の南佐古一番町・二番町)からいわゆる青石を産出し、石工集団が居住していたとされます。

諏訪山の諏訪神社は徳島城の裏鬼門にあたり、藩主蜂須賀家の崇敬厚い神社でした。

(4) 万年山

通称「佐古万年山」とも呼ばれる、眉山山頂から山麓の南佐古四番町に至る、東は清林谷、西は巴蛇谷の間で区画した、面積約16haの山林です。

藩政改革を進めていた10代藩主重喜により、明和3年(1766年)に造営された蜂須賀家の儒式墓所であり、地名の由来は、一族の長寿を願い、万年も変わることなく長く続くことを意図したものとされています。藩主や明治時代の当主など、60人以上が埋葬されており、貴重な大名家の墓所として、平成14年(2002年)に菩提寺の興源寺とともに国の史跡に指定されています。

2.2.2 眉山公園



出典：1934年(昭和9)の地図
「今昔マップ on the web」より作成

徳島市のシンボルである眉山については、過去多くの開発計画が立てられてきました。

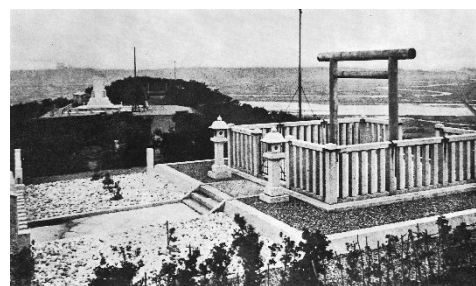
明治44年(1911年)頃に天野亀吉が眉山公園の拡張と山道開発を提唱し、大正2年(1913年)に「眉山公園保勝会」が設立されましたが、これらは主に大滝山周辺や富田山、勢見山などを中心としたものでした。

眉山山頂周辺においては、戦前、神宮皇陵遥拝所（昭和4年）や、明治天皇聖徳景仰碑（昭和7年）が設営されていましたが、戦後、昭和32年12月に市営ロープウェイが開通するなど、観光化が本格化しました。

ロープウェイは徳島産業科学大博覧会（昭和33年開催）の目玉として建設され、ピーク時の昭和45年には約62万人の利用がありました。山頂駅付近には、展望台や売店を始め、放送局中継所、戦没者慰霊のためのパゴダなどが建設されました。

また、眉山ドライブウェイ、眉山パークウェイなどの観光道路がそれぞれ山頂まで開通し、レジャー施設「スカイランド眉山」（昭和45年）や郵政省簡易保養センター（昭和45年）など大型施設が開業、さらに、両施設とロープウェイ山頂駅間を結ぶ市営リフトも架設されるなど、大いに賑わいを見せましたが、その後のレジャーの多様化等により、昭和59年に「スカイランド眉山」が廃業し、かんぼの宿徳島（旧郵政省簡易保養センター）も令和元年に営業を終了しました。

近年は山頂付近の一体的な公園整備が進み、市民の憩いの場として定着しています。また、宿泊施設「天空のスカイビューホテル 眉山海月」が令和6年4月にグランドオープンするなど、今後の観光需要の掘り起こしが期待されています。



出典：神宮皇陵遥拝所（右）・明治天皇聖徳景仰碑（徳島市史編さん室 提供）



出典：石井 敏雄 様 提供
（徳島市立図書館：徳島市の昔の写真）



天空のスカイビューホテル
眉山海月

表- 2.2.1：眉山公園の沿革

明治30年	大滝山、八阪神社の山手側に神武天皇像がつくられる（日清戦争・戦勝記念）
明治39年	忠魂碑の城山山頂への移転に伴い、神武天皇像が現在の位置に移転
明治44年	天野亀吉により眉山公園（大滝山周辺）の拡張が提唱される
大正2年	眉山公園保勝会設立
大正4年	大滝山から瑞巖寺山まで新道開設
昭和4年	御大典記念として山頂に神宮皇陵遥拝所が設営される
昭和6年	眉山公園開拓期成同盟会・結成
昭和7年	教育勅語頒布40周年記念事業として山頂に明治天皇聖徳景仰碑が建立される
昭和15年	眉山を風致地区に指定
昭和30年	八万町から神武天皇像前広場まで観光道路(眉山ドライブウェイ)が完成
昭和32年	徳島産業科学大博覧会開催に伴い眉山頂上へのロープウェイが新設
昭和33年	都市計画公園決定・事業認定を受ける
昭和34年	都市計画事業として山頂付近開発に着手、遊歩道・休憩舎・水呑み台完成
昭和36年	眉山ドライブウェイが山頂まで完成
昭和45年	県共済農協連がレジャー・宿泊施設「スカイランド眉山」をオープン
昭和46年	市交通局が眉山リフトをオープン
昭和46年	西部公園から山頂へ眉山パークウェイが完成
昭和48年	簡易保険郵便年金福祉事業団が簡易宿泊施設をオープン
昭和51年	「モラエス館」開館
昭和59年	「スカイランド眉山」廃業
昭和62年	「スカイランド眉山」跡地を公園として整備
平成8年	簡易保険郵便年金福祉事業団が「かんぽの宿徳島」新築オープン
平成10年	眉山リフト老朽化により廃止
平成27年	「モラエス館」閉館
令和元年	「かんぽの宿徳島」営業終了
令和2年	山頂広場を再整備
令和6年	「天空のスカイビューホテル 眉山海月」グランドオープン

2.3 眉山を取り巻く社会状況

2.3.1 眉山の現状と課題

眉山は、徳島市の中心部にあって古くから多くの市民に親しまれてきた徳島市の象徴と言える山であり、貴重な観光資源であることは誰もが認めるところです。

J R徳島駅の正面に位置し、山頂と麓を結ぶ眉山ロープウェイの麓駅である阿波おどり会館までは徒歩約 10 分という便利な立地にあり、途中には水都とくしまの象徴である新町川や新町商店街などの繁華街もあって、かつては徳島で最も活気にあふれたエリアでした。

しかし、現在では車で移動増加に合わせて商業圏が郊外へと拡大し、大型商業店舗の立地が進んだ結果、市中心部の商業地域では人通りが急激に減少し、これと相まって眉山を訪れる人の数も減少しました。

徳島市のシンボルである眉山の再生を考えるにあたっての現状と課題を以下に整理します。

(1) 人口減少と高齢化

徳島市の人口は平成 12 年（2000 年）に 268,218 人でしたが、令和 2 年（2020 年）には 252,391 人となり約 1.6 万人の減少となっています。今後も人口減少が継続すると令和 22 年（2040 年）には 215,625 人となることを見込まれます。また、総人口が減少する中、65 歳以上の人口は増加で推移し、高齢化率は令和 2 年（2020 年）の 28.1%から令和 22 年（2040 年）には 37.4%になることを見込まれています。

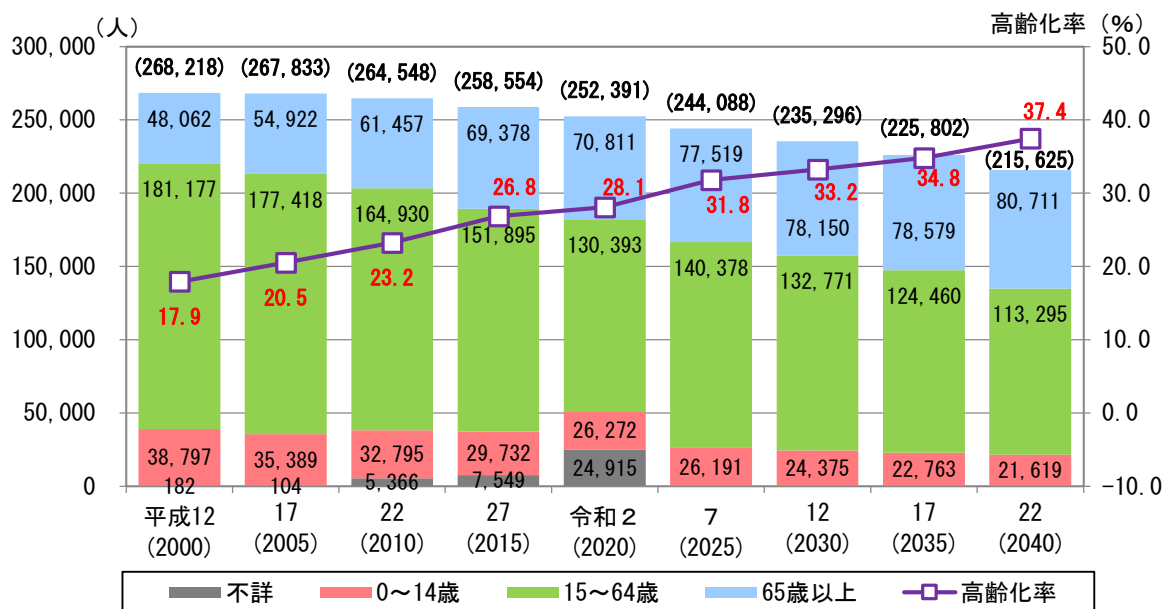
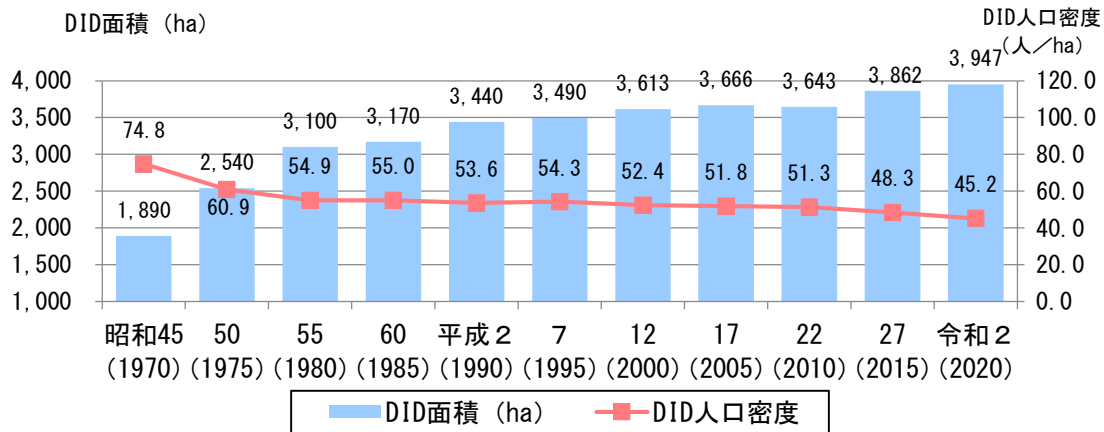


図- 2.3.1：徳島市の人口推移

(2) 市中心部の低密度化

人口集中地区（DID）の面積は、高度経済成長期の昭和45年（1970年）に1,890haであったものが、急速な都市化の波が落ち着いた昭和55年（1980年）には3,100haまで拡大するとともに、DID人口密度は74.8人/haから54.9人/haへと減少し、以降、緩やかに低密度化が進行しています。



出典：徳島市都市計画マスタープラン

図- 2.3.2：人口集中地区（DID）の推移

この中心市街地衰退の象徴とも言えるのが眉山ロープウェイ乗り場に隣接する新町商店街であり、眉山の再生を考える上において中心市街地のにぎわい創出は切り離すことができない課題です。

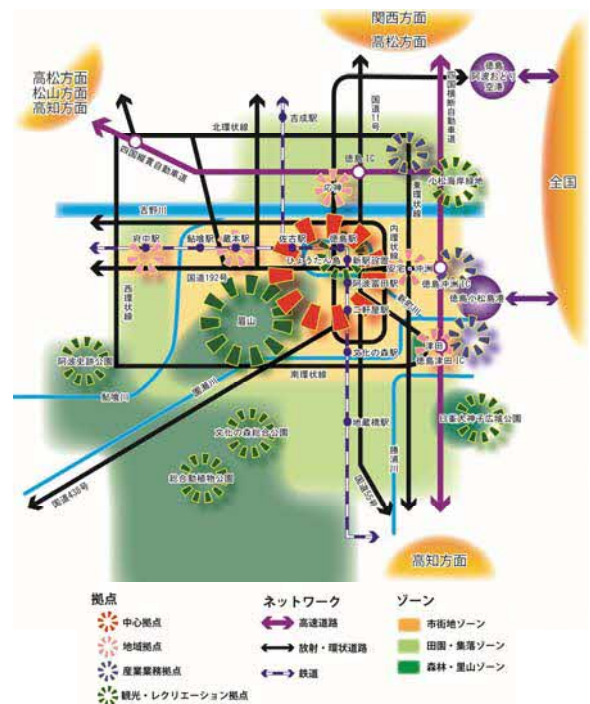
現在進行中の「新町西地区第一種市街地再開発事業」ではホテルや高層マンションの建設が計画されており、中心市街地の活性化に向けた気運が高まっています。

2.3.2 都市計画上の位置づけ

(1) 徳島市都市計画マスタープラン

徳島市都市計画マスタープランは、徳島市が定める都市計画の指針となるものであり、「徳島市総合計画 2021」及び「徳島市国土強靱化地域計画」並びに徳島県が定める「徳島東部都市計画区域マスタープラン」を上位計画とし、他の関係計画と連携・整合を図り定められています。

同マスタープランにおいて眉山は、観光レクリエーション拠点として、美しい自然景観やレクリエーション機能と一体となった、うるおいと安らぎ、楽しみを感じられる機能や市街からの来訪者が楽しめる観光、交流機能が求められています。



出典：徳島市都市計画マスタープラン

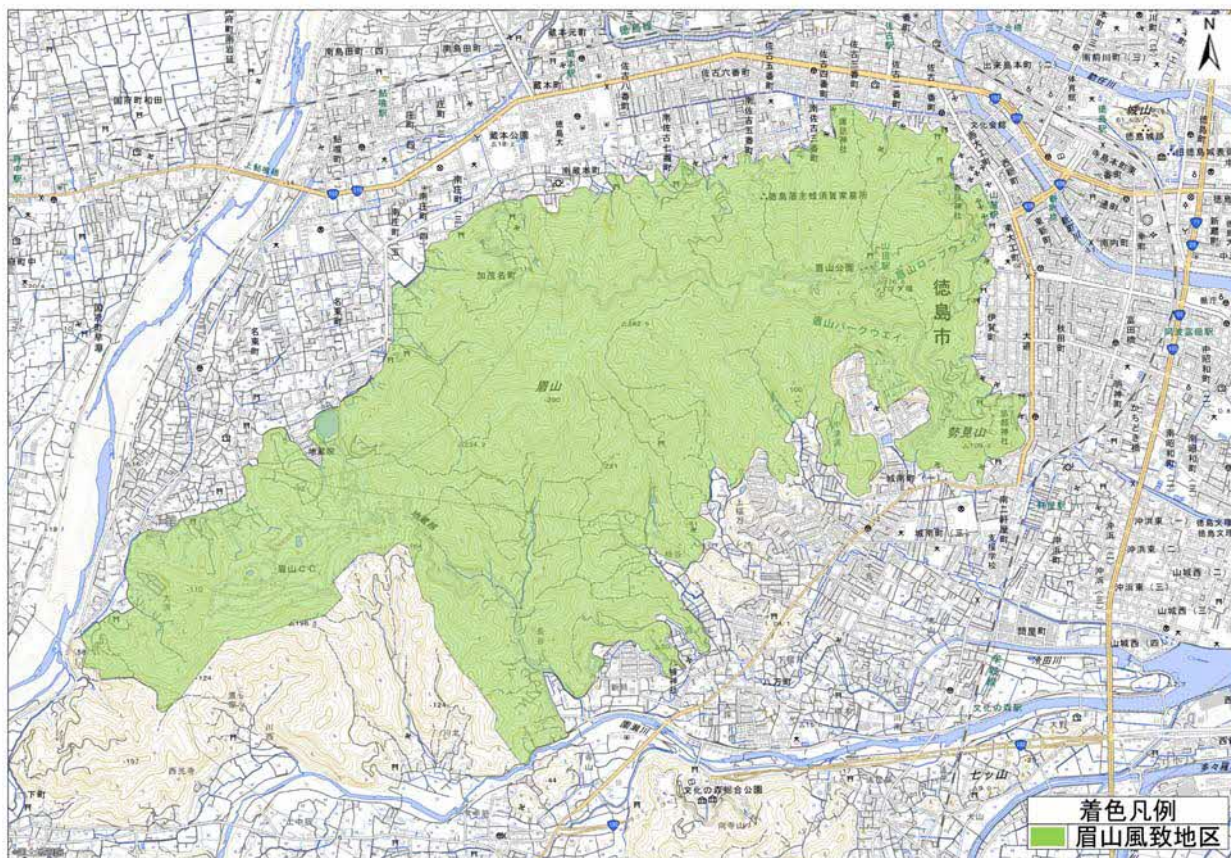
図- 2.3.3：将来都市構造図

(2) 風致地区

風致地区とは、都市の中の風致を維持するために、良好な自然環境を保持している区域、史跡などがある区域、良好な住環境を維持している区域などを都市計画法により都市計画で定めた区域です。

風致地区では、土地の形質変更や建築等について規制がされています。

眉山は、昭和 15 年（1940 年）に風致地区に指定され、昭和 46 年（1971 年）に区域が見直されました。現在、眉山風致地区の面積は約 794ha、中心市街地周辺から名東地区まで東西に広がっています。



出典：徳島市

図- 2.3.4：眉山風致地区位置図

(3) 徳島市中心市街地

徳島市の中心市街地は蜂須賀家政が徳島城を築城し、城下町を築いたことが都市としての始まりです。明治6年(1873年)の廃城令により城は撤去されましたが、その後も徳島の政治・経済の中心地としての歩みを続けています。

中心市街地を流れる新町川沿いでは、毎月最終日曜日に「とくしまマルシェ」が開催され、毎回80店もの徳島県産品を販売するパラソルが軒を連ね多くの人で賑わっています。また、新町川から助任川に囲まれた街の形がひょうたんに似ていることからひょうたん島と親しまれ、この島を一周するひょうたん島周遊船が運行し、川面から街並みや眉山を望むことができます。

徳島市の中心市街地は、眉山に隣接していることから眉山の玄関口とも言え、阿波おどり会館・眉山ロープウェイ発着場は、中心市街地に含まれます。

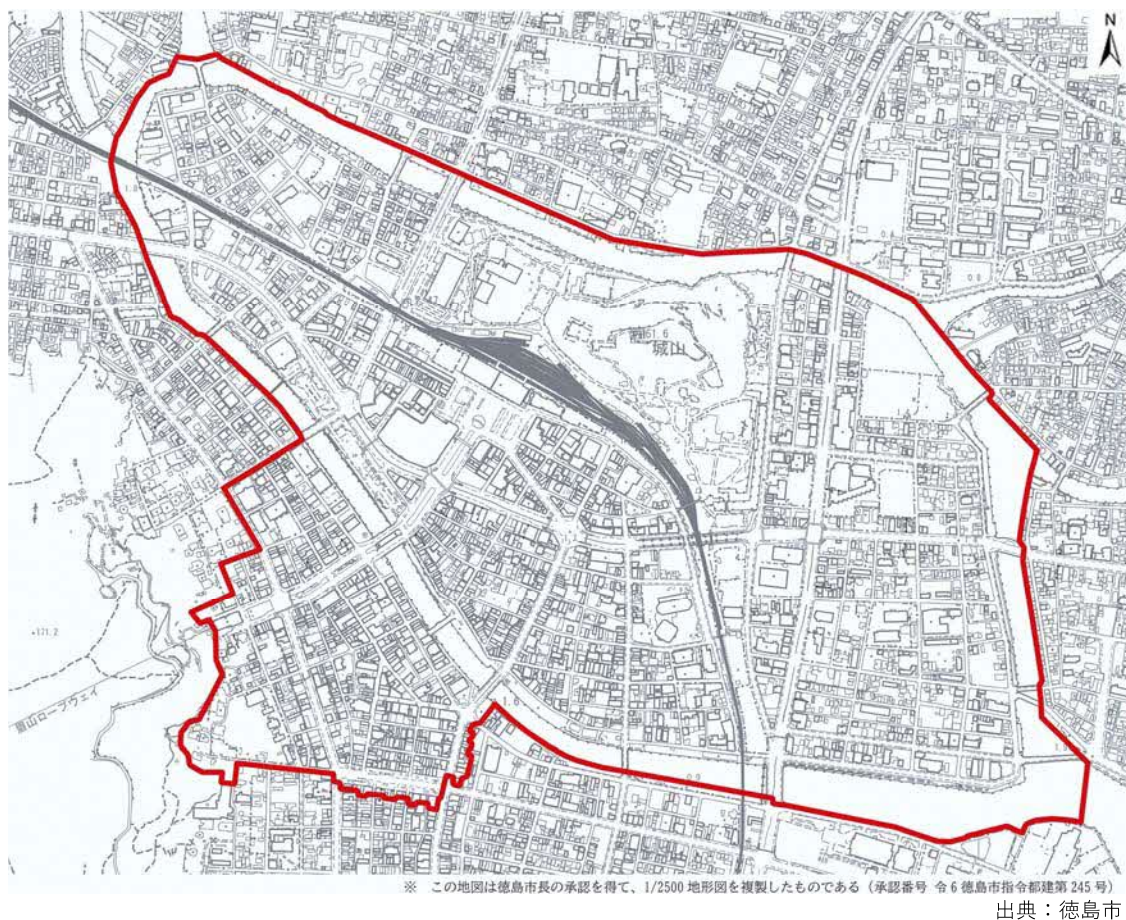


図- 2.3.5：徳島市中心市街地位置図

2.3.3 公共交通

(1) 道路

1) 高速道路

徳島市内には徳島自動車道（鳴門 JCT～川之江東 JCT）の徳島 IC、徳島南部自動車道（阿南 IC～徳島 JCT）の徳島沖洲 IC・徳島津田 IC があり、高松自動車道、神戸淡路鳴門自動車道と連結して高速道路網を形成し、四国の主要都市や京阪神地域とつなぐ重要な役割を果たしています。

2) 国道

徳島市内には、国道 11 号（徳島市～愛媛県松山市）、国道 55 号（徳島市～高知県高知市）、国道 192 号（愛媛県西条市～徳島市）、国道 438 号（徳島市～県中央山岳地経由～香川県坂出市）の 4 路線が通過しており、徳島市はその起・終点となる重要な道路網の拠点となっています。

また、眉山の西側から南側を通る徳島環状道路の建設が進行しています。

3) 眉山道路

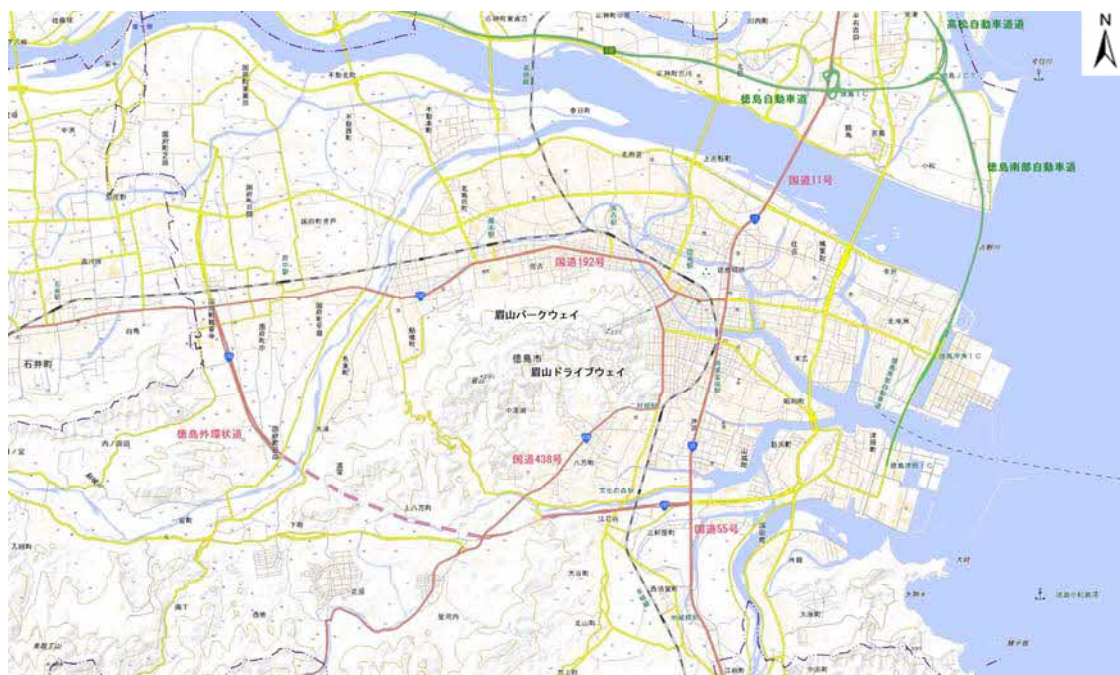
眉山山頂へ向かう道路としては、以下の 2 路線があります。

【眉山・東部観光線（眉山ドライブウェイ）】

国道 438 号からアクセスできる道路で、対向 2 車線で整備されていますが、急カーブや急勾配が続くため運転には注意が必要です。

【眉山・西部観光線（眉山パークウェイ）】

西部公園の園路と連続することで国道 192 号からアクセスできる道路で、眉山ドライブウェイに比べて道路幅員が狭く、森の中を通るくねくねとした道ですが、自然を楽しみながらドライブできます。



出典：国土地理院地図 GSI Maps

図- 2.3.6：眉山周辺道路網図

(2) 公共交通網（広域）

1) 航空交通

徳島の空の玄関口である徳島阿波おどり空港（徳島空港）は、徳島県板野郡松茂町に位置し徳島市の中心市街地から車で約30分の距離にあります。

国内線は、東京（羽田）線に日本航空（JAL）と全日本空輸（ANA）、福岡に日本航空（JAL）が運航しています。

国際線は、令和6年11月16日から香港国際空港便が週3往復、また、令和6年12月26日からは、韓国仁川国際空港便も週3往復が就航しています。

2) 海上交通

徳島市の東は紀伊水道に面し、徳島港とその南に小松島港があり、古くから四国の海上交通の要所となっています。

徳島港は、徳島市に位置し、フェリーが発着します。定期便フェリーは、和歌山港へ南海フェリーが、東京港と新門司港へオーシャン東九フェリーが運航されており、観光客やビジネス客に利用されています。

小松島港は、かつては徳島の海の玄関口として国鉄小松島線が乗り入れていましたが、現在は定期便フェリーの運航はなくなり、主に貨物船が発着する港となっています。

3) 陸上交通

徳島市と市外・県外を接続する公共交通としては、鉄道（JR4路線）と高速バス・路線バスがあります。



出典：徳島市地域交通計画

図- 2.3.7：公共交通網（広域）

(3) 公共交通網（徳島市内）

徳島市内の鉄道は徳島駅を中心に JR 高徳線、JR 鳴門線、JR 徳島線、JR 牟岐線が運行され、路線バスは眉山を取り囲むように徳島市内外を網羅して運行されていますが、徳島駅と眉山山頂を結ぶバス路線は運航されていません。



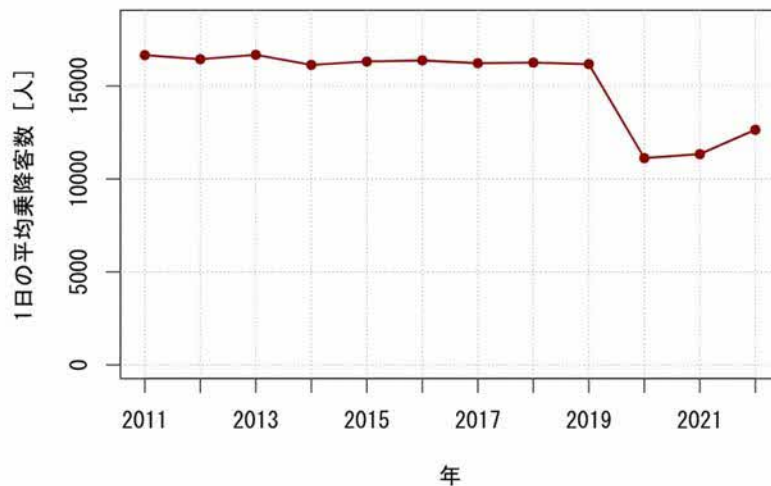
出典：徳島市地域交通計画

図- 2.3.8：公共交通網（徳島市内）

(4) 鉄道利用

眉山の玄関口である J R 徳島駅の乗降客数は令和 4 年（2022 年）12,644 人/日、J R 四国管内の駅において高松駅の 21,850 人/日に次ぐ 2 位となっており、四国における鉄道交通機関の拠点になっています。

令和元年（2019 年）末から始まった新型コロナウイルス感染症により鉄道利用者数は大きく減少しましたが徐々に回復傾向にあります。

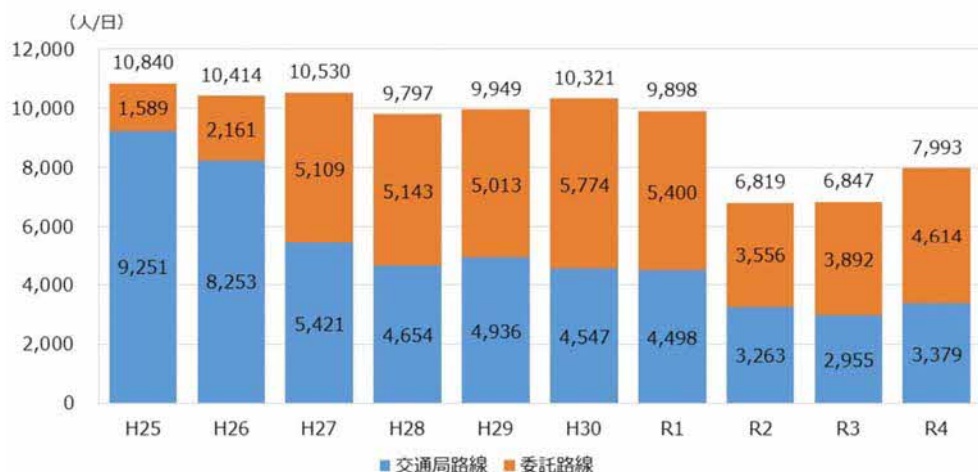


出典：国土数値情報（駅別乗降客数データ）

図- 2.3.9：J R 四国 徳島駅の乗降客数の推移

(5) バス利用

徳島市バス（交通局路線及び委託路線）の利用者数は、平成 25 年（2013 年）から令和元年（2019 年）までは ほぼ横ばいであったものの、令和 2 年（2020 年）及び令和 3 年（2021 年）は新型コロナウイルス感染症の影響で減少し、令和 4 年（2022 年）は若干回復しています。



出典：徳島市地域交通計画

図- 2.3.10：市バス（交通局路線及び委託路線）の利用者数の推移

(6) 眉山ロープウェイ

眉山山頂へ向かうには眉山ロープウェイの利用が便利です。眉山ロープウェイは、昭和 32 年に開業し、平成 11 年に山麓駅である阿波おどり会館の建設に合わせて、ゴンドラも更新されました。

現在、新たにゴンドラの更新及び料金の改定が予定されています。

令和 7 年 4 月 1 日以降の料金は以下のとおりです。

営業時間：4 月から 10 月まで 9:00～21:00

11 月から 3 月まで 9:00～17:30

料 金：大 人 片道 900 円、往復 1,500 円

小学生 片道 500 円、往復 800 円

所要時間：片道約 6 分

2.3.4 観光動向

(1) 徳島市の観光動向

1) 徳島県の観光動向

徳島県内の令和 6 年ゴールデンウィークの入込客数（10,000 人以上）を次表に示します。

表- 2.3.1：令和 6 年ゴールデンウィーク期間中の入込客状況<4/27～5/6>

施 設 名 等		所在地	入込客数(人)
県東部	眉山ロープウェイ	徳島市新町橋 2 丁目	10,891
	阿波おどり会館	徳島市新町橋 2 丁目	8,205
	文化の森総合公園	徳島市八万町	33,351
	とくしま動物園	徳島市渋野町	14,596
	渦の道	鳴門市鳴門町	34,554
	大塚国際美術館	鳴門市鳴門町	37,430
	神山森林公園	名西郡神山町	12,666
	あすたむらんど徳島	板野郡板野町	32,698
県西部	うだつの町並み（資料館等）	美馬市脇町	21,256
	祖谷のかずら橋	三好市西祖谷山村	19,072

出典：徳島県観光政策課 資料

大塚国際美術館、渦の道はいずれも鳴門市の施設であり、高速道路 IC に近く交通の便が良い場所にあり、県外からの観光客や大型バスによる団体利用が多い施設です。

また、文化の森総合公園、あすたむらんど徳島は郊外の大規模な無料駐車場を有する施設であり、利用者としては近隣住民が日常的に訪れる割合の高い施設です。

これに対して、県西部に位置するうだつの町並み、祖谷のかずら橋は、交通の便が良いとは言えませんが、自然・歴史・文化の魅力あふれる観光地であり、近年では海外からの観光客にも人気のスポットです。

2) 低山登山ブーム

健康志向の高まりに加え、コロナ禍には密を避けて自然と触れ合える場所として、低山が注目されました。これにより、これまで山に興味がなかった人たちも低山登山を始めるようになっていきます。

眉山には、美しい景色、地域の文化との触れ合い、動植物の観察など、趣味を広げる要素が満載であり、その魅力はNHKのテレビ番組「にっぽん百低山」でも紹介されました。

3) 宿泊施設の誘致

眉山山頂の旧かんぼの宿（徳島）は令和元年12月から閉館していましたが、海月館グループが買い取り、傘下のホテルとして生まれかわり、令和6年4月にグランドオープンしました。その他にも徳島市周辺地域では、新しい宿泊施設の建設が進んでおり、地域の観光業を支える基盤が拡大しつつあります。

(2) 広域観光動向

1) 四国の観光客数

2023年度の四国全体の観光客数は約1,336万人で、前年と比べて9.8%増加し、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2019年度と比較すると、四国全体で95.3%まで回復しています。

観光客数の増加には、国際線の運航再開やクルーズ船の寄港増加、円安による訪日客の増加などが影響しています。

各県の内訳は以下のとおりです（観光経済新聞より）。

徳島県: 291万人（5.2%増）

香川県: 468万人（7.9%増）

愛媛県: 371万人（10.7%増）

高知県: 206万人（20.1%増）

四国4県では、1位：香川県、2位：愛媛県、3位：徳島県となっており、関西圏に最も近いという地の利が観光業においては、十分に活かせていない状況が伺われます。

(3) その他社会的状況

1) 自然環境の変化

【気候変動に伴う影響の深刻化】

世界の年平均気温は様々な変動を繰り返しながら、長期的には100年あたり0.77℃の割合で上昇しており、国は2050年までにカーボンニュートラル達成を目指しています。

徳島県でも、気候変動の影響が以下に示すように現実のものとして現れています。

- ・ 豪雨や台風の頻発: 徳島県では、豪雨や大型台風の頻度が増加しており、これに伴う洪水や土砂災害のリスクが高まっています。
- ・ 農水産物への影響: 気温の上昇や異常気象により、農作物や水産物の生産に影響が出ています。特に、柑橘類や米の品質低下が懸念されています。
- ・ 熱中症患者の増加: 夏季の気温上昇により、熱中症患者が増加しています。特に高齢者や子どもへの影響が懸念されます。

【南海トラフ地震に対する危機感の上昇】

近年、全国各地で大規模地震が頻発し、令和6年8月8日には「南海トラフ地震臨時情報」が発令され、南海トラフ地震の発生がより現実味をもって感じるようになっていきます。

2) 社会経済環境の変化

【大阪・関西万博の開催】

2025年に開催される大阪・関西万博は、徳島市にとってインバウンドの地方誘客や観光消費拡大の大きな機会であり、徳島市においても万博会場において、本場徳島の阿波おどりを披露するなど、万博に訪れた国内外の方々に徳島市の魅力を発信し、関西を訪れる方々への徳島市への誘客促進を図っています。

【インバウンド観光の促進】

インバウンド観光の促進は、経済活性化に不可欠であり、徳島市の自然豊かな観光地や伝統文化を外国人向けにプロモーションするために、多言語観光案内や受入環境整備を行っています。特に阿波おどりなどの伝統芸能や文化体験を通じて徳島市の魅力をPRしています。

また、インバウンド需要の高まりとともに、国内旅行者の旅行形態の変化もある中、団体ツアーの有名観光地訪問だけでなく、地方の文化や地域の方々との交流を深める体験、個人での高付加価値な旅行を求める傾向が強まっており、地域のインバウンド観光をさらに促進する機会となっています。

【ウェルビーイング志向の高まり】

ウェルビーイング (well-being) は、身体的、精神的、社会的に良好な状態を指します。これは一時的な幸福感ではなく、持続的な満足感や充実感を意味します。

ウェルビーイング志向の高まりは、個人の幸福だけでなく、社会全体の持続可能な発展にも寄与する重要な概念であり、それを醸成するための生活空間を創造することが、社会資本整備にはこれまで以上に求められています。

3) 技術革新

観光業における技術革新は、観光体験の質を向上させるだけでなく、業界全体の効率化や持続可能性の向上にも寄与しています。

【デジタルトランスフォーメーション (DX)】

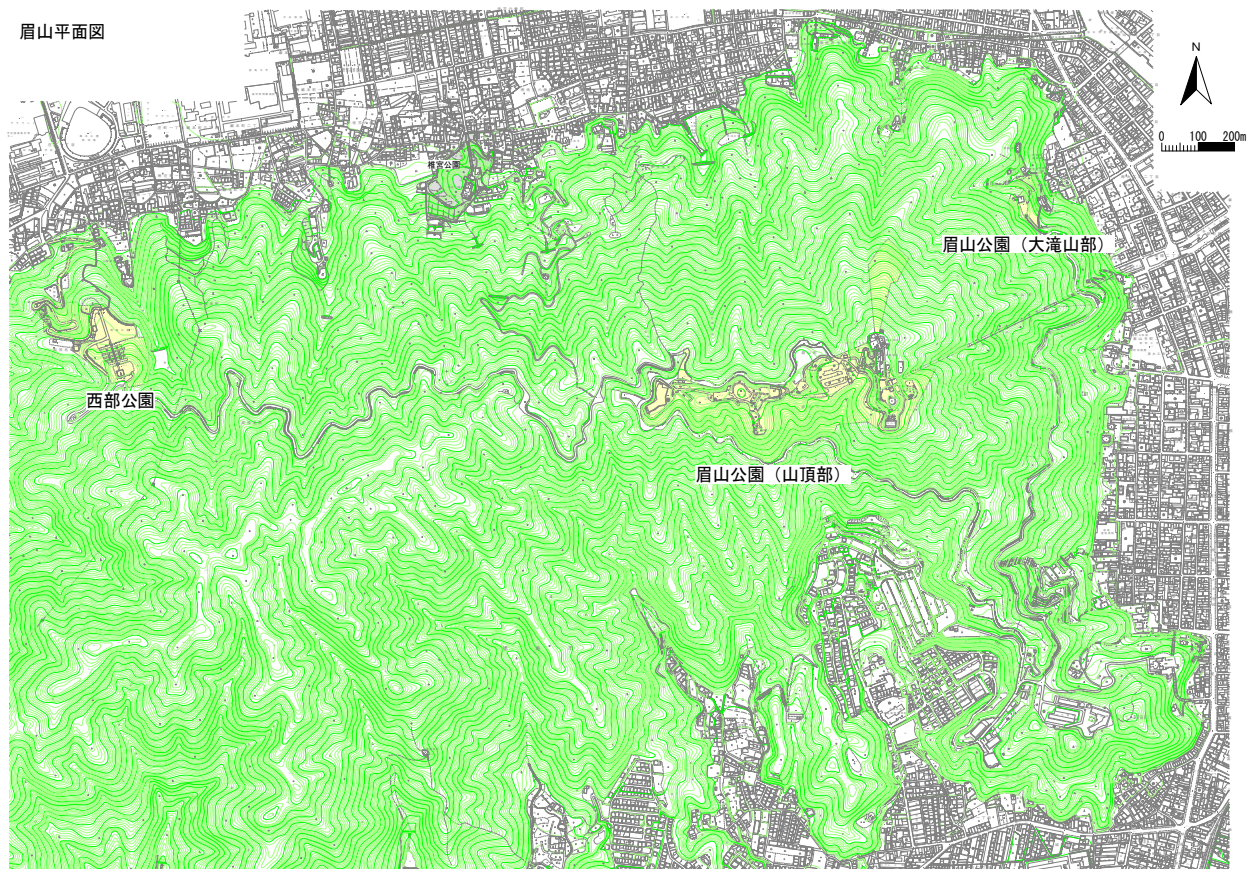
観光業界では、デジタル技術を活用したデジタルトランスフォーメーション (DX) が進んでいます。これにより、観光客の利便性が向上し、観光地の管理やマーケティングが効率化されています。例えば、オンライン予約システムやデジタルチケット、混雑状況のリアルタイム表示などが導入されています。

【ビッグデータとAIの活用】

ビッグデータと人工知能 (AI) の活用により、観光客の行動パターンや嗜好を分析し、個別化されたサービスを提供することが可能になっています。これにより、観光客の満足度が向上し、リピーターの増加が期待されます。

2.4 眉山の現状（ハード）

眉山にある公園、道路、その他施設を以下に示します。

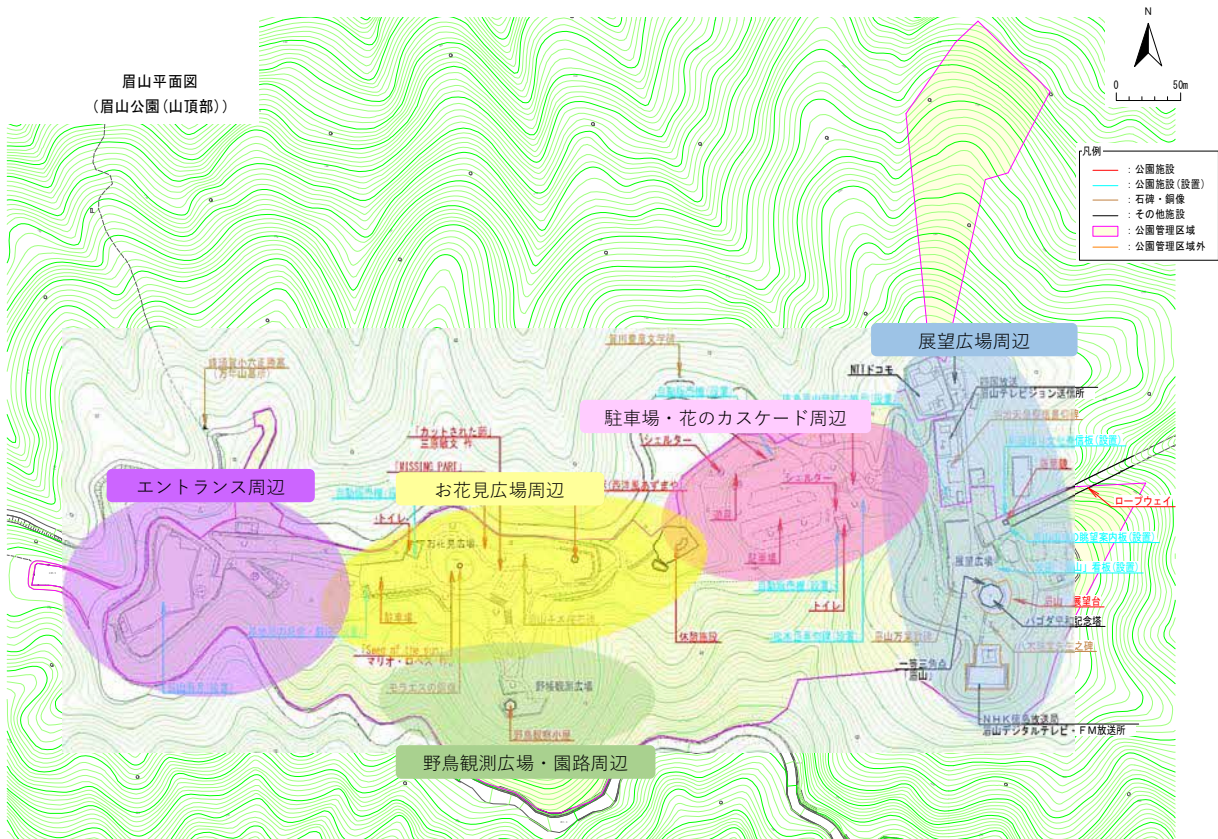


出典：徳島県 DM 地図データ

図- 2.4.1：眉山平面図

2.4.1 眉山公園

(1) 山頂部



出典：徳島県 DM 地図データ

図- 2.4.2：眉山公園平面図（山頂部）

1) 展望広場周辺

東側の展望広場には、眉山ロープウェイの発着場、眉華鏡、パゴダ平和記念塔、展望台があります。

展望台からは、徳島市中心市街地が一望でき、その向こうに吉野川や阿讃山脈、大鳴門橋などを望むことができます。夜には徳島市中心市街地の夜景を楽しむことができるスポットとなっており、夜景 100 選(新日本三大夜景・夜景 100 選事務局)に選ばれています。



眉山山頂から中心市街地を望む（夜景）

出典：Fun!Fun!とくしま

2) 駐車場・花のカスケード周辺

駐車場は、入口に公園名を示した石銘板が設置されており、100台駐車可能な駐車場が整備されています。

駐車場に隣接し、パーゴラや遊具が設置されています。

花のカスケードは、四季折々の花が幾重にも織りなすカスケードが公園を訪れる人々を優しく迎え、心を和ませてくれます。

駐車場は、すり鉢状の地形となっており、展望広場との高低差は約30mあります。



駐車場・花のカスケード

3) お花見広場周辺

お花見広場の東側には、徳島市と姉妹都市縁組をしているアメリカ合衆国のサギノー市から、徳島市制100周年を記念して寄贈されたガゼボが建てられています。

ガゼボは、アメリカで人気の高い古典的建築様式を活かした木製の洋風あずまやで、屋根は杉板ぶき、頂部の円形ドームには風見鶏が取り付けられています。

高台に建てられているため、南北を見渡すことができます。



ガゼボ



モラエス像

お花見広場の中央には、ポルトガルの海軍士官・外交官で文人のモラエス（1854～1929）が故郷ポルトガルの方角を見つめている銅像が建てられています。

モラエス像を囲むように園路が整備され、その周辺には桜が植樹されています。

桜の季節には、多くの人で賑わっています。

4) 野鳥観測広場・園路周辺

お花見広場から少し南側へ下ったところに、野鳥観測広場・園路があります。眉山は、風致地区であり、全山にわたりほぼ自然林で覆われています。



野鳥観測小屋



野鳥に関する説明板

5) エントランス周辺

西側には、24台駐車可能な駐車場が整備され、その更に西側に天空のスカイビューホテル 眉山海月があります。



天空のスカイビューホテル
眉山海月

(2) 大滝山周辺（眉山公園（大滝山部））

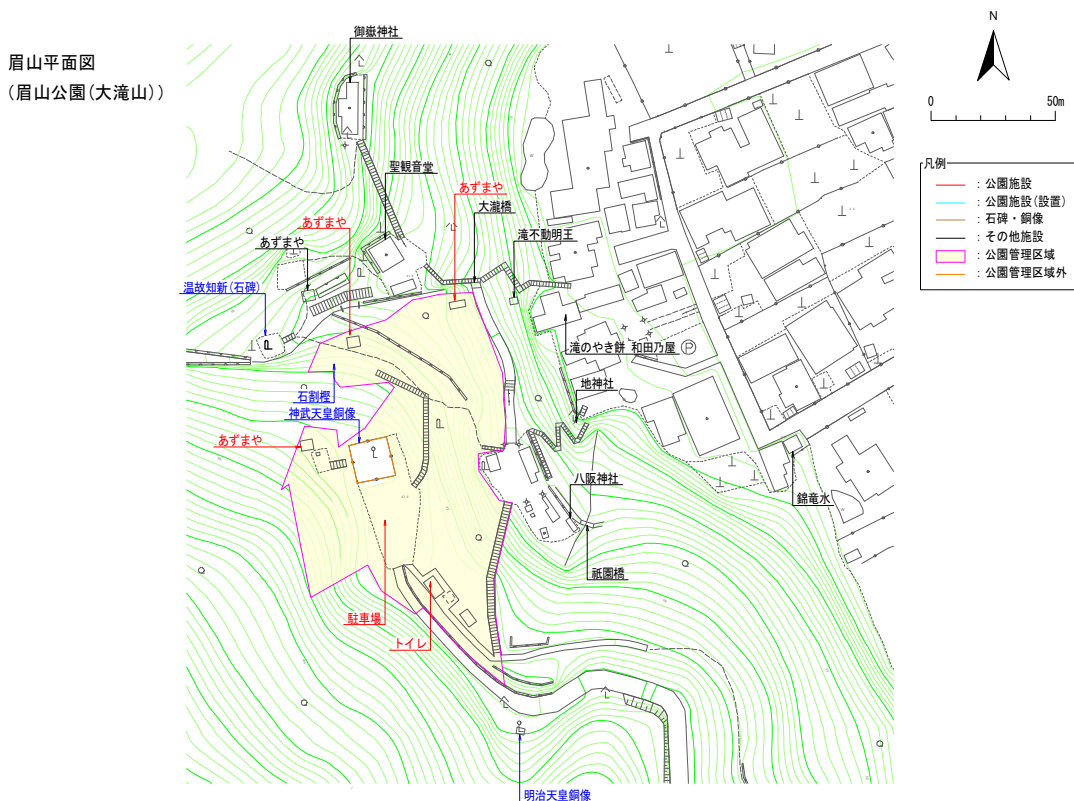


図- 2.4.3：大滝山周辺平面図

眉山公園は、山頂部だけではなく、眉山東側の中腹から寺町にかけて大滝山の一部も眉山公園となっています。

公園部内には、神武天皇像前広場、トイレ、休憩施設があります。公園外施設としては、神武天皇銅像、聖観音堂や八坂神社などがあり、歴史や文化を体感できる桜の名所として知られ、大滝山に至る道路や登山道は、散歩やジョギングといった日常利用の方が非常に多いのも特徴です。

滝薬師の脇の参道を進み、「滝のやき餅 和田乃屋」の右手の階段を上ると、白糸の滝を見ることができます。

白糸の滝のある大滝山界限は「とくしま市民遺産」の一つに選ばれています。



神武天皇銅像



聖観音堂

2.4.2 阿波おどり会館・眉山ロープウェイ

JR 徳島駅から徒歩 10 分、眉山の麓に阿波おどり会館があります。

阿波おどり会館は「いつでも楽しめる阿波おどり」をコンセプトに、阿波おどり関連の展示、阿波おどりの公演を行う施設です。

また、眉山ロープウェイは、阿波おどり会館から発着し、眉山に上る車以外の交通手段として利用されています。

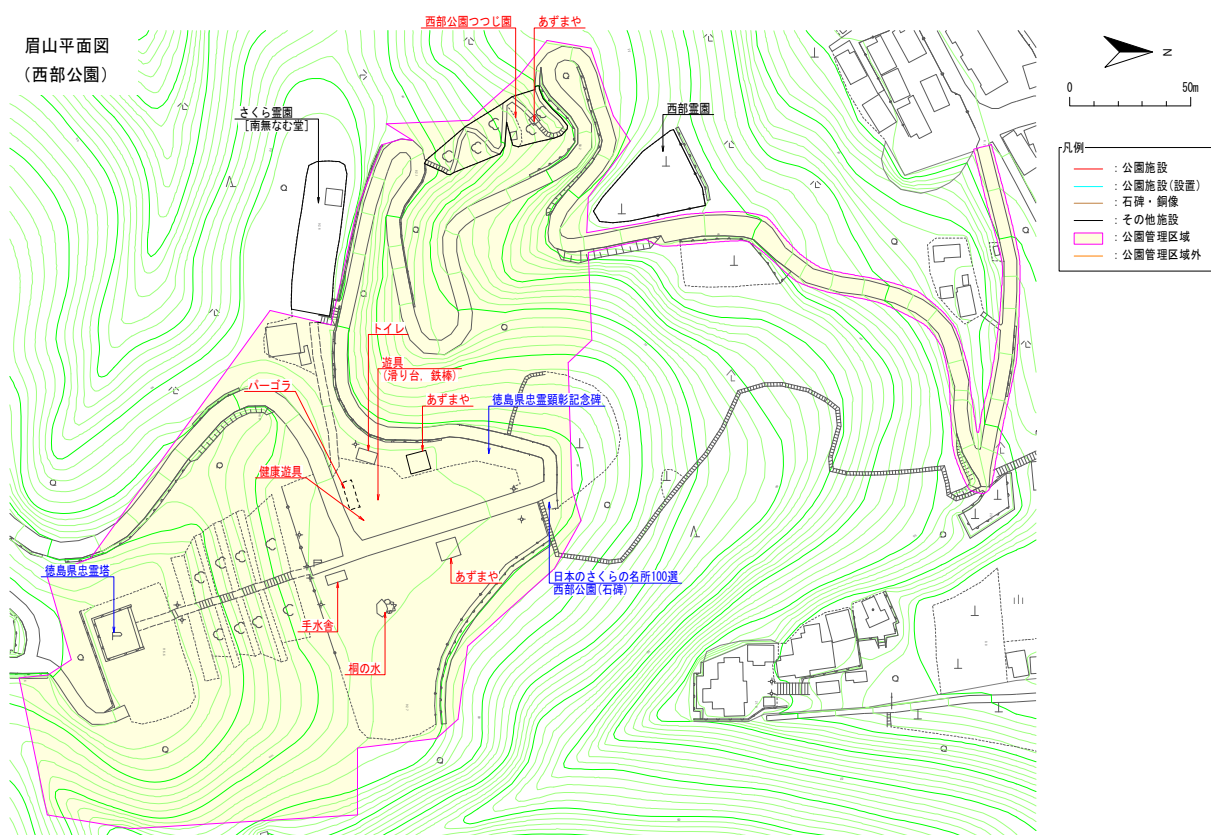


眉山ロープウェイ



阿波おどり会館

2.4.3 西部公園



出典：徳島県 DM 地図データ

図- 2.4.4：西部公園平面図

西部公園は、眉山北西部の中腹に位置し、自然の中の公園として四季を通して市民に親しまれている公園となっています。

西部公園がある場所には、もともと陸軍の戦没者の墓地（陸軍墓地）があり、その陸軍墓地に関する史料が徳島県忠霊顕彰記念碑として石碑に刻まれています。また、戦没者の霊を悼むために忠霊塔が建てられています。

日常的には、ウォーキングや野外レクリエーションの場として利用されており、日本さくらの名所100選に選ばれたこの公園は、春には約500本のソメイヨシノが咲き誇り、県内有数のお花見の名所として大勢の人々で賑わいます。

公園内には、遊具、休憩施設、駐車場などがあります。



公園内の桜



桐の水

2.4.4 眉山の道路

眉山公園（山頂部）へ至るアクセス道路は2路線、眉山東部の中腹に位置する眉山公園（大滝山部）へ向かう1路線があります。

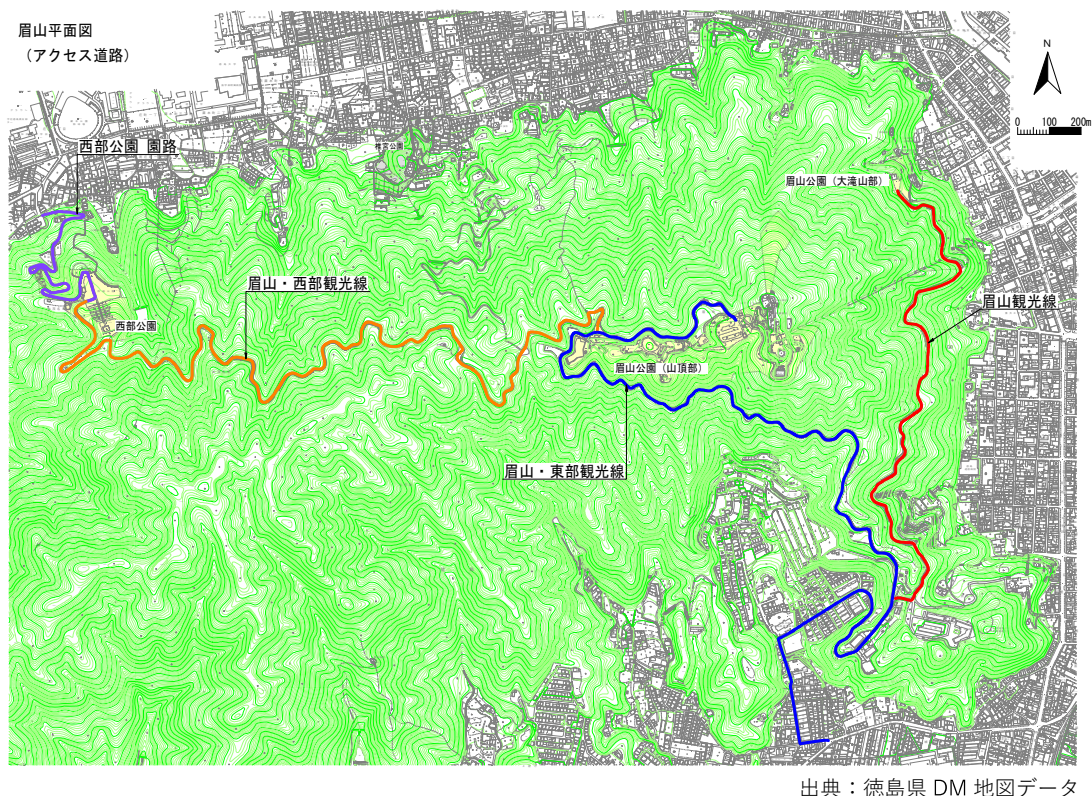


図- 2.4.5：眉山道路網図

(1) 眉山・西部観光線+西部公園園路

北部から眉山公園（山頂部）へ至るアクセス道路は、南庄町2丁目から向かうルートで、西部公園の園路と眉山・西部観光線から構成されており、眉山パークウェイと呼ばれています。

眉山・西部観光線は、道路延長約3.3km、道路幅員5.0m以上（局所的に5.0m未満あり）となっており、1.5車線的な整備となっています。

西部公園の園路部は、園路延長約1.1km、園路幅員5.0m以上（局所的に5.0m未満あり）となっています。

本路線は、小半径のカーブ区間が連続し、乗用車の対向が困難な区間も多くあります。

日常的には、歩行者・自転車の利用が多い路線となっています。



眉山・西部観光線



西部公園園路

(2) 眉山・東部観光線

南部から眉山山頂へ至るアクセス道路は、城南町1丁目から向かう眉山・東部観光線で、眉山ドライブウェイと呼ばれ、かつては有料道路でしたが、平成11年6月に無料開放されています。

眉山・東部観光線は、道路延長約3.9km、道路幅員7.5m以上となっており、全線2車線整備がされています。

本路線は、小半径のカーブ区間では、車線幅員が十分に確保されていない箇所があり、観光バス等が通行する際には、幅員をはみ出し走行している状況にあります。

日常的には、眉山山頂や眉山海月へ向かう車両、歩行者・自転車の利用が多い路線となっています。



眉山・東部観光線

(3) 眉山観光線

眉山観光線は、眉山・東部観光線から眉山の東部の中腹に位置する大滝山へ至る路線として整備されています。

眉山観光線は、道路延長約1.8km、道路幅員4.0m以上（局所的に4.0m未満あり）であり、小半径のカーブ区間が連続することから、小型自動車の対向が困難な区間も多々あります。

日常的には、歩行者の利用が多い路線となっています。



眉山観光線

【樹木の繁茂】

1974年～1978年の航空写真では、眉山山頂部及びアクセス道路は周囲が開けており、眺望及び車両の通行空間が確保されていたと思われませんが、2009年の航空写真では、樹木が繁茂し道路にせり出していることが分かります。



出典：国土地理院地図 GSI Maps
航空写真 1974年～1978年

図- 2.4.6：眉山山頂部 アクセス道路（航空写真 1974年～1978年）



出典：国土地理院地図 GSI Maps
航空写真 2009年

図- 2.4.7：眉山山頂部 アクセス道路（航空写真 2009年）

2.4.5 登山道

眉山は、山頂部に至る登山道が複数あり、多くの方に利用されています。

登山道は、大半のルートが私有地となっていることから、その利活用が課題となっています。



登山道入口

2.4.6 眉山の誘導標識・サイン

眉山への誘導標示は、主要道路に設置されていますが、標示に統一性がなく分かりづらいものとなっています。また、設置箇所が少ないため、観光客等には分かりにくい現状となっています。

【標示に統一性がない】



【分かりづらい誘導標示・サイン・標示なし】

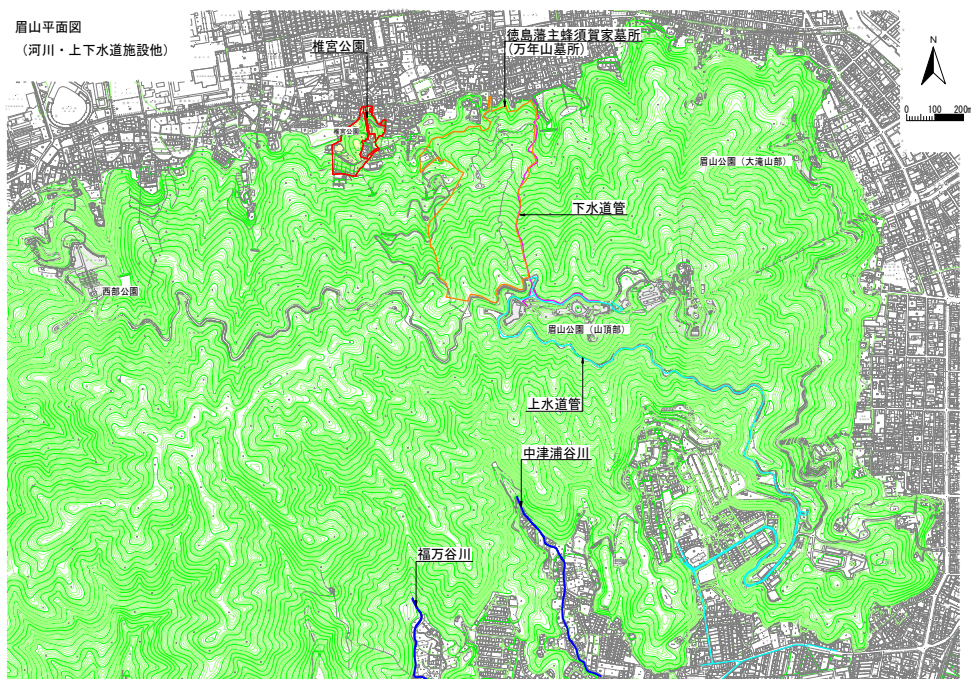


【木がせり出して案内標識が見えない】



2.4.7 その他の公共施設

眉山には、その他の公共施設として、椎宮公園、万年山墓所、上下水道設備、砂防設備等が挙げられます。

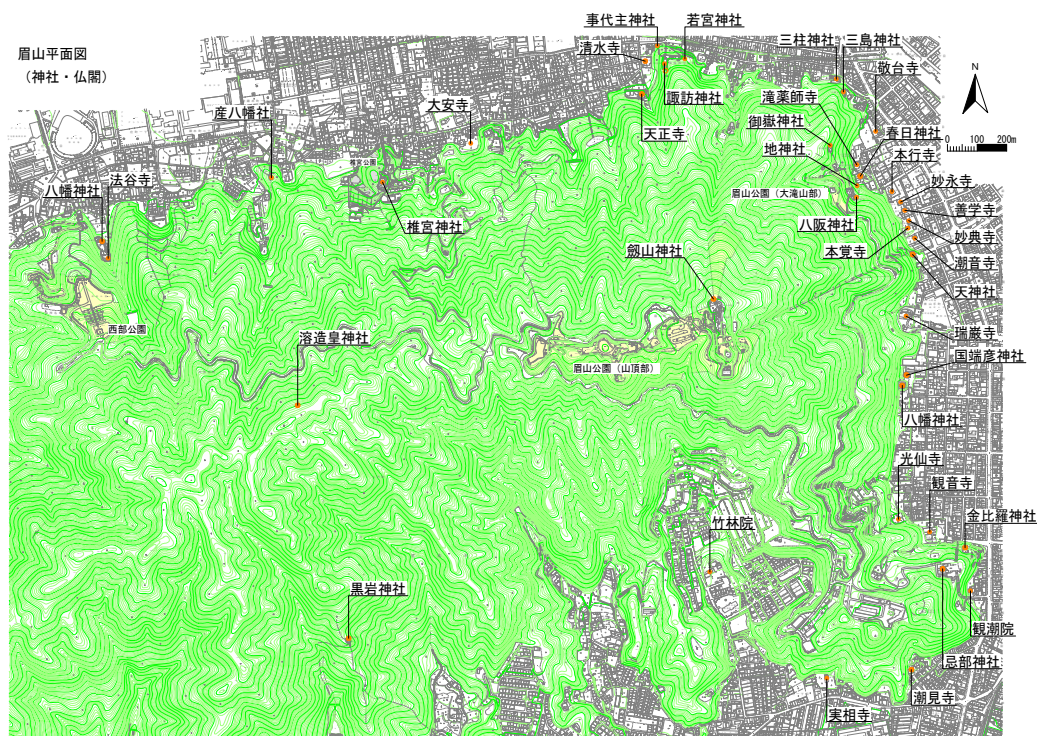


出典：徳島県 DM 地図データ

図- 2.4.8：その他の公共施設位置図

2.4.8 社寺等

眉山山麓には、社寺仏閣が非常に多く、徳島の歴史や文化を感じることができます。



出典：徳島県 DM 地図データ

図- 2.4.9：社寺仏閣位置図

2.5 眉山の現状（ソフト）

2.5.1 眉山で行われているイベント

眉山公園では、令和3年度から令和5年度の間に水都祭花火、眉山クリーンハイク等が開催されており、テレビ番組撮影でも眉山が紹介されています。

表- 2.5.1：眉山公園（山頂部）で行われたイベントや活用例

年度	イベント	その他 活用例
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・花火(3件) ・眉山クリーンハイク 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ番組撮影(2件) ・VR動画の撮影(経産省補助事業) ・クリニックプロモーション動画 ・ドローン番組撮影(4件)
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・花火(2件)・マチ★アソビ ・やまなみウォークラリー ・隊員記念イベント(海上自衛隊) ・眉山クリーンハイク ・パゴダイイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ番組撮影(6件) ・ドローン撮影 ・徳島県魅力発信PR動画(2件)
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・無料のYOGAイベント(2件) ・初登山クリーンハイキング ・隊員記念イベント(海上自衛隊) ・やまなみウォークラリー ・花火(2件) ・眉山クリーンハイク 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ番組撮影(4件) ・観光動画の撮影



マチ★アソビ



お月見ヨガ



クリーンハイク



水都祭花火

2.5.2 眉山観光情報

眉山の観光情報としては、ガイドブックやホームページで眉山が紹介されています。

徳島市観光ガイドブックでは、他の施設との動線的な連携を高めるようなルート案内、施設案内がされています。

あわわWEB等のWEB媒体では、眉山付近の各名所が紹介され、どのような形で眉山を楽しむかが提示されています。



出典：徳島市観光ガイドブック



出典：あわわWEB（眉山紹介）

2.5.3 眉山を舞台とした作品

眉山を舞台とした文学作品として、「眉山（さだまさし著）」、「眉山（森内俊雄著）」が挙げられます。

「眉山（さだまさし著）」は、東京で働く娘と徳島で暮らす余命僅かな母との愛が感じられる長編小説で、その小説を原作とした映画「眉山-びざん-」は、2007年に公開されました。

「眉山（森内俊雄著）」は、著者が幼いころに徳島大空襲にあった際、眉山に逃げ込んだ体験談を描いた作品で、芥川賞候補となりました。



眉山（さだまさし著）

2.6 眉山の利用実態調査

眉山公園の年間総利用者数を算出するにあたり、各種利用者数の調査を実施しました。

調査は、眉山公園（山頂部）に定点カメラを設置し、2日間の利用者数を把握するとともに、阿波おどり会館、眉山ロープウェイ、眉山海月に利用者数の聞き取り調査を行いました。

2.6.1 眉山公園（山頂部）の来園者数

(1) 阿波おどり会館・眉山ロープウェイの利用者数

コロナ禍で利用者数が大きく落ち込んでいましたが、まん延防止等重点措置期間以降は徐々に利用者数は回復しています。

令和5年度の数値を見ると、阿波おどり会館に訪れた人の内、約5.7人に1人がロープウェイを利用していることが分かります。

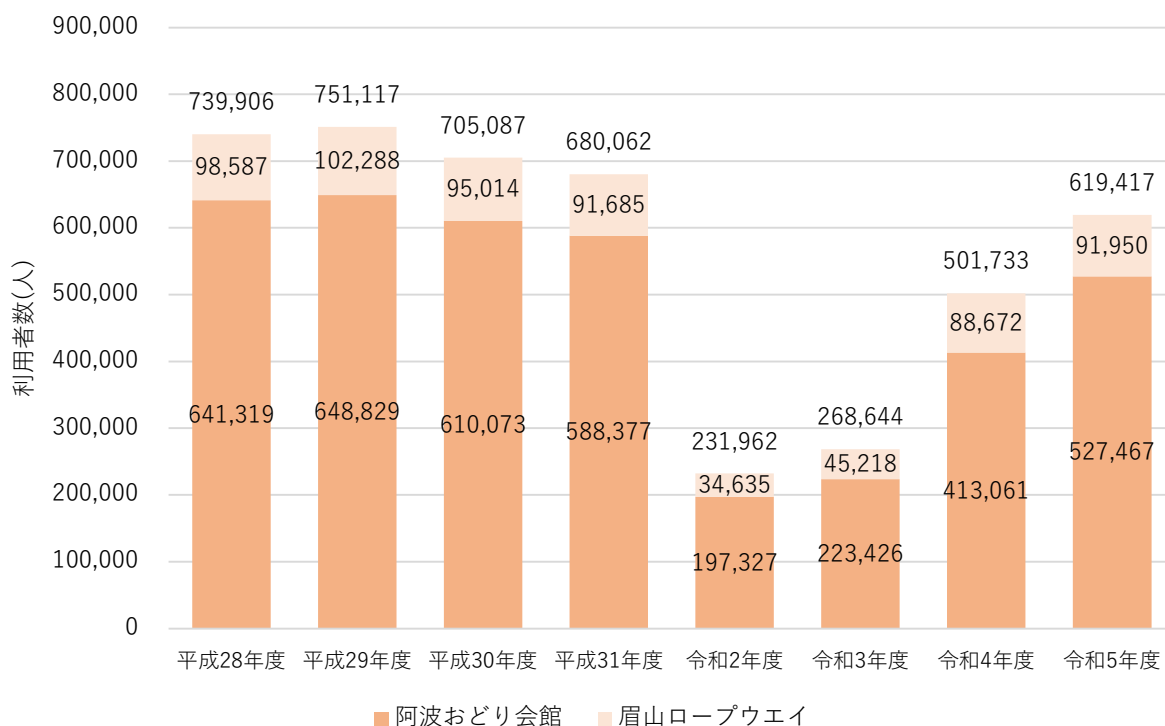
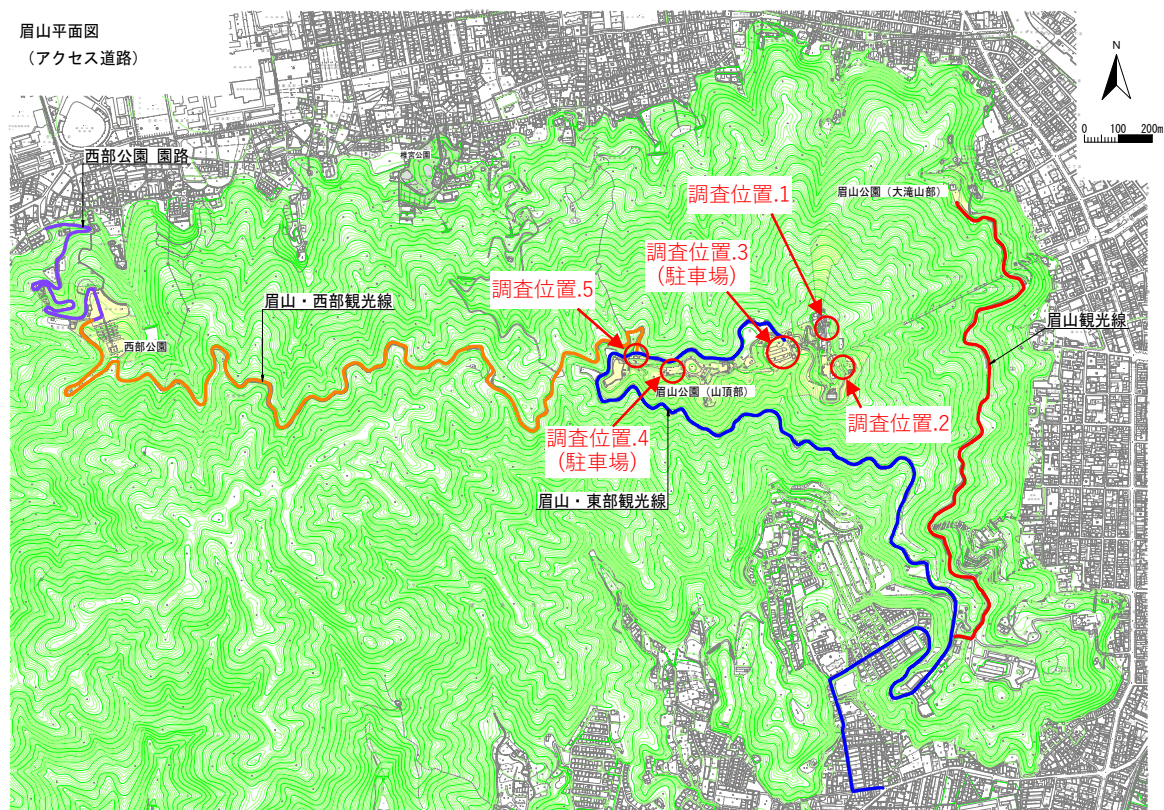


図- 2.6.1：年間利用者数（阿波おどり会館、眉山ロープウェイ）

(2) 眉山公園（山頂部）の利用実態調査

1) 調査位置

眉山公園（山頂部）には多くの人が様々な移動手段で来園しているため、平日と休日の各1日、定点カメラ5台を設置し、現地の人流調査を実施しました。



出典：徳島県 DM 地図データ

図- 2.6.2：調査位置図

2) 調査日

表- 2.6.1：調査日程

	平日	休日
調査日	令和6年12月5日(木)	令和6年12月8日(日)
調査時間	0時～24時	0時～24時
天候	晴れ	早朝雨、午前9時以降は晴れ
観測地	眉山公園 5箇所	眉山公園 5箇所

3) 調査結果

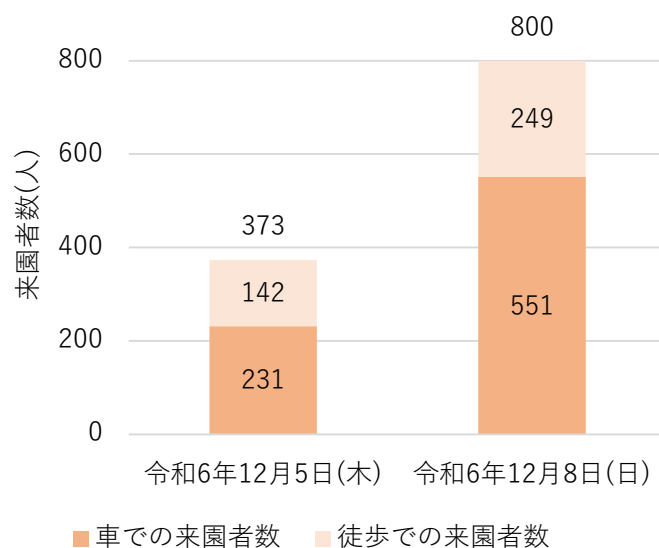


図- 2.6.3：平日、休日の車と徒歩での来園者数

(3) 眉山海月の利用者数

令和6年4月のリニューアルオープン以降、宿泊者数も増加傾向にあり、年間利用者数は2.4万人を見込んでいます。(※令和7年1月から3月の数値は見込み)

(4) 人流分析ツール

ドコモGPSのデータを活用した人流分析ツールDatawise Area Marketerのデータを活用し、季節、天候の違いを加味した眉山公園の利用者数の推移を分析しました。

(5) 眉山公園（山頂部）の利用者数

これらのデータを基に、令和6年4月から翌年3月までの眉山公園（山頂部）の来園者数を推定しました。

表- 2.6.2：令和6年度総来園者数（推定値）

登山	9.7 万人
車・バイク・自転車	17.6 万人
眉山ロープウェイ	11.1 万人
眉山海月	2.4 万人
令和6年度総来園者数	40.8 万人

2.6.2 眉山公園（山頂部）の滞在時間

実態の把握のために眉山公園利用者の滞在時間の調査を現地にて実施しました。

(1) 調査方法及び調査日

滞在時間調査の方法は、人流調査にて使用した定点カメラのデータを用いて行いました。

(2) 滞在時間調査結果

表- 2.6.3：平日（令和6年12月5日(木)） 滞在時間調査結果

	歩行者		自動車	
	調査位置.1(人)	調査位置.2(人)	調査位置.3(台)	調査位置.4(台)
0～15分未満	30	15	20	14
15～30分未満	4	2	39	7
30～60分未満	2	4	25	3
60～120分未満	1	0	18	5
120分以上	4	1	16	0
平均滞在	42.6分/人※	20.6分/人	74.1分/台	28.9分/台

※最長7.9時間滞在した利用者がいたため、平均値は大きく上振れしている。

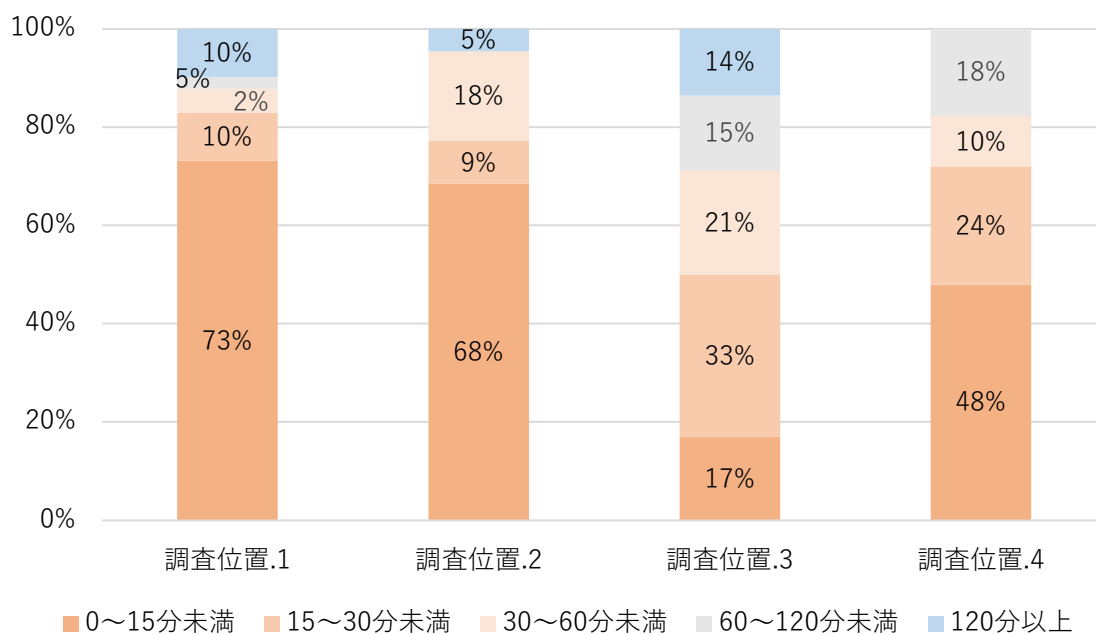


図- 2.6.4：平日（令和6年12月5日(木)） 滞在時間調査（割合）

表- 2.6.4 : 休日（令和 6 年 12 月 8 日(日)） 滞在時間調査結果

	歩行者		自動車	
	調査位置.1(人)	調査位置.2(人)	調査位置.3(台)	調査位置.4(台)
0～15 分未満	36	19	36	32
15～30 分未満	4	4	63	11
30～60 分未満	8	9	80	10
60～120 分未満	1	0	25	5
120 分以上	0	0	27	5
平均滞在	15.0 分/人	16.4 分/人	71.4 分/台	33.0 分/台

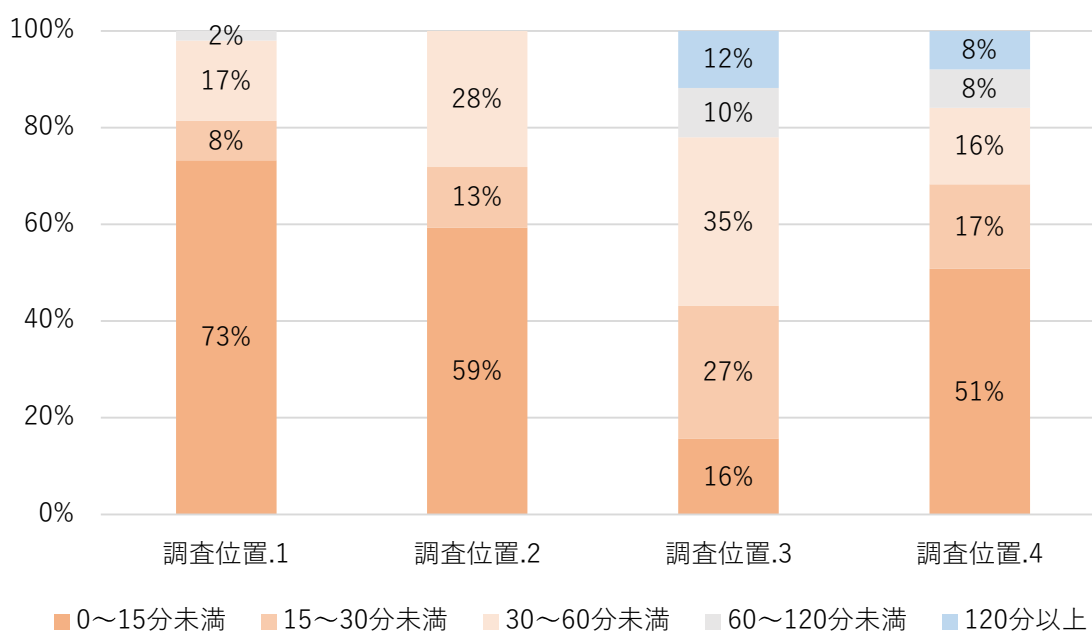


図- 2.6.5 : 休日（令和 6 年 12 月 8 日(日)） 滞在時間調査（割合）

(3) 滞在時間調査結果考察

1) 歩行者

15分以内の滞在者が非常に多いことが分かりました。これは眉山公園（山頂部）への来訪目的が運動や体力づくりのための登山であることが推測されます。滞在するための目的が少ないことが原因の一つであり、日常的に眉山の登山道を利用している利用者は多いものの、眉山公園の一带利用につながっていないと考えられます。

→日常的利用：「登る」ことが目的となっています

2) 自動車

歩行者に比べると滞在時間は長いことが分かりました。自動車での利用者は、景色や夜景といった明確な目的があり、そのために眉山公園（山頂部）に訪問しているためと考えられます。また、西側駐車場の利用者は調査位置 3(東側)の利用者に比べて滞在時間が短くなっており、東側エリアより西側エリアの滞在する魅力が少ないと考えられます。

→非日常的利用：景色などの「眉山公園の魅力」が目的となっています

3) 公園利用者の滞在時間

歩行者においては、例外的に長時間滞在している利用者はいるものの、長時間の利用者を除いた平均時間は約 15 分程度と非常に短くなっています。

自動車では、調査位置 4(西側駐車場)においても半数以上が 15 分未満の滞在となっており、30 分未満は約 7 割と短時間利用者が多いことが分かります。

阿波おどり会館などへの事前聞き取りでは、ロープウェイ利用者も 30 分未満の利用者が約 9 割と大半を占めています。

**現在の公園利用者の滞在時間の目安は、
約 30 分程度と見込み、
眉山活性化に向けて、対策を検討します。**

3. 策定方針

3.1 意向調査

眉山活性化基本方針策定にあたり、眉山公園及びその周辺における課題や提案に関する内容について、4つの手法を用いて意向調査を実施しました。

・ サウンディング型市場調査

- 調査概要 : サウンディングに応募いただいた事業者との対話を通して、眉山の魅力向上に向けた効果的な整備事業や課題、提案などについての調査
- 実施期間 : 令和5年10月10日(火) ~ 令和5年12月26日(火)
- 参加事業者数 : 5社

・ 口コミ調査

- 調査概要 : インターネットに掲載されている眉山公園に関する口コミを調査
- 総口コミ数 : 3,012件
- 総合評価 : 4.00

・ ヒアリング調査

- 調査概要 : まちづくり・子育て・観光・福祉・環境・スポーツ・行政関係等様々な立場の団体に調査を実施
それぞれの団体の立場から眉山公園及びその周辺の魅力や課題、イベント等に関する要望を調査
- 実施期間 : 令和6年7月4日(木) ~ 令和6年9月20日(金)
- 調査団体数 : 29団体

・ アンケート調査

[利用者向けアンケート調査]

- 調査概要 : 眉山公園・西部公園・大滝山エリア利用者に向けて、眉山公園とその周辺の満足度、魅力、改善点、希望する施設や参加したいイベント等についての調査
- 実施期間 : 令和6年8月7日(水) ~ 令和6年9月2日(月)
- 回答数 : 45件

[高校生向けアンケート調査]

- 調査概要 : 若年層の意見を調査するため、市内高校生を対象に眉山公園の魅力、改善点、希望する施設や参加したいイベントについての調査
- 実施期間 : 令和6年8月1日(木) ~ 令和6年9月17日(火)
- 回答数 : 217件

3.1.1 サウンディング

令和5年度に行った「眉山公園の活用に関するサウンディング型市場調査」では、募集を受けて提案いただいた民間事業者との対話を通して、眉山の魅力アップに向けた効果的な整備事業等について調査を実施しました。

表- 3.1.1：サウンディング型市場調査のスケジュール

実施要領の公表	令和5年9月1日（金）
質問の受付	令和5年9月1日（金）～10月13日（金）
質問の回答	令和5年9月8日（金）～10月20日（金）
現地見学会・説明会の開催	令和5年9月21日（木） 午前10時～・午後2時～ 令和5年10月12日（木） 午前10時～・午後2時～
サウンディング 参加申込受付	令和5年10月2日（月）～10月31日（火）
提案シートの提出	令和5年10月2日（月）～11月2日（木）
サウンディング実施日時 及び場所の調整	提案シートが提出された後、速やかに行います。
サウンディングの実施	令和5年10月10日（火）～12月26日（火）
実施結果概要の公表	令和6年2月13日（木）

サウンディング参加事業者数　：　5社

サウンディング型市場調査では、眉山公園の課題や課題に対する提案、その他の提案としてイベントでの活用促進や新しい公園施設の設置などハード面、ソフト面での提案がありました。

【主な提案内容】

- ・ 公園内の移動方法の改善・提案
- ・ 公園外からのアクセスの不便さの改善
- ・ 夜間の照明及び遊歩道の改善
- ・ お花見広場エリアの活用の必要性
- ・ 眺望を活かす眉山公園内の木の管理
- ・ 眉山公園の広報について
- ・ キャンプ場
- ・ ジップライン

【その他の提案】

- ・ 多目的広場の整備やイベントでの活用促進
- ・ 新しい公園施設の設置
- ・ 既存施設の再整備及び老朽化対策
- ・ 地域の方に参加いただく仕組みづくり
- ・ 持続可能な眉山公園の活用に向けての取り組み

3.1.2 口コミ調査

インターネットに掲載されている眉山公園についての口コミについて、集計と分析を行いました。総口コミ数 3,012 件、総合評価 4.00 という結果となりました。(令和 6 年 9 月 19 日時点)

口コミは「利用目的」「言語別の口コミ」「ポジティブ意見」「ネガティブ意見」「県内他施設」に分類して分析を行いました。

(1) 利用目的別の口コミ

景色・夜景を目的とする投稿が最も多く、次に桜・紅葉・花に関する投稿が多い結果となりました。

景色に関する投稿が圧倒的に多い結果となりましたが、その他の投稿の多くも景色とセットで投稿されていました。

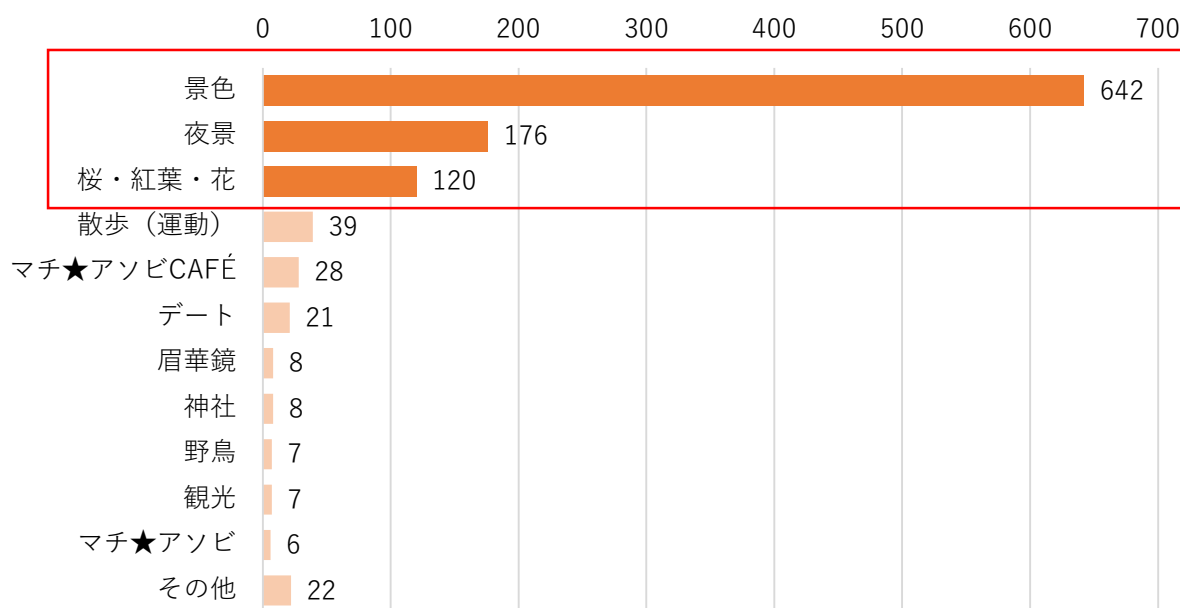


図- 3.1.1 : 利用目的別の口コミ数

(2) 言語別の口コミ

言語別の口コミについて集計を行いました。

外国語の投稿が 138 件あり、内訳は中国語が 67 件、英語が 54 件、韓国語が 11 件と上位を占める結果となりました。

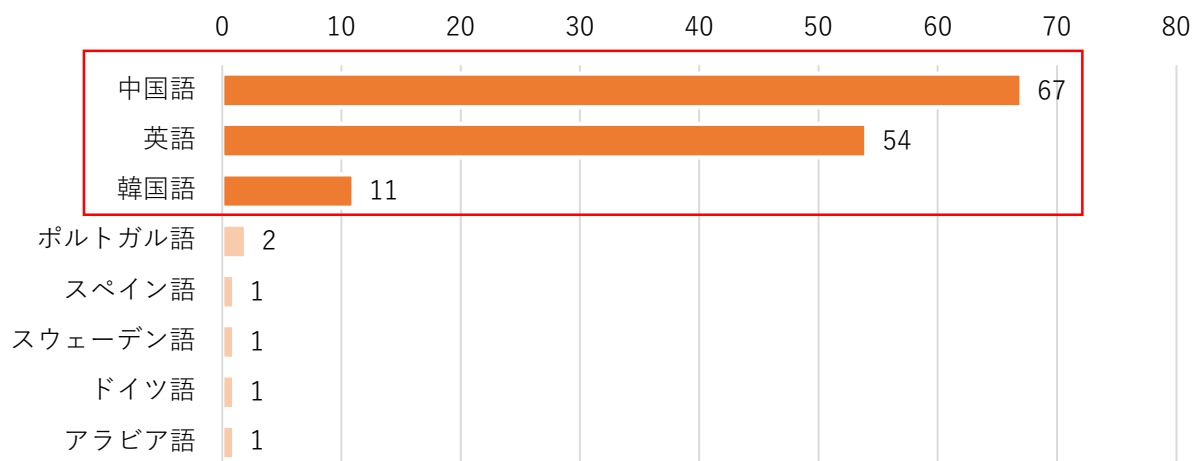


図- 3.1.2 : 言語別の口コミ数

(3) ポジティブ意見

アクセスが良い・気軽に行ける、登りやすいという口コミが合計 38 件と最も多い結果となりました。

次に徳島のシンボリック的存在という口コミが 26 件ありました。

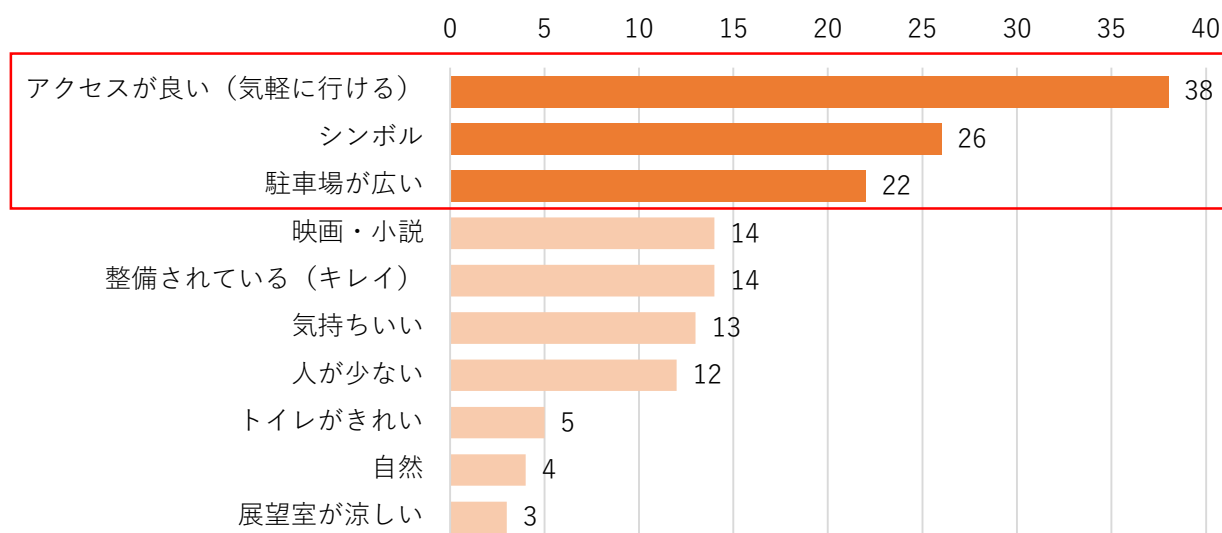


図- 3.1.3 : ポジティブ意見

(4) ネガティブ意見

ネガティブな意見に関しては、「景色以外何もない」という口コミが59件と最も多い結果となりました。

次に、駐車場から山頂まで登るのが大変、夜は暗くて怖い・危険等、山頂周辺の整備を望む声もありました。夜景を目的とする利用者が多数存在する半面、夜間はロープウェイが営業しておらず、交通手段が車に制限されるため、駐車場から山頂までの階段を暗い中登ることに対するマイナス意見も一定数存在しました。

また、コンセプトカフェ以外の飲食店や徳島のお土産を買えるお店などを求める口コミもありました。

車の利用者からは、「道中の歩行者・自転車が危ない」、「視界が悪く、急に動物が飛び出してきたら危険」と、道路の整備を求める口コミもありました。

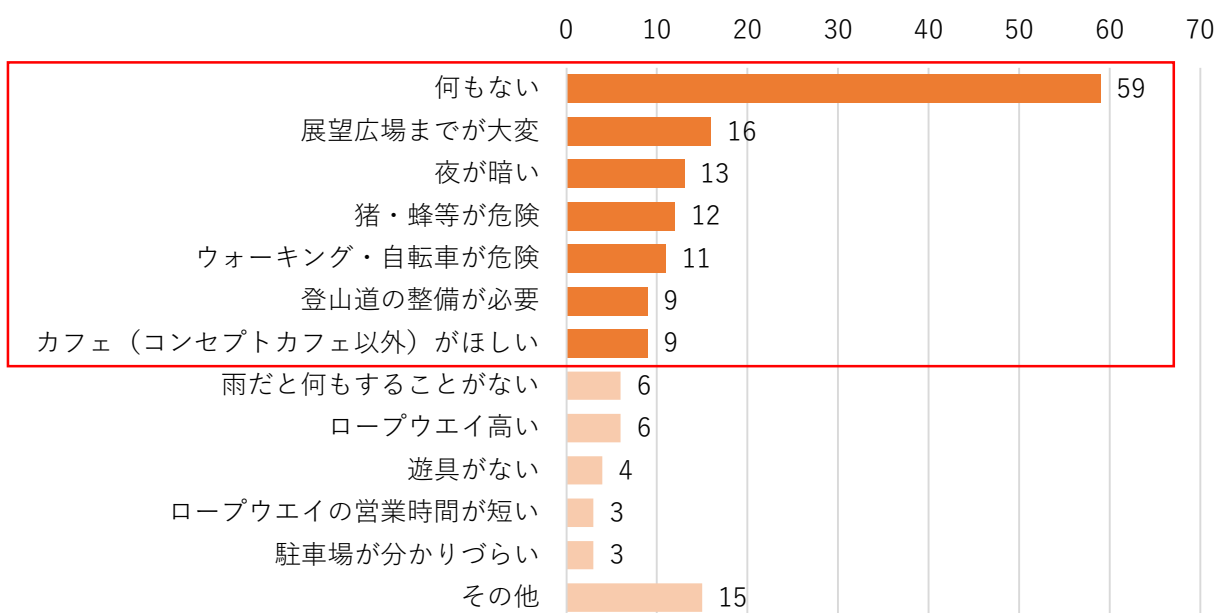


図- 3.1.4：ネガティブ意見

(5) 県内他施設の口コミ

県内の他施設の口コミ数と総合評価を集計しました。

大塚国際美術館の口コミが圧倒的に多く、総合評価も最も高い結果となりました。

次いで、渦の道の口コミ数が多く、総合評価も眉山公園を超える結果となりました。

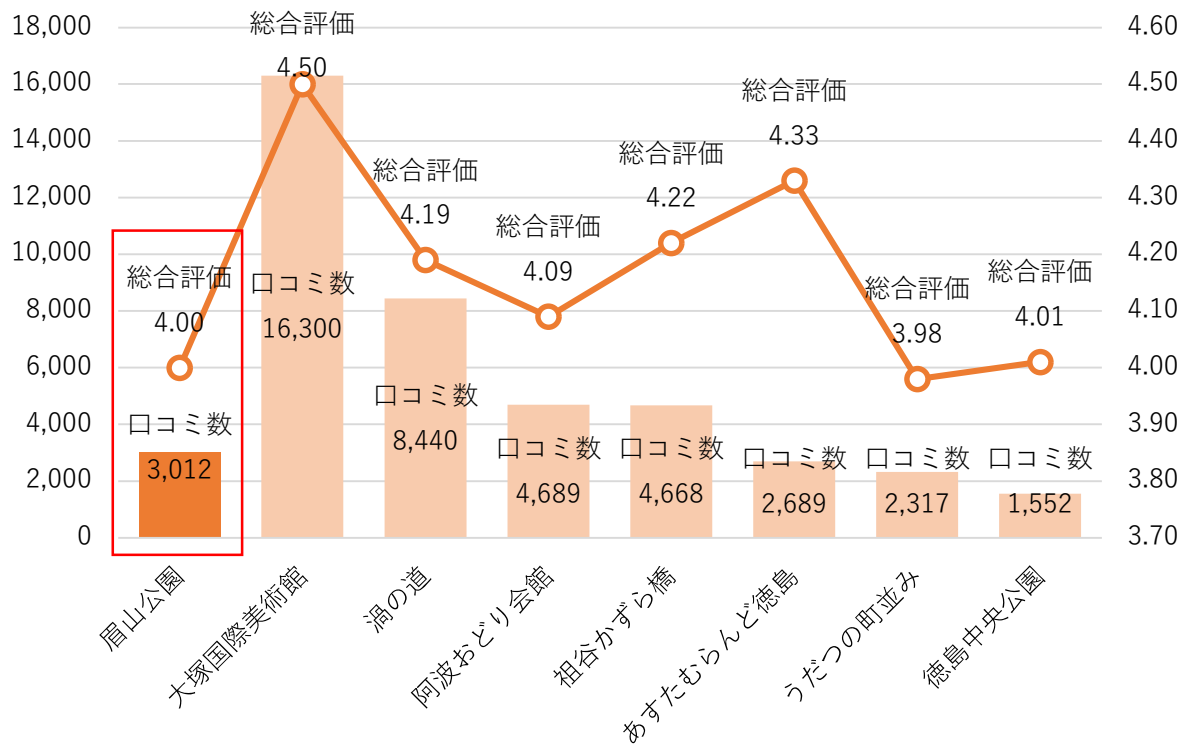


図- 3.1.5 : 県内他施設の口コミ数と総合評価

3.1.3 ヒアリング調査

令和5年度に行ったサウンディング型市場調査から対象を広げ、様々な立場の団体に聞き取り調査を実施しました。

ヒアリングは、「魅力」「課題」「希望する施設や整備の提案」「イベント」の4つの項目においてヒアリング調査を行いました。

(1) ヒアリング調査の実施

ヒアリング実施期間：令和6年7月4日～9月20日

対象団体：民間企業を含む様々な視点を持つ団体 29団体

表- 3.1.2：ヒアリング実施団体一覧

西部公園保勝会	(一財)徳島県観光協会	(公財)徳島経済研究所
徳島県勤労者山岳連盟	徳島市旅館組合	(一社)徳島青年会議所
(一社)日本旅館協会徳島支部	(公財)日本野鳥の会徳島支部	徳島商工会議所
徳島県自転車競技連盟	とくしま観光ガイドボランティア会	(福)徳島県身体障害者連合会
(公財)徳島県シェアリングネイチャー協会	阿波おどり会館	(福)徳島県社会福祉協議会
(特非)子育て支援ネットワークとくしま	(株)エアトラベル徳島	徳島市シニアクラブ連合会
子育て支援創造スペースミレア徳島	(一社)ツーリズム徳島	(特非)ずうーっとくしま FUN
(特非)徳島の子育てに伴走する会マチノワ	(株)エンターラル	(特非)新町川を守る会
滝のやき餅 和田乃屋	(一社)日本樹木医会徳島県支部	徳島市まちづくり協働プラザ

他2団体

(2) ヒアリング調査結果

表- 3.1.3：眉山の魅力について

魅力

景色・夜景を魅力とする団体の方が最も多かった。野鳥や動物、草木などたくさんの自然が残されていることの魅力を訴える方も多い。それらの魅力を有する空間が、市街地中心部からアクセスしやすい立地にあるというのが眉山の強みとなっていることが分かる。

また、ウォーキングや散策、登山のトレーニングといった日常生活の中に眉山が存在し、楽しまれている方なども多く見られた。

登山道	市街地各方面に登山口がある／手軽なルートから縦走路まで揃っている／手軽に登れる登山道	
公園施設	無料の駐車場がある／トイレ、水道が整備されている／ロープウェイがある	
景色／夜景	自然	ウォーキング／散策の場
野鳥／動物	憩いの場	広い
立地／市街地中心部	木陰が多い	人や車が少ない空間
西側は階段が少ない	外からのシルエット	訪問手段が複数ある
歴史がある	傾斜	桜の種類が多い

表- 3.1.4：眉山の課題について

課題	
<p>景色を魅力とする一方、景色以外の魅力が欠けている・滞在してすることがないという指摘が多く見られた。遊具も少なく、飲食施設なども少ないため、滞在時間も短くなり、景色だけという印象を持つ方が多く見られた。</p> <p>また、伸びてきた木が景色を阻害し、公園全体の視認性を悪くしているといった木の管理についても、積極的な管理を望んでいる声があった。</p>	
木の管理	伸びた木が景色を阻害している／施設が埋もれている／ 西側に何かあるか分からない／標識を隠している／ 鬱蒼としており、暗い印象を与える
東側の階段	駐車場から山頂広場までが急／(子どもにとって)手すりが高い／ カスケード最上部が行き止まりになっている
市道	自転車と歩行者、車が混在しており危険／カーブミラーが少ない／ 伸びてきた木が当たる／県外の人分かりにくい案内標識
休憩施設	雨や風、強い日差しをしのげる場所
ロープウェイ	利用料金が高い／大勢の人数を一度に運べない(大きなイベントを開催するには不適)
登山道	入口やルートが分かりにくい
飲食店がない	景色以外に楽しむ要素がない
天候によってできることが限られる	施設の老朽化
遊具が少ない／子どもが楽しめない	授乳室や赤ちゃんルームがない
駐車場が少ない(西部公園)	写真を撮るスポットがない
生活動線から離れている	観光地としての魅力は他の観光地に劣る
暗い(肝試しスポットになっている)	公園の境界が不明瞭
(鉄塔などで) ごちゃごちゃしている	トイレに清潔感がない
文化的施設(歌碑等)が目立たない	訪れる人の滞在時間が少ない
利用してほしい人が誰か分からない	交通の便が悪い
西側エリアの魅力がない	PR が弱い

表- 3.1.5：眉山の活性化について

魅力向上に関する提案

多くの方が景色を活かしたカフェなどの飲食店の設置を望まれていた。焼き餅など山頂で楽しめる名物の開発など、訪問の目的となり、滞在しながら楽しめる施設が多く提案されている。それぞれの施設で景色を活かした工夫を行うことで、より魅力的な施設となる期待がされている。

また、デジタル技術を用いた整備など新しい技術導入の提案もあった。

子ども向け遊具など	プレーパーク／木育広場／カブトムシがとれる森／ 噴水エリア／探検したくなる看板／スタンプラリー／芝生広場	
写真スポット	BIZAN などのオブジェ／鐘／夕日スポットなどの PR／デザイン性の高いベンチ／天空のブランコ／SNS 映えするスポット	
登頂記念スポット	登頂した記念となるスポットの整備／日付や時間を記入できる透明なアクリルボードを設置して、景色と一緒に撮影できる場所等	
学習施設	資料館／博物館／昆虫館／平和学習	
飲食店／飲食スペース	BBQ／キャンプエリア	デジタル技術を用いた整備
季節の花	名物の再興・開発	山頂の駅
イルミネーション	RV パーク	彫刻物／展示物の説明
園芸温室ハウス(収益化)	花見スポット	サウナ
足湯／温泉施設	展望施設(西側エリア)	カジノ
ジップライン	レンタルキッチン	大屋根・電源施設
ロープウェイ下の階段	駅前までのすべり台	ゴンドラ(徳島駅から眉山まで)
QR 式ツアーガイド	インフィニティプール	ウォータースライダー
傾斜活用した転がるボール		

表- 3.1.6：眉山に求められている施設・整備等について

その他の提案

相互理解の必要性	イベント事業者や参加者だけでなく、地域住民や他の利用者の理解が得られる仕組みやルールづくりが必要	
伐採した木材の再利用	景色や安全性の確保のために伐採した木はチップや腐葉土にするなど、再利用を検討する	
自転車利用のマナー啓発	トレーニングなどで自転車を利用する方が増えている中で、ルール化、啓発活動を行う。子ども向けの安全運転講習などを行う。	
眉山海月での温泉や昼食利用	歩道と車道の区分／カーブミラーの設置	
カスケード最終段の行き止まり	登山道の清掃	
不法投棄物やゴミ	ロープウェイの利用料金／時間等の見直し	

3.1.4 アンケート調査

眉山公園の利用者及び高校生を対象としたアンケート調査を行いました。

(1) 眉山公園の利用者アンケート結果

1) アンケート調査の実施

令和6年8月7日(水)から令和6年9月2日(月)に実施したアンケートにおいて、20代以下から70代以上の年齢層において、45件の回答を得られました。

アンケート方法 : 眉山公園の現地においてアンケート案内ポスターを掲示
ポスターのQRコードから回答

アンケート実施期間 : 令和6年8月7日(水)～令和6年9月2日(月)まで

アンケート掲示場所 : 眉山公園東側、眉山公園西側、大滝山、西部公園

2) 回答者の内訳

表- 3.1.7 : 回答者の性別

男性	24
女性	20
回答しない	1

表- 3.1.9 : 回答者の住まい

徳島県外	13
徳島市	25
徳島県(徳島市外)	6
回答なし	1

表- 3.1.8 : 回答者の年代

20代以下	5
30代	8
40代	7
50代	12
60代	7
70代以上	6



掲示したアンケートとポスター

3) 眉山公園のアンケート回収箇所について

アンケート回答者の64%が東側を利用しており、次いで大滝山エリアを利用しています。特に徳島市以外の回答者は、東側エリアの利用が大半となっています。

表- 3.1.10：回答者の住所

エリア	徳島市	徳島県 (徳島市外)	徳島県外	計
東側	12	5	11	28
西側	3	1	2	6
西部公園	1	-	-	1
大滝山	9	-	-	9

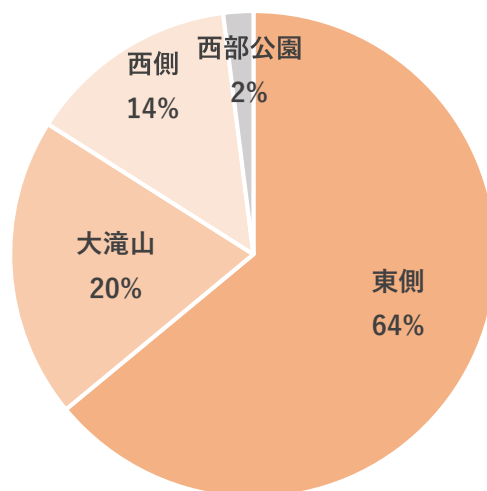


図- 3.1.6：眉山公園の利用箇所

4) 眉山公園の利用頻度について

回答者の眉山の利用頻度についての項目では、ほぼ毎日利用する人と週に1回程度利用する人で40%いる一方で、数年に1度や年に1回程度の利用者が38%となっています。

また、各エリアでの利用頻度を確認するとほぼ毎日利用する人の内、ほとんどが大滝山を利用しています。

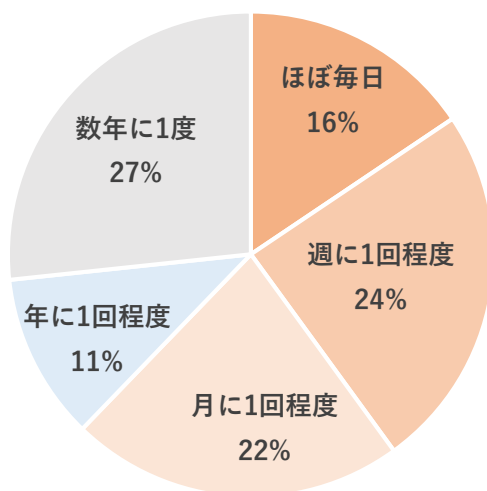


図- 3.1.7：眉山公園の利用頻度

表- 3.1.11：利用頻度

エリア	ほぼ毎日	週に1回程度	月に1回程度	年に1回程度	数年に1度
東側	1	8	5	4	10
西側	-	1	2	1	2
西部公園	-	-	1	-	-
大滝山	6	2	2	-	-
計	7	11	10	5	12

5) 眉山への来訪目的

回答者の来訪目的は、散歩や体力づくりを目的とされている方が多く、続いて景色や観光といった方もいます。日常利用と非日常利用の両方の利用者が混在しています。

その他の利用者には、展望エリアにある飲食施設の利用や山頂の神社などの施設を目的とした方もいます。

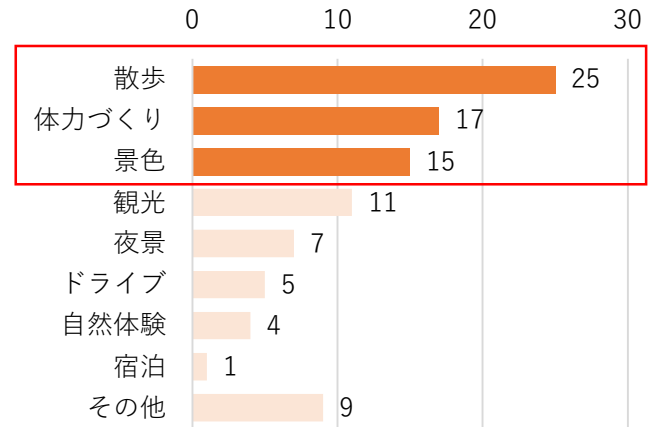


図- 3.1.8 : 目的別の来訪者数

6) 眉山公園の満足度に関する調査

「イベントでの活用」「滞在時間を楽しめる工夫」「子ども向けの遊具・空間」など複数の項目で過半数の方が活用できていないと感じています。

【アンケート項目】

- 問1. 景観や景色は十分に活用されている
- 問2. 周辺の樹木は適正に管理されている
- 問3. 魅力的な施設が整備されている
- 問4. 園路や公園施設（トイレ等）は綺麗に整備されている
- 問5. イベントで十分に活用されている
- 問6. 自然観察・学習野場として十分に活用されている
- 問7. 案内看板等迷わず訪問できる工夫がされている
- 問8. 何回も行きたくなる工夫がある
- 問9. 滞在時間を楽しめる工夫がある
- 問10. 西側（モラエス広場）は訪れる価値がある
- 問11. 足が不自由な方や高齢者の方も十分に楽しめる
- 問12. 夜間は十分に照明が整備されている
- 問13. 子どもが楽しめる遊具や空間が整備されている

下線は、「あまりそう思わない」「思わない」の割合が多い項目を示します。

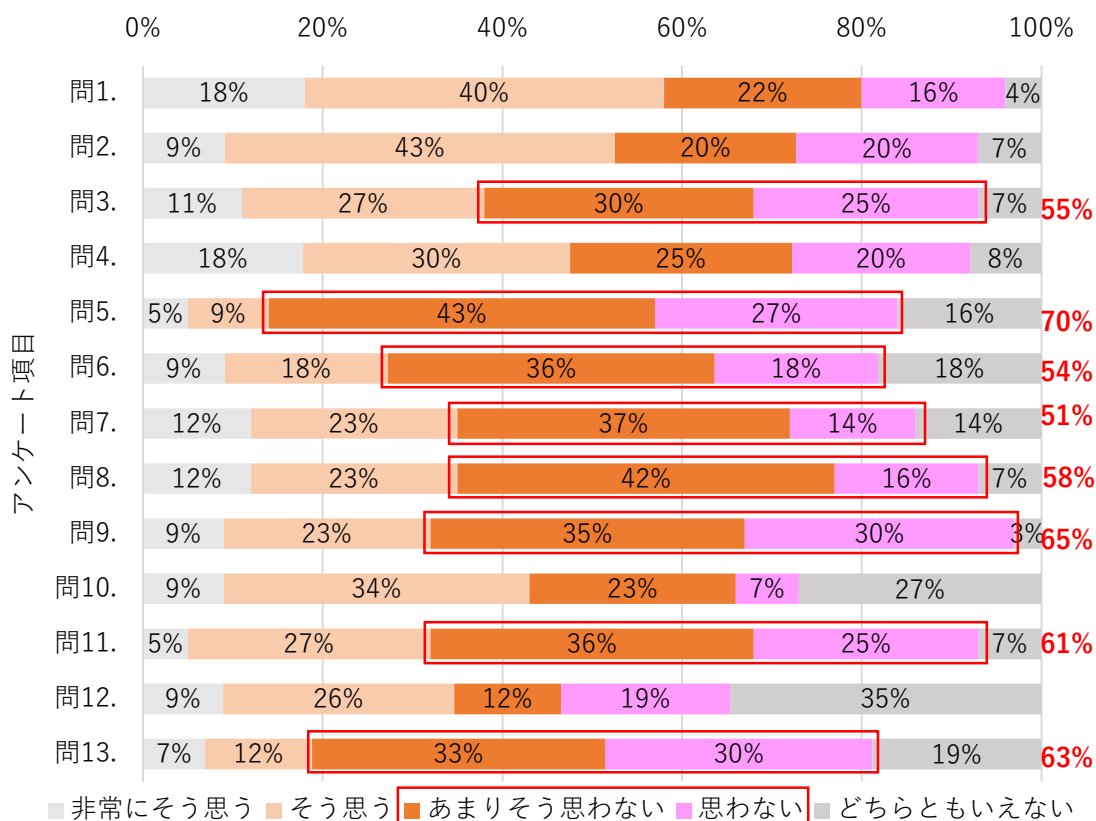


図- 3.1.9：眉山公園に関するアンケート結果

7) 眉山公園の「魅力」「改善点」「あった方がよい施設」「イベント」

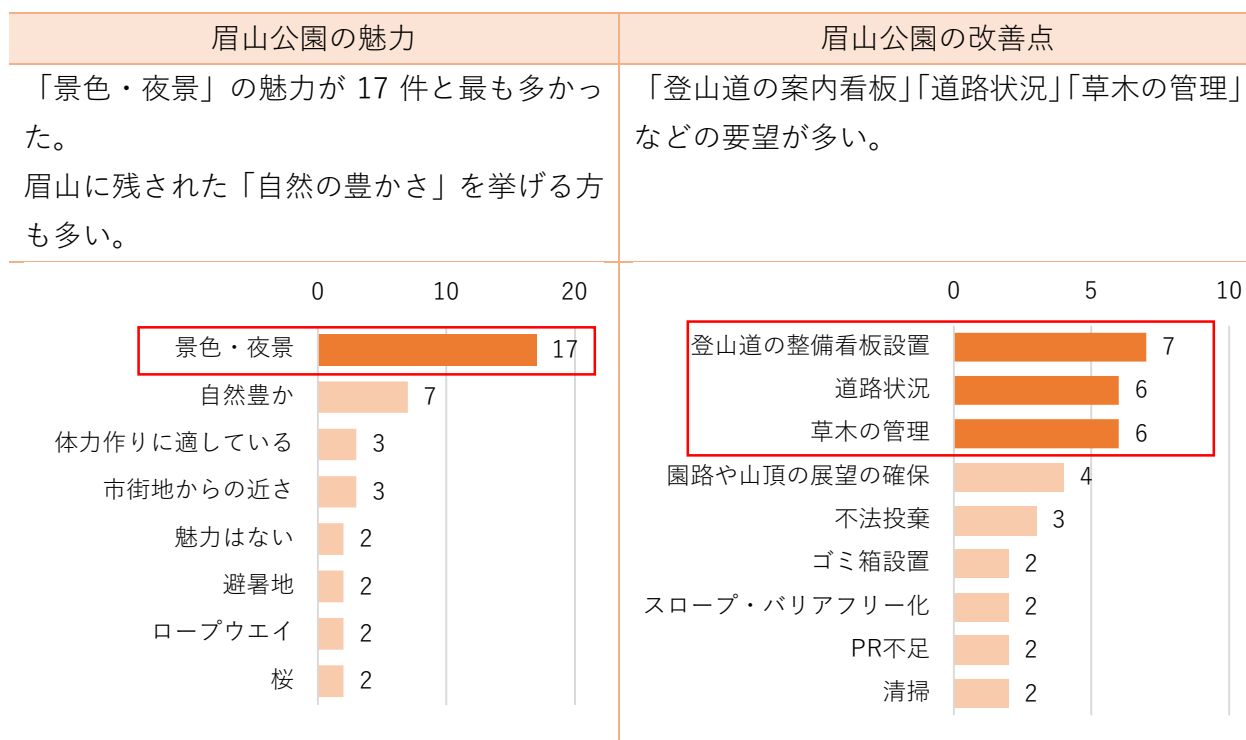


図- 3.1.10：「魅力」「改善点」に関するアンケート結果

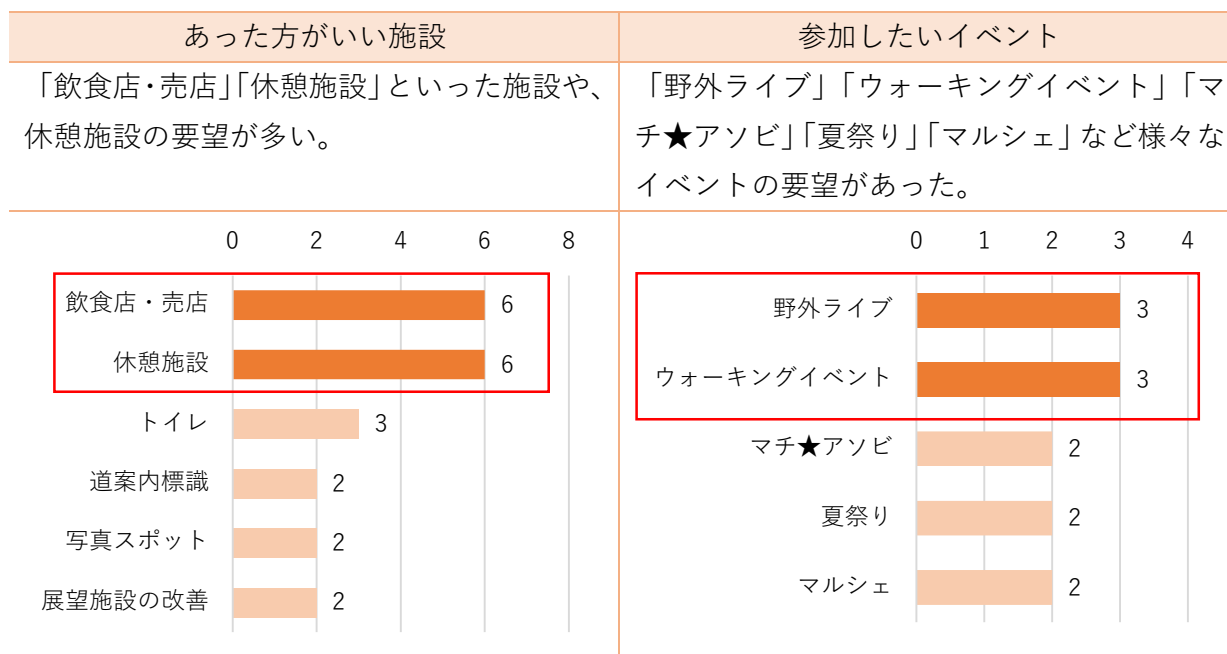


図- 3.1.11：「あった方がいい施設」「参加したいイベント」に関するアンケート結果

8) 眉山公園周辺に関するアンケート

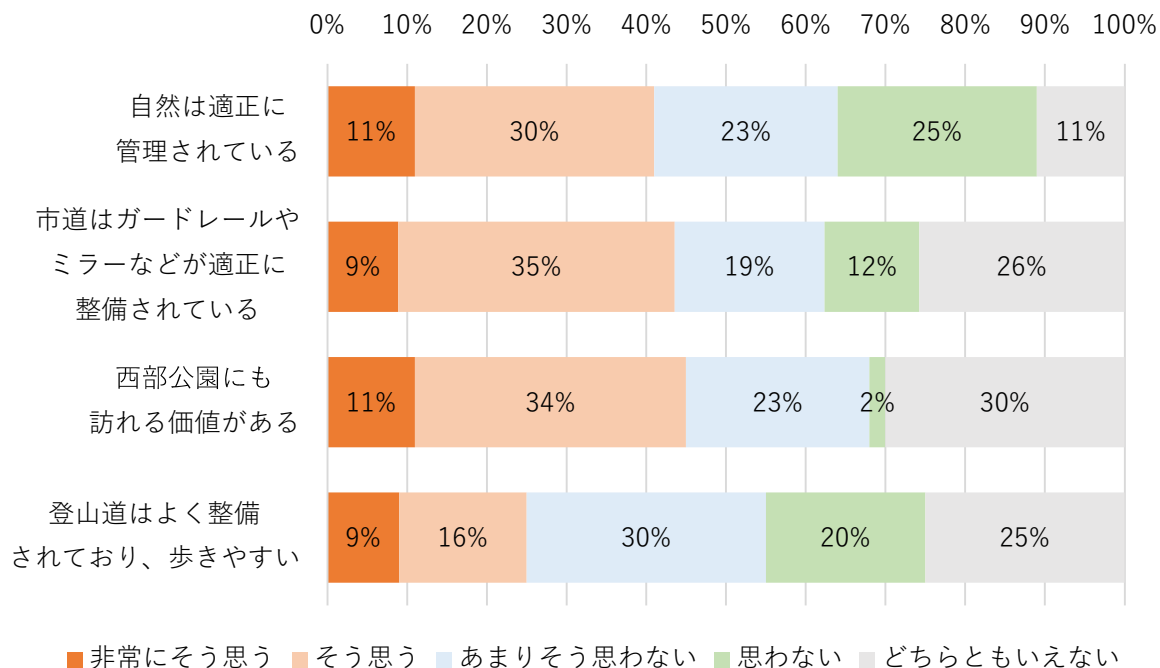


図- 3.1.12：眉山公園周辺に関するアンケート結果

(2) 高校生アンケート結果

1) 高校生を対象としたアンケート調査

眉山活性化基本方針の策定にあたり、市内高校生を対象としたアンケートを実施し、「眉山公園の魅力・眉山公園の改善点・提案施設・提案イベント」の4項目について調査を実施し、217名から回答を得ました。

表- 3.1.12：回答者の性別

男性	65
女性	95
回答なし	57

表- 3.1.13：回答者の学年

高校1年生	44
高校2年生	119
高校3年生	6
回答なし	48

表- 3.1.14：回答者の住まい

徳島市	65
徳島県(徳島市以外)	95
回答なし	57

表- 3.1.15：回答者の来訪頻度

ほぼ毎日	3
週に1回程度	3
月に1回程度	14
年に1回程度	37
数年に1度	111
回答なし	49

2) 眉山公園の魅力に感じた点

「景色・夜景」が多くの方が眉山からの眺望を魅力と感じており、次に「自然・緑」といった環境を魅力と感じている方が多いです。

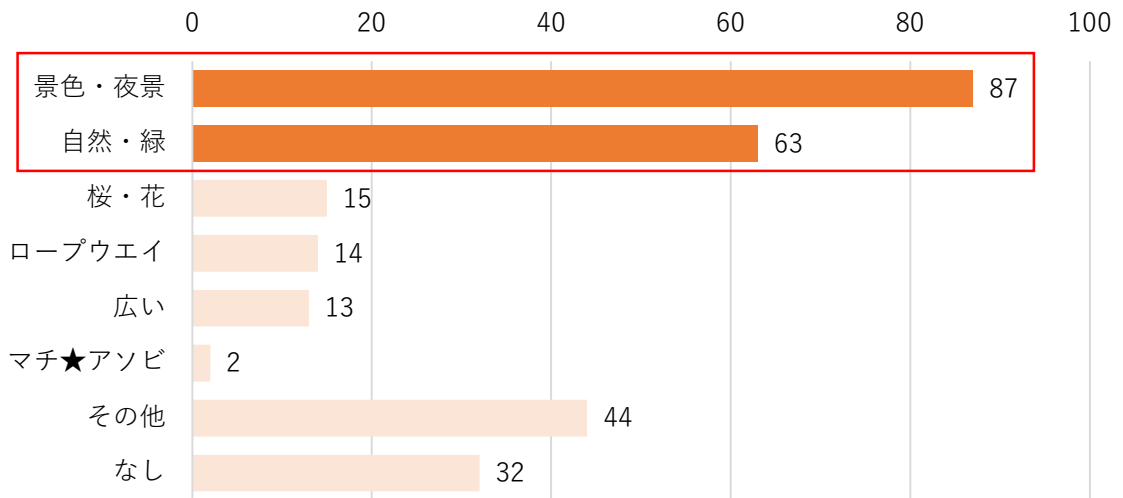


図- 3.1.13：眉山公園の魅力に関する高校生アンケート結果

表- 3.1.16：眉山公園の魅力（その他意見）

子どもが安心して遊べる	空気がおいしい	宿泊施設がある	歴史を感じる
観光地となっている	展望施設がある	徳島のシンボル	人が少なく静か
登るのにちょうどいい	運動やリフレッシュに最適		

3) 眉山公園の改善点

施設の老朽化やトイレの更新など施設の更新の要望や、飲食店や売店・遊具など新しい施設やイベントの要望、夜間の照明やバリアフリー化など公園環境に関する要望がありました。

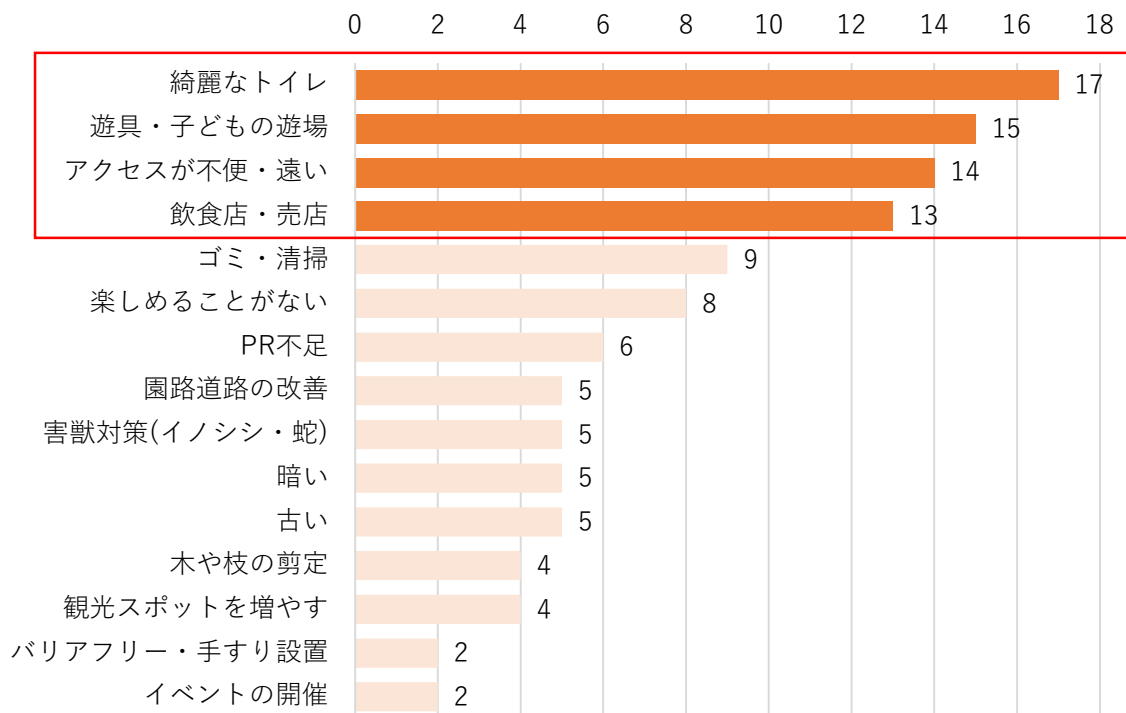


図- 3.1.14：眉山公園の改善点に関する高校生アンケート結果

表- 3.1.17：眉山公園の改善点（その他意見）

日陰や屋根がない	急な坂が多い	ロープウェイの値段	訪れる理由がない
展望施設の増築	外国語に対応した看板	自然しかない	景色だけが魅力
花の植栽	駐車場を増やす	年齢層に偏りがある	

4) 眉山公園にあった方がいい施設

飲食店の要望が最も多く、売店・商業施設などの新規設置も多い。収益施設以外には、休憩施設や子どもの遊び場などの基本的な公園機能、写真スポットや観光施設など、観光客を誘致する施設の提案もありました。

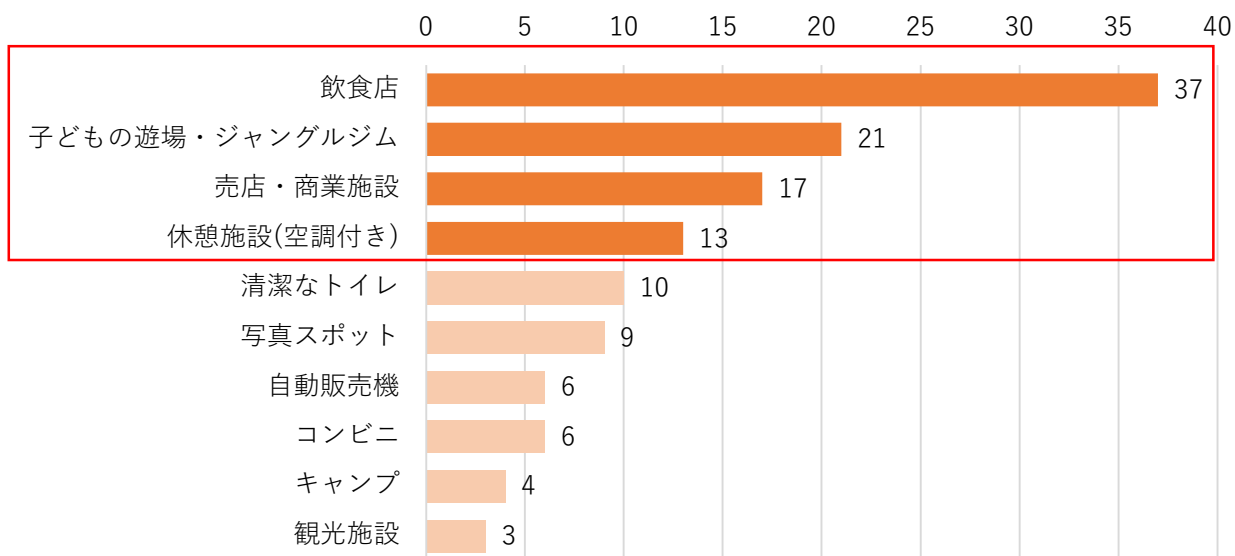


図- 3.1.15：眉山公園にあった方がいい施設に関する高校生アンケート結果

表- 3.1.18：眉山公園にあった方がいい施設（その他意見）

ドッグラン	屋台(花見)	景色を活かした施設	遊べる噴水
体育館	山頂自習室	歴史資料館	温泉
遊園地	天体望遠鏡	体育館	

5) 眉山公園で滞在中に開催されていれば参加したいイベント

お祭り・屋台といったイベントや、周囲に住宅地がないことを利用した音楽イベント、自然等の環境を活用したウォーキングや山登りといったイベントの提案がありました。

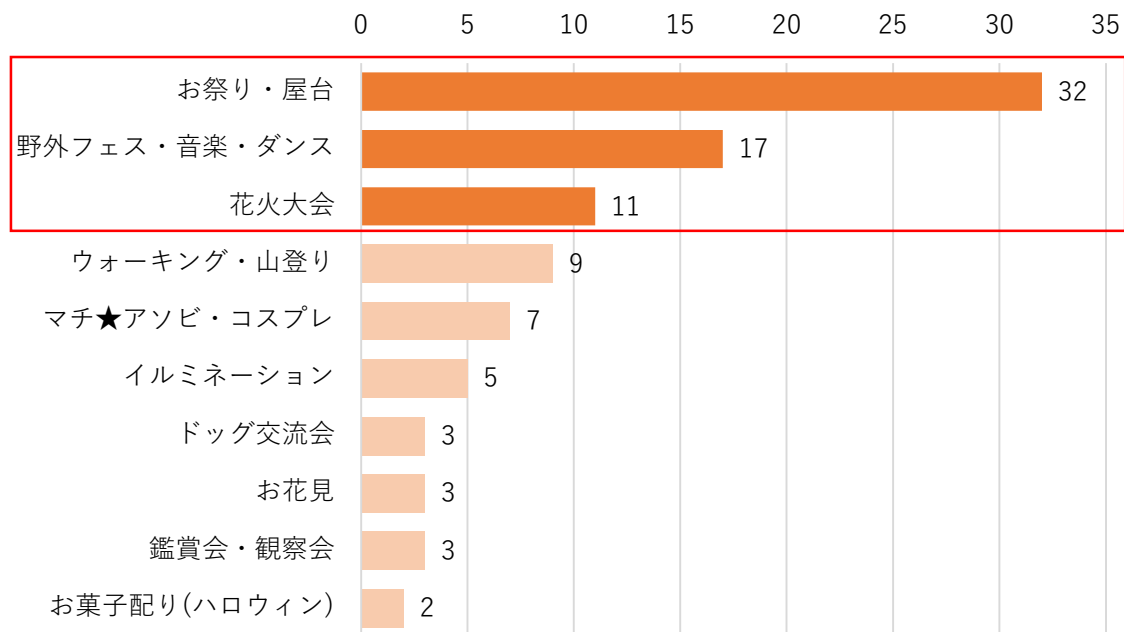


図- 3.1.16：眉山公園で参加したいイベントに関する高校生アンケート結果

表- 3.1.19：眉山公園で参加したいイベント（その他意見）

天体観測	有名人の誘致	謎解きイベント	昆虫探し
クラフト体験	ウォーターパーク	ホラーナイト	スタンプラリー
写真イベント	ランタン	阿波おどり	

3.2 現状分析

意向調査を踏まえ眉山の主な課題と提案を以下のように整理します。

3.2.1 眉山公園及び周辺地域における魅力

- ◆眉山公園から望む景色や夜景が素晴らしい
- ◆草木や動物など自然あふれる環境が市街地中心部に残されている
- ◆車だけでなく、ロープウェイや徒歩により登ることができる
- ◆大滝山を含め周辺地域に魅力ある文化・歴史が残されている
- ◆各方面から登ることができる多様なルートの登山道を楽しめる
- ◆阿波おどり会館と一体的な利用もでき、観光地としての知名度がある

3.2.2 眉山公園及び周辺地域における課題と提案

(1) 景色以外に楽しめる工夫や施設の整備が必要

眉山公園からの景色は最大の魅力の一つですが、それ以外の目的となる公園の施設がありません。滞在中に楽しめる施設が少ないことが課題となっています。

眉山公園を訪れる理由となる施設や、公園での滞在を楽しめる工夫を施す必要があります。

表- 3.2.1：主な提案内容

飲食施設・売店の設置	公園内で飲食できる施設が少ないという意見が多い。景色を活かした飲食施設等を整備することで、眉山公園の魅力や利便性の向上を図る。
魅力となる施設の設置	訪問の目的となる施設(キャンプ場や BBQ エリア、イルミネーション)、名物の再興や開発など目的となる施設を整備することで魅力の向上を図る。
遊具・アトラクションの整備	傾斜を活かした遊び場や、自然の多い環境で特色ある遊具などを整備することで子どもが安全に楽しめるエリアや遊具の整備を行う。

(2) 公園内の高低差への対応が必要

眉山公園内の高低差が公園内の課題となっており、周遊性また滞在時間に影響していると考えられます。足の不自由な方や高齢者、子どもでも移動しやすい環境を整備する必要があります。

新しく設置する施設は、移動だけでなく景色を楽しみながら移動ができるような付加価値のある施設が望まれます。

表- 3.2.2：主な提案内容

東側の展望エリアと西側エリアをつなぐ動線の確保	東側の展望エリアから西側エリアへの移動の高低差が大きく、支障となっている。人道橋等の施設により、課題解決を図る。 新しく設置する施設は、移動だけでなく景色を楽しみながら移動ができるような付加価値のある施設が望ましい。
移動モビリティの導入	電動カート等による移動モビリティを園内に導入することにより、周遊性の向上を図る。

(3) 鬱蒼とした木々の伐採・適切な植栽が必要

眉山は豊かな自然が魅力となっているが、公園外周を囲むエリアは開設当初から伐採などの管理を行っておらず、当初の眺望が望めなくなったエリアもあります。

公園内にも鬱蒼とした木々が生い茂るエリアもあり、光が公園内に入らず、暗い印象を与えていることが課題となっています。

表- 3.2.3：主な提案内容

眺望の障害、公園内の視認性に影響している木の伐採、間伐	眉山公園とくに西側エリアからの眺望の支障となっている木の伐採を行い、西側エリアからの眺望を楽しめる環境を整備する。暗い印象を与える公園内のエリアは間伐し、光が入るような間伐を行う。
紅葉や桜などの魅力となる樹種の植栽	四季折々の草木を楽しめるように新しい樹種の植栽の計画を行う。桜や紅葉など季節によって楽しめる植栽計画とすることで眉山の魅力向上を図る。

(4) 眉山の魅力発信が必要

眉山からの景色など、眉山公園の魅力の発信が十分にできていないという課題も指摘されています。眉山公園に何があるのか、どんな楽しみ方ができるのか、発信の機会を創出する必要があります。

表- 3.2.4：主な提案内容

SNS で発信されやすい工夫	眺望が望める場所に写真スポットや、オブジェなど眉山に来たことが分かりやすい写真スポットを整備することにより、利用者が自発的に眉山の魅力を発信したくなるような工夫が必要である。
----------------	---

(5) 案内看板の設置・更新が必要

公園内の案内看板の老朽化や公園外から眉山公園への経路が分かりにくいことが課題です。眉山公園内だけでなく、アクセス道路や周辺地域からの案内看板の設置が必要となります。

表- 3.2.5：主な提案内容

登山道入口・経路の案内看板設置	多数利用されている登山道は、案内看板や経路などが無く、観光客や外国人にとって分かりにくいものとなっている。 入口や経路などが分かる案内看板の設置が必要である。
アクセス道路からの案内看板設置	車での利用者が分かりやすいように誘導案内を設置する必要がある。
外国人向け案内看板の設置	新設・更新する案内看板は外国人にとっても分かりやすいように外国語表記などの工夫が望ましい。

(6) イベントでの活用の促進策が必要

眉山公園はイベントでの活用が十分にできていないという課題があります。

市街地中心部に位置している立地を活かし、イベントを含めた眉山公園の利活用を促進させる組織づくりや整備が必要となります。

表- 3.2.6：主な提案内容

定期的なイベントの開催	マルシェや音楽イベントなどの開催を定期的に行い、にぎわいを創出する。
地域を巻き込んだ組織・体制づくり	定期的なイベントの開催・発展に向けてイベント事業者や地域を巻き込んだ組織や体制づくりが必要となる。
公園利用ルールの見直し	徳島市の都市公園を利用するにあたって画一的な公園の利用ルールではなく、眉山公園の柔軟な利用につながる公園利用ルールの検討が必要である。
駐車場及び道路の改良	大規模なイベントの実施の際に課題となる駐車場について、新しい駐車場エリアの新設や大型バスの利用を前提とした道路や駐車場の改良が必要となる。

(7) その他の課題について

表- 3.2.7：主な提案内容

夜間照明の見直し	公園内の照明の見直しを行い、夜間も安心して公園を利用できる整備が必要となる。新しく整備する際は、公園内の利便性と公園外からの眉山の景観を考慮した整備を必要とする。
トイレ等公園施設の改修	老朽化した公園施設や、手すりや防護柵の更新など、利用者がより快適かつ安全に利用できる整備を行う。 トイレの洋式化や防護柵の更新は周辺環境との調和が図れるデザインにするなどの配慮を必要とする。
強い日差しや雨風をしのげる場所がない	雨天時に楽しむことがない、夏場の強い日差しを避ける場所がないといった課題があり、屋内施設の充実や休憩施設などの整備を検討する。

(8) SWOT 分析

各種意向調査及び眉山の地勢・歴史・社会的現状をまとめて SWOT 分析を用いて以下のように強みと弱みを整理します。

表- 3.2.8：主な提案内容

	強み Strength	弱み Weakness
内部環境	<ul style="list-style-type: none">✓ 景色 / 夜景✓ 自然(草木花 / 野鳥 / 動物)✓ 立地(市街地中心部)✓ 複数のアクセス方法✓ 歴史 / 由来✓ 登山道✓ 観光地としての知名度	<ul style="list-style-type: none">✓ 景色以外楽しむ要素がない✓ 飲食店などがほぼない✓ 景色を阻害するほど成長した木✓ 雨天時の楽しみ方がない✓ 子どもが楽しめる遊具やエリアがない✓ 高低差が激しく、移動が不便✓ 大型車両が通れない
	機会 Opportunity	脅威 Threat
外部環境	<ul style="list-style-type: none">✓ 新町西地区の開発 (中心市街地の活性化)✓ インバウンド需要の拡大✓ 市街地のイベントとの親和性✓ 大阪・関西万博の開催✓ 宿泊施設の開業✓ 関西圏とのアクセス✓ 低山登山ブーム	<ul style="list-style-type: none">✓ 郊外への商圈の変化✓ 市街地中心部の魅力低下✓ 市バスが通らない✓ 活発な市街地中心部でのイベント (眉山公園との連携ができていない)✓ 風致地区としての規制



**眉山の魅力を十分に活かしきれていない
眉山公園とその周辺地域の活性化は徳島市の重要なテーマ**

- ・眉山公園からの景色や自然豊かな環境
- ・歴史や文化など様々な魅力
- ・徳島市中心市街地の活性化に向けた開発や外国人観光客の増加
- ・眉山公園内での新たな宿泊施設の開業

3.3 目指すべき眉山の未来

見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル

眉山の現状分析結果を踏まえ、徳島市緑の基本計画において緑化重点地区である眉山の目標を本方針における目指すべき眉山の未来像とします。

また眉山の未来像を実現させるため、本方針策定において

**みんなが
楽しむ**

多様な人々世代を超えて、憩い楽しむ眉山

**みんな
で
つくる**

産・学・官・民連携で、活気あふれる眉山

**みんなを
つなぐ**

歴史・文化を継承し、にぎわいつづける眉山

の3つを柱に策定作業を進めました。

3.4 目標設定

本市が眉山の未来像の実現に向けた代表的な指標として以下の2つを位置づけ、後に示す眉山未来プラン実現後の長期的な視点で、令和17年度に達成すべき目標値を設定します。

表- 3.4.1：来園者数の現状値と目標値

代表的な指標		現状値	目標値	備考
眉山公園 (山頂部)	来園者数	40.8 万人	60.0 万人	令和6年度推定値
	滞在時間	0.5 時間	2.0 時間	令和6年度推定値

また、来園者の満足度を確認することなどにより経過観測を行い必要に応じて時点修正を図りながら目標の達成を目指します。

4. 眉山未来プラン

4.1 びざんミーティング

4.1.1 びざんミーティング

目指すべき眉山の未来像として「見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル」と目標像を掲げました。そこで、その実現に向け広く市民の皆さんの意見を求める「びざんミーティング」を設置し、メンバーを募集しました。

31名の公募市民をメンバーとし、全3回のミーティングと、整備計画案（眉山未来プラン）をメンバーに向けて報告する報告会を開催しました。

第1回びざんミーティング 令和6年10月12日（土）

実際に眉山公園でフィールドワークを実施し、現状、課題について意見交換を行いました。



フィールドワークの様子



意見交換の様子

第2回びざんミーティング 令和6年11月16日（土）・令和6年11月22日（金）

眉山山頂のハード整備をテーマとし、班ごとに議論、発表をし、最後に全員で提案に対する人気投票を行いました。



ハード整備について議論の様子



人気投票の様子

第3回びざんミーティング 令和6年12月7日(土)

眉山の活用方法について(ソフト)、眉山山頂以外(西部公園、大滝山、道路、登山道)のハード整備をテーマとし、議論、発表を行いました。



利活用・山頂以外について議論の様子



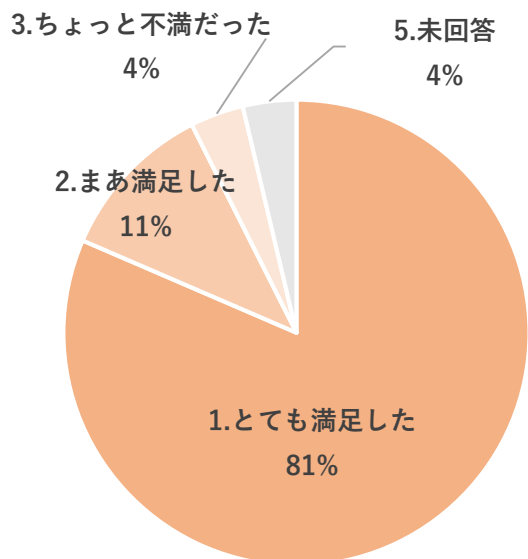
発表の様子

4.1.2 アンケート結果

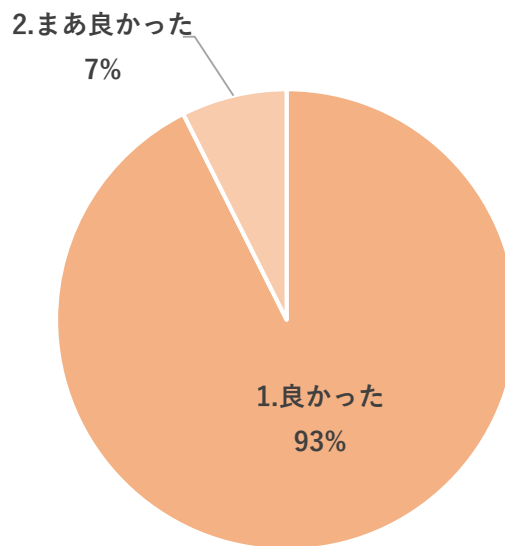
全3回のびざんミーティングを通して、非常に良い雰囲気の中、積極的な意見交換を行っていただきました。

メンバーに対して、最後にびざんミーティングに対するアンケートを実施したところ、下記の結果となりました。

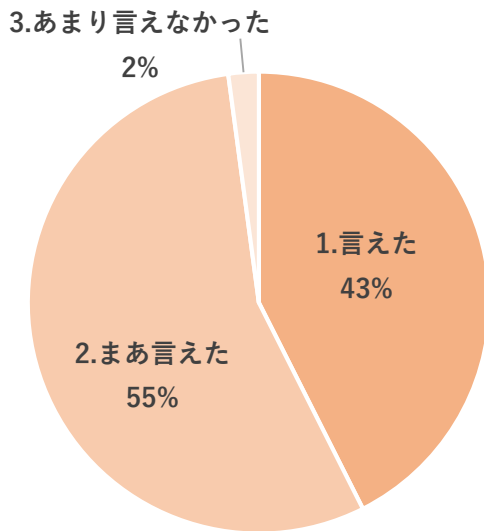
参加しての満足度を教えてください



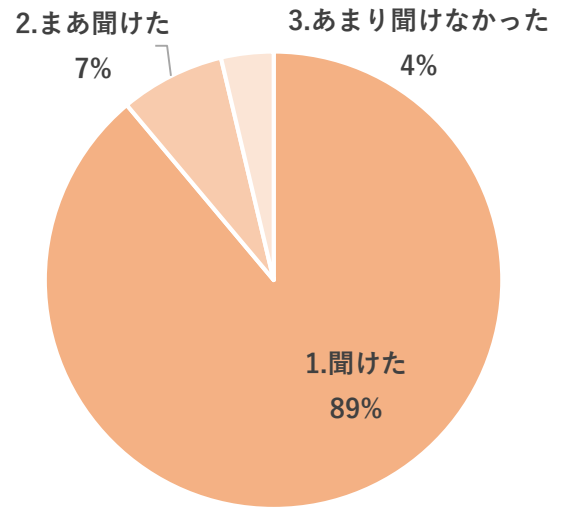
全体の雰囲気はどうでしたか



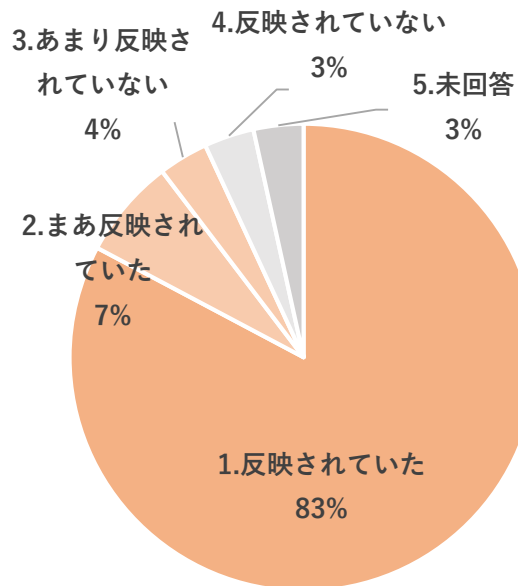
グループ内で自分の意見が言えましたか



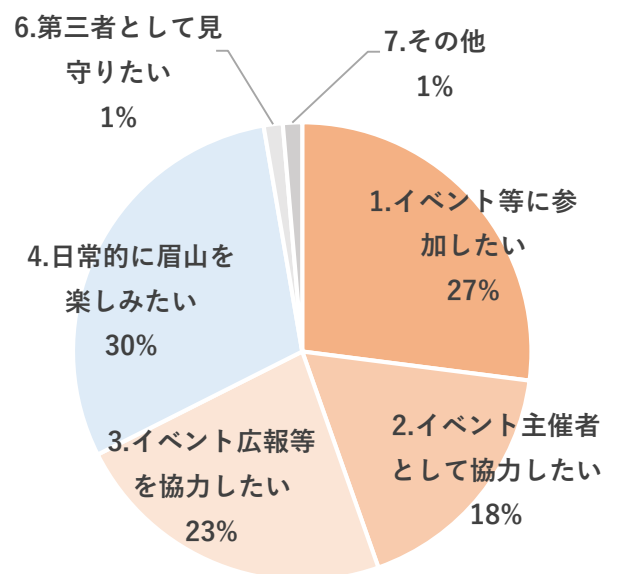
グループ内で他の人の意見が聞けましたか



眉山未来プランに
意見は反映されていましたか



今後、眉山の利活用において、
どのような関わり方を考えていますか
(複数回答)



自由記述

今回のびざんミーティングの感想、今後の眉山未来プロジェクトへの期待、今後の参加・協力等についての具体的な案などの自由記述について、代表的なものは以下のとおりです。

参加しての感想

- ・ワークショップへの参加は初めてだったが、楽しくできた
- ・とてもすばらしいプランになっていてワクワクしました
- ・和やか、かつ活発に意見交換が行われていて素晴らしかった

今後の関わり

- ・イベント運営や施設管理のノウハウを活かせる
- ・実証実験でのスタッフなど、日時があれば関わっていきたいです
- ・徳島市主催で同様の行事を実施する際には協力したい

期待すること

- ・子どもが親、おじいちゃんおばあちゃんになるまで、身近に寄れる場所になることを願っています
- ・徳島の魅力を県内外に広める第一歩となること

4.2 眉山活性化専門部会

4.2.1 眉山活性化専門部会

眉山活性化専門部会は、市関係課及び関連団体等で眉山活性化に係るより専門的な課題等を検討し、眉山活性化委員会に報告することを目的としています。

各課題に対して、それぞれ部会を開催しました。



眉山活性化専門部会

4.2.2 部会概要

(1) 登山道部会

- ・ 内容：登山道の整備、活用、広報等を検討
- ・ 対象：眉山風致地区内の登山道

(2) 道路部会

- ・ 内容：道路改良（局部改良及び交通安全対策等）及び維持管理（構造物修繕及び剪定等）を
検討
- ・ 対象：眉山・東部観光線、眉山・西部観光線、眉山観光線

(3) にぎわい部会

- ・ 内容：眉山公園と阿波おどり会館・眉山ロープウェイの連携、関連施設の整備等を検討
- ・ 対象：阿波おどり会館・眉山ロープウェイ及び関連施設

(4) 山頂部管理者部会

- ・ 内容：眉山公園（山頂部）の各施設管理者と情報を共有し、再整備に係る役割分担等を検討
- ・ 対象：眉山公園（山頂部）

(5) 大滝山部会

- ・ 内容：眉山公園（大滝山部）周辺の現状及び再整備に係る役割分担及び広報等を検討
- ・ 対象：眉山公園（大滝山部）周辺

(6) 景観・環境部会

- ・ 内容：樹木伐採・剪定等による景観の確保、公園施設整備による環境及び眉山景観への影響等を検討
- ・ 対象：眉山の景観及び環境

(7) 利活用部会

- ・ 内容：眉山公園でのイベント開催、団体間交流、効果検証等を検討
- ・ 対象：眉山公園

(8) DX 部会

- ・ 内容：眉山でのデジタル技術の展開及び活用について検討
- ・ 対象：眉山

4.3 他都市事例

管理運営手法を含むソフト面や、公園の魅力向上に資する施設整備を含むハード面について他都市の事例を紹介します。

4.3.1 ソフト面の事例

(1) 桂浜公園（高知市：高知県高知市）

【指定管理者制度による官民連携】

都市公園の魅力向上に向けて高知市の桂浜公園は、民間事業者と協力して桂浜公園の再整備を行っています。桂浜公園の駐車場から公園入口付近にあったお土産屋など個人が所有していた建物を高知市が取得、耐震工事をを行い、建物のリノベーションや施設の整備等の提案を通して、新しい指定管理者を募集し、決定されました。

既存建物の耐用年数を考慮し、公募設置管理制度を用いた官民協力ではなく、既存施設を活用した指定管理制度の運用とすることで、高知市と民間事業者の負担を軽減し、民間事業者が収益を上げやすい工夫となっています。

【にぎわい創出の工夫】



事業者の提案施設「桂浜ミュージアム」は、桂浜の歴史、自然、文化、工芸品等について学べるようになっており、気軽に触れやすいデザインで紹介されていた。また、海のピアノやフォトスポットを用意するなど SNS での発信を促進する工夫もされていた。

桂浜公園のエントランス部分は、「食べる・買う・学ぶ・憩う」をテーマとして「海のテラス」として商業施設が整備され、その中心には、大屋根を設置した広場が整備されています。「桂浜」の大型の文字オブジェも設置され、桂浜に訪れた思い出として印象に残るよう工夫されています。

その他にも桂浜本浜には、1階には軽食・休憩所・トイレの機能、2階は展望テラスとして活用できる本浜休憩所「五色のテラス」を整備するなど、公園利用者の周遊性や利便性、桂浜公園の魅力向上につながる整備が行われています。



桂浜公園

主要観光地における指定管理者制度による官民連携事例

(2) 五台山公園（高知県：高知県高知市）、高松市立中央公園（高松市：香川県高松市）

【P-PFI(公募設置管理制度による官民連携)】

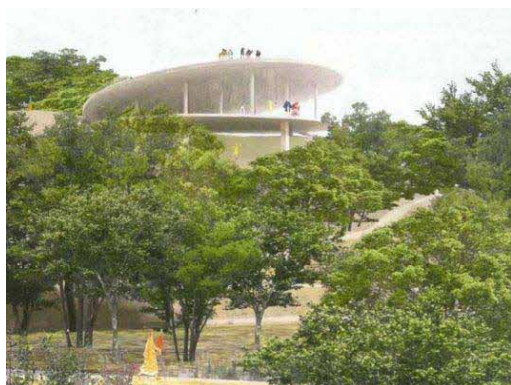
(五台山公園)

五台山公園は、高知駅から車で 20 分ほどに位置する海拔 139m の五台山一帯に広がる公園です。カフェを併設した展望施設が整備されていましたが、施設の老朽化等を考慮し、公募設置管理制度の導入も視野にサウンディング調査が実施されました。

高知県は、令和 4 年 11 月に公募設置指針を公表し、令和 5 年 9 月に選定された事業者と実施協定を締結しています。



五台山公園から見る街並み



提案施設のイメージパース

出典：高知県

新しく提案された施設は、レストランや物販店を併設する展望施設であり、事業者は、園路や照明、案内板などの一部の公園施設も事業者負担により、併せて整備する予定となっています。

事業者は、公募設置施設設置許可の期間中(最長 30 年)、レストランなどの収益施設の費用から、施設の維持管理、運営を行います。

(高松市立中央公園)

高松市立中央公園は、高松市の市街地の中心部に位置する公園です。

高松市は、表面化してきている公園の様々な課題解決に向けて、公募設置管理制度を活用した再整備についての調査・研究を進め、令和 4 年 12 月に「民間活力を活用した中央公園再整備方針」を策定し、令和 5 年 4 月には公募設置管理制度を活用した公募対象施設（カフェなど）の設置等予定者として市内の民間事業者を選定しました。

大規模イベントにも対応できるように芝生面積を拡大し、園内にはカフェや遊具、トイレなどを新設するなど公園のイメージアップとなる整備を計画しています。



高松市中央公園 現在の芝生広場

民間事業者と行政の双方の負担を考慮し、適切な官民連携手法を選択

民間事業者の意欲の向上が、積極的な公園整備につながっている事例

(3) おかやまプレーパーク (岡山県岡山市 こどもの森 国際児童記念公園内)

【子どもたちの自由な遊び場】

【プレーパークとは】

プレーパークは 1943 年にデンマークで誕生した子どものための遊び場であり、「冒険遊び場」とも呼ばれています。

通常の都市公園のようにブランコやシーソーなど既存の遊具はなく、子どもたちが自由な発想で遊び、作りあげていく遊び場です。

通常常駐のプレーリーダー(大人)がいて、子どもの「遊び」を支援するとともに、プレーパークの安全管理を行います。



おかやまプレーパーク



子どもの自由な遊びをめざして

おかやまプレーパークは、岡山市国際児童記念公園こどもの森内の一角で開催されています。

赤ちゃんから小学生、もっと大きな子どもたちまで、いろいろな子どもが遊びに来ています。

子どもの「やってみたい」を大切に開催し、日常的に自由に遊べる場を目指して始めました。

施設整備は必要なく、「どんな道具を使って、どんなアソビをしても良い」というコンセプトで運営されています。

どろんこ遊びや水遊び、基地づくりや木を切って手づくりブランコを作る等、子どもたちがやってみたいことを自由にのびのびと思いきりできる遊び場となっており、子どもたちが失敗や成功を繰り返し、様々な立場の人との関わりを通して自分らしく居られる温かい場を市民や行政、様々な立場の方と作っています。



どんなものでも遊び道具に



木に設置された手づくりブランコ

市民や行政、人と人のつながりが継続的な活動を可能にし、
子どもたちが自由に遊べる場となっている事例

(4) 稲佐山公園・長崎ロープウェイ（長崎市：長崎県長崎市）

【指定管理者制度による官民連携】

稲佐山公園は、民間事業者の能力や技術、経験を活用し、市民サービスの向上を図る目的で指定管理者制度による施設の管理・運営を令和2年4月から行っており、委託先の運営会社は5年に1度選定されます。

来場者数は令和5年度実績で年間約61万5千人を数えます。

管理会社は、従来のイベントに加えて自主企画のイベント、地域と連動したイベントを行っています。

魅力あふれる稲佐山のウェブサイトづくりやSNS等を活用した情報発信を強化。特に「INASA なび」アプリは利便性の高いツールとなっています。

地図付き施設情報ページ内では、中腹駐車場や展望台駐車場の混雑具合がライブカメラ映像で確認できるほか、イベントの周知・募集や施設内レストランの予約、アウトドアグッズのレンタル予約などができます。



出典：稲佐山公園 HP



出典：稲佐山公園 HP



ロープウェイ

稲佐山からの眺望を楽しむ国内外からの観光客だけではなく、地元を含む近隣住民をもターゲットにした誘客戦略の成功例と言えます。

公園山頂の展望台まではロープウェイ（定員31名、所要時間5分、大人往復1,250円）、スロープカー（定員80名、所要時間8分、大人往復500円）、マイクロバス、自家用車、徒歩でのアクセスが可能となっています。

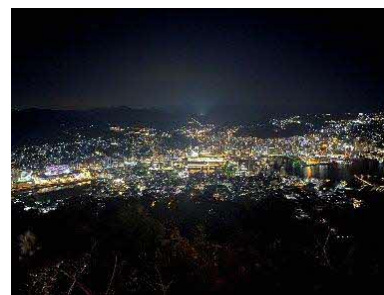
スロープカーの発着駅や野外広場がある無料の中腹駐車場までは、中心市街地からの路線バス、大型バス、自家用車、徒歩で行くことができます。

長崎駅からロープウェイ麓側の淵神社駅までは徒歩15分程の距離で、路線バスのほか、主要ホテルなどを循環する無料循環バス（夜間のみ）もあり、夜景目的の観光客は様々なパターンでのアクセスが可能です。

ロープウェイ、スロープカー、自家用車の利用状況はそれぞれ年間約20万人とにぎわいを見せています。



展望台から市内を一望



1000万ドルの夜景

主要観光地における山頂公園の管理運営事例

4.3.2 公園施設（ハード面）の事例

(1) 甫喜ヶ峰森林公園（高知県：高知県香美市）

【キャンプ場(無料)の設置】

甫喜ヶ峰森林公園は、昭和 53 年に「防災もみどりできずくふるさとづくり」をテーマに行われた第 29 回全国植樹祭に合わせて整備され、平成 17 年から指定管理制度により運営されています。

土佐湾を望む素晴らしい眺望や、自生する草花や樹木を活かした管理がされており、雄大な自然を楽しむことができます。

公園内には無料のキャンプ場が整備され、利用する際は管理者へ利用届を申請する必要があります。



キャンプ場



炊事場・トイレ等

同じエリアには炊事場やトイレも整備されており、快適にキャンプができる環境となっています。

管理者が不在となっている時間もあり、利用者がキャンプのマナーを守ることを前提に運用されていますが、一部の利用者による炭を含むゴミの放置などの問題があり、無料キャンプ場の運営の課題として挙げられます。

公園内でのキャンプ施設の管理運営事例

(2) えひめこどもの城（愛媛県：愛媛県松山市）

【様々なアクティビティ】

えひめこどもの城は、愛媛県松山市にある愛媛県立の児童厚生施設です。

えひめこどもの城・とべ動物園・愛媛県総合運動公園・えひめ森林公園の4施設で「とべもり+(プラス)」と呼ばれ、緑豊かな砥部の森から、挑戦と楽しさのスケールアップを目指しています。

えひめこどもの城は、指定管理者制度により伊予鉄総合企画(株)が運営し、大型児童館という位置づけで、遊びを通して子どもの健全育成を推進することを目標としています。

園内には「こどものまち」、「アクティビティ」、「創造の丘」、「アクティビティ -NEXT-」、「ふれあいの森」のゾーンがあり、様々な体験ができるようになっています。

各種イベントなども行われ、入園料は無料、駐車場及びアクティビティは有料となっています。



(移動手段)

園内は約35haと広く、コシロ・カート（自動運転のカート）、ロードトレイン、てんとう虫のモノレール、コシロちゃんバスという複数の移動手段があります。

中でも、自動運転のカートは、安全のためスタッフが先頭車両に乗車し、お客様を乗せて運行しており、カートの後ろには、荷物置き場を設置すればベビーカーや旅行バッグの積載も可能となっています。

カートは、路面に埋設した磁石によって自動で誘導し、走行する仕組みとなっています。



自動運転カート

(ポブスレー)

約360mをソリで一気に滑り降りる遊具で、人気があります。

ソリを自ら操作し、景色を見ながら、爽快地に駆け抜けることができます。

出発点と終着点に駅があり、複数名人員を配置しています。



ポブスレー



ポブスレー乗り場



ジップライン

出典：えひめこどもの城

(とべもりジップライン)

えひめこどもの城ととべ動物園を結ぶ、往復730mの四国最大級のジップラインが設置されており、年間約1万人の利用者数となっています。

絶景の中を滑空するスリルを味わうことができます。

出発点と終着点に、複数名人員を配置しています。

【AR】

イベントとして7つのARコンテンツが導入されています。

えひめこどもの城内の7箇所に設置されている二次元バーコードをスマートフォンやタブレットで読み取ることにより、「恐竜が現れる」「戦国武将や忍者に変身」「得点を競うゲーム」等の仮想空間を体験することができます。



AR コンテンツ



AR コンテンツ

【レストラン】

レストラン「I♡RIVAGE (アイ・リヴァージュ)」は、本格的な料理が味わえます。

指定管理者が運営しています。



アイ・リヴァージュ
出典：えひめこどもの城



提供される料理の例



アイ・リヴァージュ
出典：えひめこどもの城

様々なアクティビティ展開や工夫を凝らした管理運営事例

(3) レインボーライン山頂公園（福井県三方郡美浜町）

【民間の工夫を凝らした山頂整備】

福井県にあるレインボーライン山頂公園は、以前は町営であり昭和45年4月からは(株)レインボーラインが自社経営しています。

地主である区に土地の使用料を支払い、公園管理を直営で行っており、「三方五湖に浮かぶ天空のテラス」をコンセプトに令和2年にリニューアルオープンしました。

リニューアルに係る工事費は、国、県、町が負担し、備品は(株)レインボーラインが購入しています。

5つのテラス（美浜テラス、五湖テラス、若狭テラス、中央テラス、茶屋テラス）があり、ソファでくつろいだり、グルメを食べたり、足湯をしながら、様々なシチュエーションで三方五湖や日本海の絶景を楽しむことができます。

貸出無料のレインボーの傘や、恋のパワースポットとして知られる「幸せの鐘」など、小道具やフォトスポットも充実しているほか、県内のどこでも買えるお土産は置かず、ご当地のスイーツやメニューを提供しています。

公園内のカフェではテイクアウト可能なオリジナルのパフェやサンドなどもあり、以前はくつろげる場所が少なく平均滞在時間が約30分と短かったが、リニューアルにより、日よけやSNS映えのための工夫を凝らし快適に過ごせる空間を用意したことで、平均滞在時間は1～1.5時間と伸びた結果、売店やカフェレストランの売り上げも伸びました。



若狭テラス



五湖テラス



中央テラス

出典：株式会社レインボーライン

絶景をバックにセルフ撮影ができるスマホスタンドやペットのリードフックの設置も嬉しい気配り。土に還る素材のお皿に願いを書き、湖めがけて投げる「かわらけ投げ」の体験もできます。

ここでしか味わうことのできない体験の提供をし、消費額アップにつなげた成功例と言えます。



かわらけ投げ



貸出無料のレインボー傘



スマホスタンド



リードフック



撮影スポット

「日よけ対策やSNS映えのための工夫」「ここでしか味わうことのできない体験」により滞在時間が伸びた事例

(4) ひろしま遊学の森 広島市森林公園（広島県広島市）

【自然を学べるレクリエーション施設】

市民が「森林」に親しみ、観察や体験等を通じ、「自然のしくみ」「自然の大切さ」「生命の尊さ」について学べる公園となっています。

バードウォッチングやハイキング、下刈り、枝打ち、間伐、炭焼きなどの林業体験ができるほか、園内は自然がいっぱいで、季節ごとの花などの自然を感じることができます。

「こんちゅう館」は中四国唯一の施設であり、多種多様な昆虫の生態を分かりやすく学ぶことができます。



公園案内図



林業体験広場 作業場

自然や生き物に触れあい学ぶ



ネイチャーポジティブの実践事例



管理センター



こんちゅう館
オブジェ

(5) びわ湖テラス (滋賀県大津市)

【民間の力による山頂整備】

滋賀県大津市琵琶湖の山頂にある、びわ湖テラスは、標高約 1,100mの打見山頂のびわ湖バレイ内の「息をのむような景色の中で、特別なひととき」というコンセプトのもと整備された観光スポットです。

アルピナ B1(株)びわ湖バレイ事業所が運営しています。

メイン展望テラスからは雄大な琵琶湖の景色を見ることができ、もう一つのテラスである蓬莱山山頂のCafé カフェ 360 では静かにくつろぐことができます。



びわ湖テラス

明確なコンセプトのもと全体整備を行うことの重要性を示す事例

4.4 眉山未来プランニングコンセプト

4.4.1 統一したデザイン

本プロジェクト対象エリア【眉山公園（山頂部）、眉山公園（大滝山部）、西部公園、アクセス道路、登山道等】の施設デザイン（建築物、土木構造物、サイン、照明等）の統一を図ることで、眉山の環境に根ざした良質な空間及び景観形成を図り、眉山未来のブランディングにつなげます。

今後、眉山未来プランの詳細プラン作成にあたりデザインマニュアルを整理します。

【デザインマニュアル作成時に目標とする眉山未来】

- ・眉山の環境に根ざしたくつろぎの空間
- ・みんなが楽しみながら滞在できる施設
- ・眉山で遊び、学び、みんなをつなぐ場所
- ・安心して楽しめる魅力あふれる光環境
- ・眉山ならではの、ここだけのストーリー



吉野川河口から望む眉山

出典：Fun!Fun!とくしま

4.4.2 眉山の誘導・サイン計画

(1) 現状と課題

眉山公園における誘導やサインについて、現状と課題を整理し、以下に列記します。

- ・ 全体的にサインの表記やデザインの統一性がない
- ・ アクセス道路、登山道、園内における入口、分岐点での誘導サインが不足している
- ・ 表記が分かりにくく、観光客目線でも分かりづらい
- ・ 所要時間が分からないので行きづらい
- ・ 外国人観光客が増加しているが、案内板に外国語表記がない
- ・ 眉山には歴史的・文化的に魅力のある施設やスポットがたくさんあるが、場所が分かりづらい
- ・ ガゼボやモラエス像等、各施設や設置物について設置された経緯や施設自体の説明がない又は分かりづらい

【標示に統一性がない】



【分かりづらい誘導標示・サイン・標示なし】



【木がせり出して案内標識が見えない】



(2) 整備の方向性

1) 案内・誘導

アクセス道路、登山道、園内における入口、分岐点等には誘導サインを設置し、所要時間も把握できるようにします。また、日常的に利用する人だけでなく、外国人を含む観光客も安心・安全に眉山を楽しむことができるように、分かりやすいサインによる案内誘導を図ります。



案内看板の例

出典：株式会社コトブキ

2) 統一性のあるデザイン

コンセプトを反映した統一性のあるデザインのサインとします。

3) 外国人に向けた対応

外国人向けに、外国語表記や QR コード等を活用したサインの設置を検討します。

4) 魅力を伝えるサインの設置

眉山周辺にある歴史的・文化的に魅力の高い施設やスポットについて、その場所にある経緯や各施設・物自体の説明を記載したサインを設置し、魅力を伝えます。

5) デジタル技術の活用

QR コードや AR 等、デジタル技術を活用したサインの設置を検討します。



案内看板・QRコードの例



魅力あるサインの例

4.4.3 景観・環境への配慮

眉山の再整備を行うにあたり、以下の景観・環境への配慮の視点を持って事業を進めていきます。

(1) ネイチャーポジティブの視点を加味した環境への配慮

ネイチャーポジティブとは和訳すると「自然再興」という意味で、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。

今の地球は過去 1,000 万年間の平均と比べて 10 倍～100 倍もの速度で生物が絶滅していくなど、いわゆるマイナスの状態にあります。この状況から、これまでの自然環境保全の取り組みだけでなく、経済から社会、政治、技術までの全てにまたがって改善を促していくことで、自然が豊かになっていくプラスの状態にしていこうというのがネイチャーポジティブの趣旨です。

参照：環境省発信 ecojin

ネイチャーポジティブに関する取り組みの具体例としては、森林再生プロジェクトや環境ツアー等が挙げられます。

眉山未来プランの中でも、下記のようなネイチャーポジティブの視点を加味した整備を進めます。

1) 植樹の方向性

眉山に自生する種を優先した植樹を行います。眉山は主にコナラ林で覆われており、他にはスギ、ヒノキ、サワラ、アカマツ、カシなどが植生しています。また、日本の重要な植物として特定植物群落にも指定されたシイ林（スダジイ）などの自然植生も見られます。

また、これらの種は、きれいな花が咲く観賞用でないため、人の目につきやすい園路、道路沿いには、観賞用となるモミジ、桜、アジサイなど植栽を行うことで公園としての魅力向上につなげます。

2) 植生の適切な伐採

森林は定期的な伐採や間伐が必要になります。これにより、木々が過密状態にならず、健康に成長することができます。特に古い木や病気の木を取り除くことで、森全体の健全度を保つことができます。

防災面でも、適切な伐採は山火事や土砂崩れのリスクの低減にもつながります。また、伐採により新たな景観スポットを作り出すことで、にぎわいの創出、魅力向上につながります。

上記のとおり、適切な伐採を行うことで、森林の健全度を保ち、にぎわいの創出につなげます。

3) 工事における配慮

眉山及びその周辺には、住居と近接する区域があり、工事期間中も多くの公園利用者が来園されることが予想されるため、工事における騒音、振動、粉じん、水質への環境影響には十分配慮して工事を行います。

また、眉山には森林性の哺乳類や野鳥など、様々な生物が生息します。既存の生態系への影響が最小限となるような無理のない計画で工事を行います。

4) 自然を活かした整備

既存の野鳥観察エリアは、新たな野鳥の観察地点としてバードバスの設置、園路の整備を行います。

また、眉山には多種多様な植物が存在しているため、眉山の植物を学べる散策路を整備し、各植物の名前や特徴を解説する看板を設置します。眉山の自然を活かし、新たな利用者の創出につながる整備を行います。

5) 市民参加の促進

緑化やまちの美化に取り組む各地域の自治会や NPO 団体・法人等の活動を支援し、市民の自発的なまちづくり活動を促進します。

(2) 景観への配慮

1) 外観を損なわない整備の実施

眉山は徳島市景観計画の中でも「シンボル景観」として本市の重要な景観形成地域となっています。徳島市としても眉山の景観を考慮した街づくりを推進しており、眉山の景観に配慮した整備を行います。



吉野川（吉野川橋）から望む眉山



鮎喰川（上鮎喰橋）から望む眉山



勝浦川から望む眉山

2) 整備における景観的配慮

【土工事】

整備に伴い切土、盛土した箇所には植栽を行い、景観的配慮を目的とした緑地を確保します。

【施設のカラーリング】

新たな施設を整備する際は、眉山の景観と一体となり、眉山本来の美しさを損なわないようなカラーを選定します。

眉山は市内から見る「外からの美しさ」と、展望広場等、公園内から見る「中からの美しさ」を有しています。眉山の景観の魅力を守りつつ、新たな景観的魅力の創出につながる整備を行います。

4.4.4 ユニバーサルデザイン

眉山未来プランの全ての施設において「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を基本として、段差等の物理的なバリアだけでなく、利用案内等の情報面にもバリアが生じないように、ハード・ソフト両面から高齢者、障害者等を含む全ての人々の利用に配慮して整備します。

(1) 整備の具体策

【バリアフリーのアクセス】

公園全体に段差のない歩道やスロープを設置し、車いすやベビーカーでも自由に移動できるようにします。

【視認性の高い案内標示】

視覚障害がある方も利用しやすいように、点字や大きな文字で情報を提供する案内板や方向標識を設置します。

【休憩スペース】

高齢者や子ども、体力に自信がない方が休憩できるよう、適切な間隔でベンチを設置し、日陰となる施設を設けます。また、授乳室も適切に設置します。

【バリアフリーのトイレ】

車いすでの利用が可能な広いトイレや、手すり付きのトイレを設置します。また、オストメイトやベビーシートも設置します。

【視覚的な要素の導入】

視覚障害のある方でも楽しめるように、触れることで楽しめる彫刻や植物、インタラクティブな設備の導入も検討します。

【安全対策】

滑りにくい舗装や転倒防止対策を講じ、安全な環境を提供します。また、適切な照明を設置し、夜間でも安心して利用できるようにします。

【遊具の多様性】

車いすのまま利用できる遊具や、障害がいのある子どもも一緒になって楽しめるインクルーシブ遊具を積極的に採用します。

計画にあたっては、以下に示す基準類を遵守し、全ての利用者が安全で安心して快適に過ごせる公園となるよう工夫します。

(準拠する基準等)

- ・ 「徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例」
- ・ 「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン
(改訂第2版) 令和4(2022)年3月 国土交通省」
- ・ 「都市公園における遊具の安全確保に関する指針
(改訂第2版) 平成26(2014)年6月 国土交通省」
- ・ 「遊具の安全に関する規準 (JPFA-SP-S:2024)

2024年4月 (一社) 日本公園施設業協会

4.5 眉山未来プラン

令和5年度に実施したサウンディング調査で出された提案をたたき台とし、本方針策定において実施した人流調査、各意向調査、他都市事例調査、現状分析等を総合的に考慮した上で、公募市民によるびざんミーティングで作成した「びざんミーティング眉山未来プラン」を基に眉山未来プランを作成しました。

4.5.1 眉山公園（山頂部）

(1) 眉山公園（山頂部）眉山未来プラン・ゾーニング

眉山未来プランでは、眉山公園（山頂部）を以下に示す3つのゾーンに分けています。

【エントランス・広場ゾーン】 やまとまちを感じるくつろぎの空間

主な施設：エントランス／キャンプ／芝生広場／展望プロムナード・フォトスポット・ベンチ／
野鳥観察・自然体験

【パークセンターゾーン】 年中楽しめる交流・遊びの空間

主な施設：パークセンター・スロープ／山頂ステージ／シンボル広場／こども広場／
デッキプロムナード／ロングスライダー・ジップライン

【展望広場ゾーン】 眺望を活かした花と緑の空間

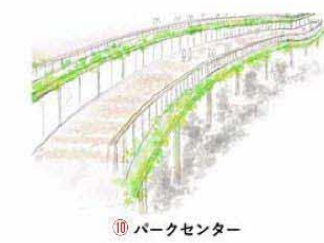
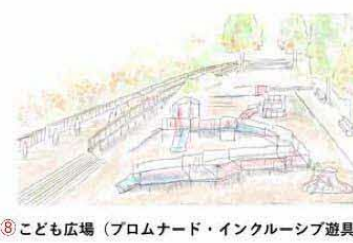
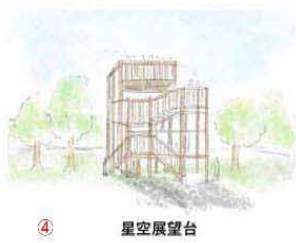
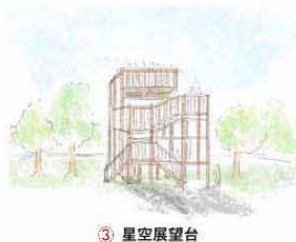
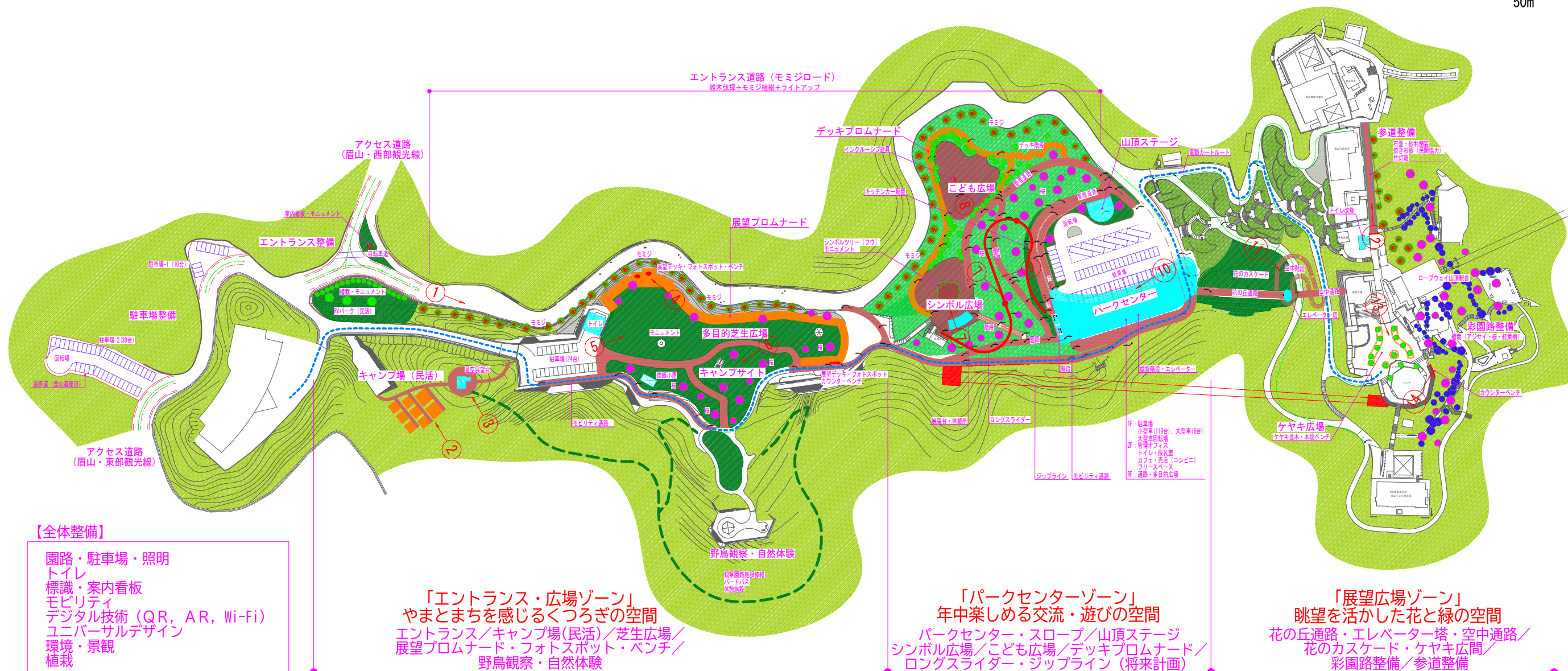
主な施設：花の丘通路・エレベーター塔・空中通路／花のカスケード／ケヤキ広場／彩園路整備／
参道整備

眉山未来プラン（案）

「見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル」



50m



(2) エントランス・広場ゾーン

—やまとまちを感じるくつろぎの空間—

1) エントランス整備

眉山の麓から山頂へ向かう 2 本の道路がつながる交差点付近をエントランスとして整備します。以前ここには有料道路の料金所施設があったことから、必要以上に幅広な空間となっています。交差点改良及び周りの植栽やモニュメントを整備して、エントランス空間を演出します。

また、余地には民間活力による RV パークの整備を検討します。

2) キャンプ場・星空展望台

眉山海月東側の小高い丘、日当たりの良い南側斜面には、こちらも民間活力によるグランピングやコテージをイメージしたキャンプ場の整備を検討します。

さらに、丘の頂上部分には、周囲より一段高い地の利を活かしてやぐら形式の展望台を整備します。ここからは、南側に四国山地の山並みを、北側には吉野川平野に広がる市街地を一望できます。また、夜には静寂の中で 360 度星空のパノラマを楽しむことができる星空展望台となります。



グランピング・コテージのイメージ



星空展望台のイメージ

3) 芝生広場

現在のお花見広場は、記念碑や植栽の配置、園路の導線など見直し、山頂に吹く風を全身で感じることができる広々とした芝生広場としてリニューアルします。

芝生広場の北側は、ピクニックやイベントなど多様な利用者のニーズに応えられる多目的広場として、南側は、昼夜を通してゆっくりと眉山の自然を満喫できるキャンプサイトとして整備します。また、照明や給水設備、ベンチ等の休養施設はもとより、老朽化の目立つトイレについても利用者が快適に使用できるように更新します。



芝生広場北側のイメージ

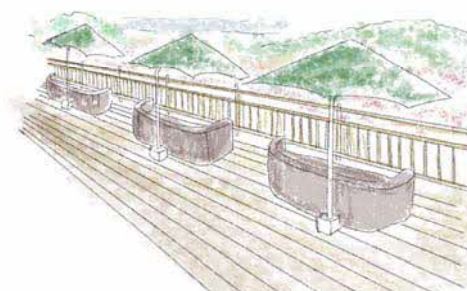


芝生広場南側のイメージ

4) 展望プロムナード・フォトスポット・ベンチ

芝生広場の北側斜面から現状のガゼボまでを取り巻く区間（全長約 180m）には、栈道形式のデッキによる展望プロムナードを整備します。

広場を取り巻く視界をさえぎる樹木を伐採し、市街地を見下ろす眺望を確保します。さらに、ソファベンチやカウンターベンチ等を要所に設置して、ゆっくりとくつろぎながら四季を感じられる空間を演出します。また、フォトスポットも盛り込んで計画します。



展望プロムナードのイメージ



レインボーライン山頂公園のベンチ



結のブランコ

出典：えひめ森林公園

5) 野鳥観測・自然体験

広場の南側斜面の森、現状の野鳥観察広場周辺は、野鳥観察に加えて自然体験もできるエリアとして整備します。既存の遊歩道を再整備するとともに、バードパスや小規模な休憩施設を設置することで、より幅広い利用者が思わず散策してみたいくなるエリアとして自然環境の保全を第一に整備を検討します。

(3) パークセンターゾーン

一年中楽しめる交流・遊びの空間ー

1) パークセンター・スロープ

現在公園を東西分断し利便性の低下を招いている駐車場の南側に、階段状2階建構造のパークセンターを整備します。1階はピロティー構造とし周辺部オープンスペースと一体となった駐車場を、2階にはカフェ・売店、トイレ、授乳室、管理オフィス、フリースペース等が入り、屋上は通路機能を兼ねた多目的広場として利用します。

駐車場は、現在では設けられていない大型車両・バス用の駐車スペースを確保した上で、現状を上回る駐車スペースを確保します。

2階は、北側前面に広めのデッキスペースを確保し、デッキ端部には植栽を配して緑化を図ります。

ベンチ・テーブル等も設置して利用者が、思い思いのタイミングで休憩できるスペースとします。また、屋内フロアーには、利用者の目線に立って公園の利便性と魅力を高めるため必要不可欠なサービス施設を民間活力の導入も視野に入れて整備します。

屋上は、現状で東西分断された公園の移動を容易にするための通路としての機能を兼ねた多目的広場となります。屋上庭園を設けて緑化を図りながら、イベント等の開催によるにぎわい創出の拠点として利用できるように電源・給排水設備を装備します。また、必要に応じてキッチンカーなどの搬入ができるように、駐車場の北側から西側斜面の法裾を通して車両を乗り入れることができるスロープも整備し、幅広いニーズに対応できるようにします。



パークセンターのイメージ

2) 山頂ステージ

駐車場北側に屋外ステージを整備します。ここにステージを設置することで、西側斜面とスロープ、パークセンターデッキ、花の丘・空中通路とロープウェイ展望広場、ステージを囲む地形と施設を活かした観客スペースが確保され、大規模なイベントにも対応できる山頂ステージ空間となります。

3) シンボル広場

パークセンター西側のなだらかな丘の頂部、現状森の部分にはシンボル広場を整備します。広場の中央には公園のシンボルツリーとなる高木（フウ等）を植樹します。この位置は、エントランス道路（モミジロード）から正面に見上げることができるため、シンボルツリーには絶好のポイントと言えます。また、シンボルツリーの周りには文字モニュメント等を配置して、公園を訪れた人の記憶に残る景観を演出します。

また、広場の南側は、広場整備により視界が開け、遠方の山々まで見渡せる絶好のビューポイントとなるため、トイレを備えた複合休憩施設を整備して、その屋上に展望所を設置します。



シンボルツリーのイメージ

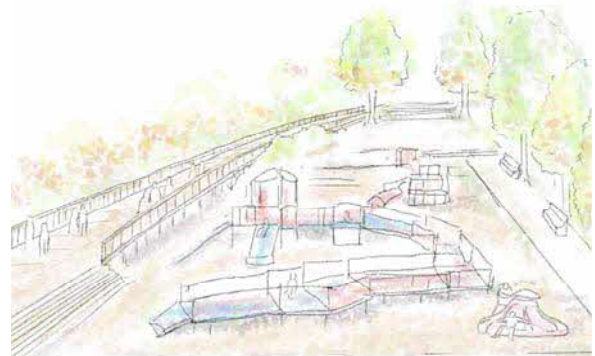
4) こども広場

シンボル広場より一段下がった北側の丘は、こども広場として整備します。周辺部は既存樹木やドングリのなる木を植樹、中央の広場部分にはインクルーシブ遊具や複合遊具を設置して、年齢や体力の違いに関係なく、全ての子どもが楽しい時間を共有できる場とします。

また、こども広場周辺部で自然を活かしたプレーパークの開催も検討します。

5) デッキプロムナード

シンボル広場やこども広場を囲む形でデッキプロムナード、遊歩道を整備します。デッキにはベンチを設置して、シンボル広場やこども広場で遊ぶ子どもたちを見守れるようにします。また、デッキの広場と反対側には、植樹されたイロハモミジの並木が連なり四季を彩ります。



こども広場・デッキプロムナードのイメージ

6) ロングスライダー・ジップライン

シンボル広場・こども広場とパークセンターの間の斜面は、切盛りの土工事によりその勾配をできるだけ緩くした上で、管理道路や園路を整備し、桜を主体とした植樹を行い、桜の名所として市民に長く親しまれてきた眉山のイメージを継承していきます。

また、メインアトラクションとして斜面の高低差を利用したロングスライダーを設置します。さらには、将来計画としてロープウェイ展望広場からの民活ジップラインの設置も検討します。



ロングスライダーのイメージ

(4) 展望広場ゾーン

—眺望を活かした花と緑の空間—

1) 花のカスケード

現在の駐車場から展望広場に向かう階段を彩る花のカスケードは、来園者を出迎える役割を担う重要な施設となっています。計画では、この花のカスケード南側、現状森の部分に緩やかな斜面に盛土を行い花のカスケードを拡張します。これにより、エントランス通路から駐車場に入ってくると、今よりパワーアップした色とりどりの花と緑が、来園者を出迎えることになります。

2) 花の丘通路・エレベーター塔・空中通路

ユニバーサルデザインの観点から、パークセンター屋上から展望広場まで、車いすで利用できるルートとして、花の丘通路、エレベーター塔、空中通路を整備します。

花の丘通路は、拡張された花のカスケードの頂部に設置し、利用者は花のカスケードを上から見下しながら移動します。

エレベーター塔は、花と緑の森の中に立つランドマーク的な存在となるため、景観に配慮したデザイン性の高いものとしします。

空中通路は、エレベーター塔から直線で伸びる通路部と、花の丘通路から曲線を描きながら直線通路に接続する2本の階段から構成されます。階段を支える支柱はシンプルな構造で通路を歩く人からは見えない配置とし、まるで空中に浮かんだ通路・階段を歩いているかのような感覚を味わえるものとしします。



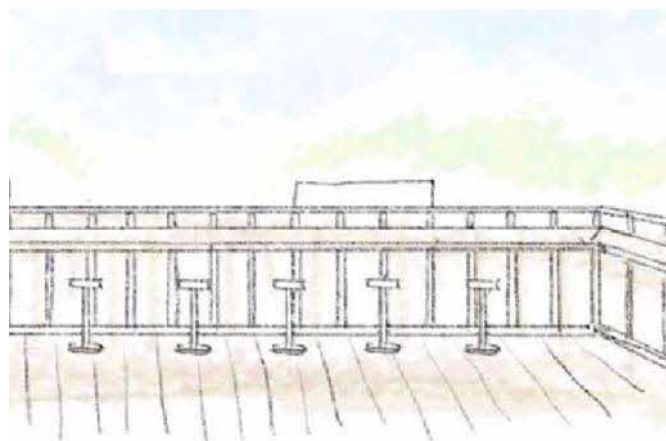
エレベーター塔・空中通路のイメージ

3) ケヤキ広場

現状で夏の日差しを避ける陰のない展望広場には、ケヤキ等の高木で木陰をつくり、これを取り囲むベンチを設置して、くつろぎの空間を整備します。また、展望デッキにはカウンターベンチを設置して、まちと川と海が織りなす素晴らしい眺望を、さらに落ち着いて楽しめるようにします。



ケヤキ広場のイメージ



展望デッキ カウンターベンチのイメージ

4) 彩園路整備

現状あまり利用されていない展望広場から東側エリアは、園路の整備や桜・紅葉樹・アジサイ等の植栽を行い、楽しみながら散策できるスペースにリニューアルします。また、現状つながっていないロープウェイ下から北側への園路を整備し、散策しやすい周遊ルートを整備します。

5) 参道整備

展望広場から剣山神社に向けた通路は、和の空間をイメージした参道としての整備を検討します。

民間施設管理者等と協議し、景観に配慮した整備の可能性を探っていきます。

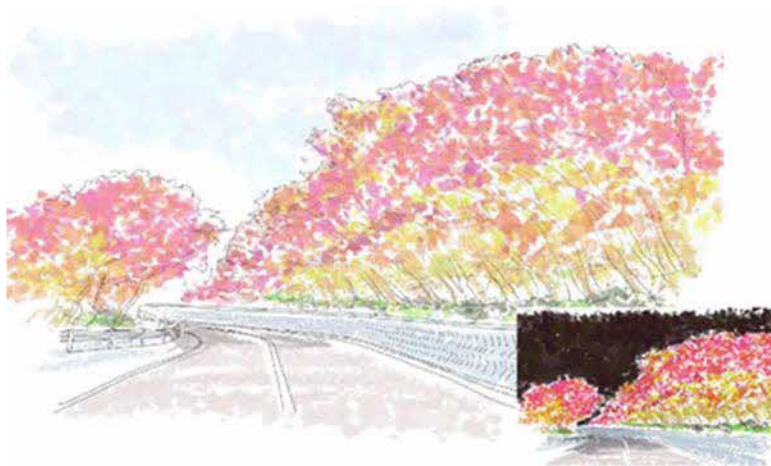


参道整備のイメージ

(5) ゾーン共通

1) モミジロード

エントランスロード（延長約 500m）は、バス等の大型車両通行空間確保の観点から沿道の樹木を伐採し、イロハモミジを主とする紅葉樹を植樹することで、眉山の自然の素晴らしさを感じてもらえる空間として整備します。さらに、夜は樹木をライトアップすることで、昼夜を問わず訪れたい眉山を目標とした仕掛けづくりを行います。



モミジロードのイメージ

2) 園路整備

園路は、景観や安全面に配慮して整備します。幼児から年配の方、車いすの方、外国の方など、全ての利用者が安心して無理なく利用できるようユニバーサルデザインで計画します。

3) 駐車場整備

駐車場は新設も含め、可能な限り多くの台数を確保できるようにします。

4) 照明整備

景観や環境に配慮し、園内を明るく彩ることで、夜間でも安心して楽しむことができるようにLEDを用いた照明設備を整備します。公園として必要な公園施設照明と、ライトアップ等の魅せる景観照明を公園全体で展開します。

また、防災の観点からはソーラー対応型の照明設備の採用も検討します。



照明整備イメージ



照明整備イメージ

出典：徳島市中心市街地等 LED 景観整備基本計画

5) トイレ整備

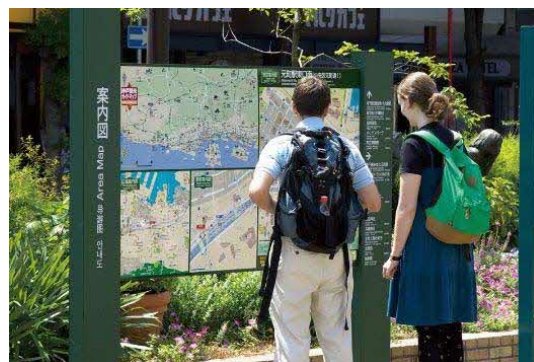
トイレは、更新、新設、改修をまじえて、誰もが快適に利用できるデザイン性に優れたキレイなトイレを、各ゾーンにバランスよく整備します。

6) 標識・案内看板整備／デジタル技術導入

案内標識・看板は、統一感のあるデザインで外国の方にも分かるよう、公園内に不足なく充実させます。QRコード・ARを用いた園内誘導や施設説明、ARを用いたにぎわい創出のコンテンツ展開、園内を快適に滞在できるようにWi-Fi等デジタル環境を整備します。



案内看板の例



案内看板の例

出典：株式会社コトブキ

7) 移動モビリティ

移動モビリティの導入を検討します。アップダウンのある東西約1kmの園内を歩くことが、体力的に難しい利用者も多いと思われるため、自動運転の電動カートを整備します。展望広場から、花のカスケード、パークセンター1階を抜け、眉山海月までをつなぎます。

8) 植栽

公園整備には既存樹木の伐採、切土や盛土の土工事を行います。適切な間伐、彩りを沿える花苗、桜やモミジ等の魅せる植栽と、スダジイ、アラカシ、コナラ等、眉山に自生する樹木の植栽等、眉山の環境や生態系に配慮した上で魅せる植栽を実施します。

4.5.2 眉山ロープウェイ

(1) 眉山ロープウェイの料金

眉山公園へのアクセスは、アクセス道路、登山道、眉山ロープウェイとなっています。

18歳以下の方は、移動手段が限定的であると想定されることから、18歳以下の徳島市民の眉山ロープウェイ利用料金の割引方法を検討します。また、イベント割引等についても検討します。

(2) 植樹

眉山ロープウェイから山頂沿線への桜の植樹について検討します。



桜植樹の例

出典：Fun!Fun!とくしま

(3) 駐輪場の整備

眉山ロープウェイ利用料金の割引検討に併せて、阿波おどり会館へ自転車を利用し訪れる人数の増加が想定されるため、駐輪場の整備を検討します。

4.5.3 眉山公園（大滝山部）

(1) 園路整備

利用者の動線や景観に配慮した園路整備を検討します。

(2) 標識・案内看板の設置

大滝山は、日常的に利用する人だけではなく、外国人を含めた観光客に対しても安心して楽しむことができるような環境整備を行う必要があります。また、大滝山周辺の道路や登山道を分かりやすく案内することで、経路案内だけではなく、大滝山周辺の歴史的・文化的に魅力の高いスポットをより多くの人に知ってもらおうキッカケとなることが期待されます。

標識・案内看板は、外国語表記やQRコード等を活用し、景観や環境に配慮しつつ、デザインを含めた統一性のある、分かりやすい標識や案内看板の設置及び既設案内看板の更新を検討します。

(3) 休憩施設の整備

大滝山の景観にマッチする和風なイメージの休憩施設の整備を検討します。

(4) 飲食施設

大滝山の景観にマッチする和風なイメージの飲食施設（茶店等）の誘致を検討します。

(5) 植樹

大滝山の景観や環境に配慮し、桜・モミジの植樹やPRについて検討します。



出典：滝のやき餅 和田乃屋



モミジ植樹の例

出典：Fun!Fun!とくしま

(6) マップ

大滝山周辺のマップ作製（神社やほこら等を含めた位置関係が分かる）について検討します。

(7) 観光ルート

観光ルート（例：阿波おどり会館 - 中腹 - 大滝山 - 寺町）の整備を検討します。

市（官）と地元（民）が協力体制を構築し、整備を進めていくこととします

4.5.4 西部公園

(1) 駐車場の増設

現在の駐車場台数は19台で、今後の利便性向上のため駐車場の増設を検討します。

(2) 標識・案内看板の設置

西部公園周辺の道路や登山道を分かりやすく案内する標識・案内看板の整備を検討します。

日常的に利用する人だけでなく、外国人を含む観光客も安心・安全に西部公園を楽しむことができるような環境整備が必要です。

外国人向けには、外国語表記やQRコード等を活用し、景観や環境に配慮しつつ、分かりやすい案内看板の設置を検討します。また、西部公園周辺には、忠霊塔や桐の水があり、各施設についても分かりやすく説明します。

(3) 未利用地の有効活用

公園内には、現在利用していない土地があるため、この未利用地の整備を検討します。



出典：徳島市西部公園施設台帳

(4) 健康遊具の設置

健康遊具の設置について検討します。

(5) 植樹

桜・モミジの植樹について検討します。



桜植樹の例

出典：Fun!Fun!とくしま

4.5.5 登山道

(1) 登山道整備の方向性

市街地中心部に位置する眉山では、自動車やロープウェイではなく、日常的に登山を楽しまれている方も多く、愛好家による清掃活動のボランティアなども行われています。

「観光立国推進基本計画」(令和5年3月31日閣議決定)においても地方誘客に効果の高いコンテンツの整備の具体的な手法として、登山道の施設整備の推進等による国立公園の魅力向上とブランド化を挙げています。

低山登山を楽しむ方も増える中、標高290mの眉山山頂付近に位置する眉山公園においても、気軽に登山や自然が楽しめる魅力的なスポットとして、整備やPRを行う必要があります。

より魅力的な登山道となるように、ハード面の環境整備及びソフト面の取り組みについて必要となる内容について検討します。

(2) ハード面の整備

1) 案内看板の設置

市街地から登山道入口及び経路等を分かりやすく案内する看板の整備が望まれています。

日常的に利用する人だけでなく、外国人を含む観光客も安心・安全に眉山に登ることができるような環境整備が必要です。

外国人向けには、外国語表記やQRコード等を活用し、景観や環境に配慮しつつ、分かりやすい案内看板の設置を検討します。

また、眉山周辺には多くの寺院が集まり名物の「滝のやき餅 和田乃屋」などがある大滝山エリアや、徳島藩主蜂須賀家墓所として国史跡に指定されている万年山墓所など、歴史的・文化的に魅力の高いスポットも多く、登山道としての経路だけでなく、観光地としての魅力あるエリアとして案内できることが望まれます。



案内看板の例
出典：神戸登山プロジェクト



眉山中腹に位置する万年山墓所



大滝山にある「滝のやき餅 和田乃屋」

出典：Fun!Fun!とくしま

2) 登山道の環境整備

眉山で利用されている登山道は、歩きにくい場所も多くあります。

利用者数等に応じて、危険な箇所がある場所は、木道や木階段、ロープ柵といった登山施設の設置を検討します。

新しく設置する施設は、自然景観や自然環境との調和を図ります。経年劣化等による修繕の必要性など将来的な管理については、ボランティアなど登山道を利用する方の協力も念頭に置いたものであることが必要です。



登山道 環境整備の例

出典：神戸登山プロジェクト

3) 休憩施設設置・ビューポイントの整備

低山登山としても紹介される眉山であり、本格的な装備などは必要としませんが、利用者の利便性や快適性を考慮した上で、必要に応じて途中で休憩施設の設置を検討します。

休憩施設は、山小屋や避難小屋等の本格的な登山施設は必要としませんが、自然景観や自然環境に配慮しつつ、利用者が一時的に休憩できる場所として整備します。また、より魅力的な登山体験を提供するために見晴らしが望める場所に生い茂っている樹木は適度な伐採を行い、眺望を確保するなど、ビューポイントとしての整備が可能か併せて検討します。

(3) ソフト面の取り組み

1) 地権者の協力及び意向の確認

既存の登山道として利用されているルートは私有地である場所が多いため、眉山の登山道を広く広報するためには地権者の同意や意思の確認が不可欠です。

そのため、登山道として利用されている経路の把握、またそれぞれの地権者への確認を進めていく必要があります。

2) ルートごとの難易度の設定

眉山は様々な方向から登ることができ、傾斜や道の状況、所要時間などは大きく異なります。

利用者が、自分の年齢や体力に応じたルート選びが可能となるようにルートごとの難易度の設定などを検討します。

県外から来た観光客でも楽しめるルートや、体力づくりなどを目的に利用されている市民が継続的に利用しやすいルートなど、幅広い活用が期待されます。

3) 登山道マップなどの広報活動

地権者の確認及び登山道の環境整備の後、登山道マップ等を作成し、広報活動を行います。

登山道に限らず、歴史的・文化的に魅力ある施設などの情報を組み合わせた登山道マップを活用することで、眉山を中心とした周辺地域の魅力を発信し、訪問の機会を創出することを目指します。

4) その他の取り組み

眉山の登山道を継続的に魅力的なものとして発展させていくには、「地権者をはじめとした地元住民、登山利用者」「観光ガイド」「登山愛好家などのボランティア」などの協力が不可欠です。

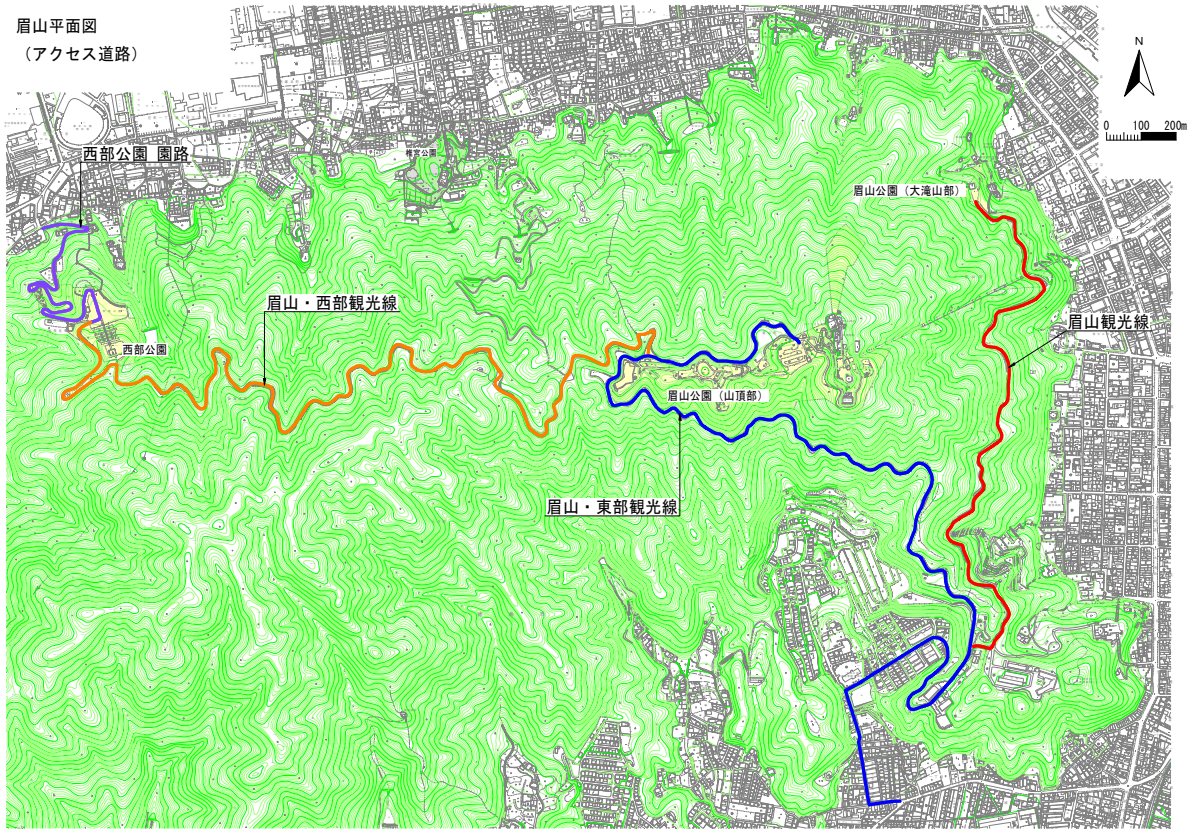
特にゴミの放置などが発生しないように、登山を楽しむ際のマナーを啓蒙するなどの対策を同時に行う必要があります。

その上で整備された登山道の点検など維持に係る内容について地元住民やボランティアなど関係者との協力していくことが望まれます。

4.5.6 アクセス道路

(1) アクセス道路位置図

眉山アクセス道路は眉山公園（山頂部）に至る2路線と眉山公園（大滝山部）に至る1路線があります。



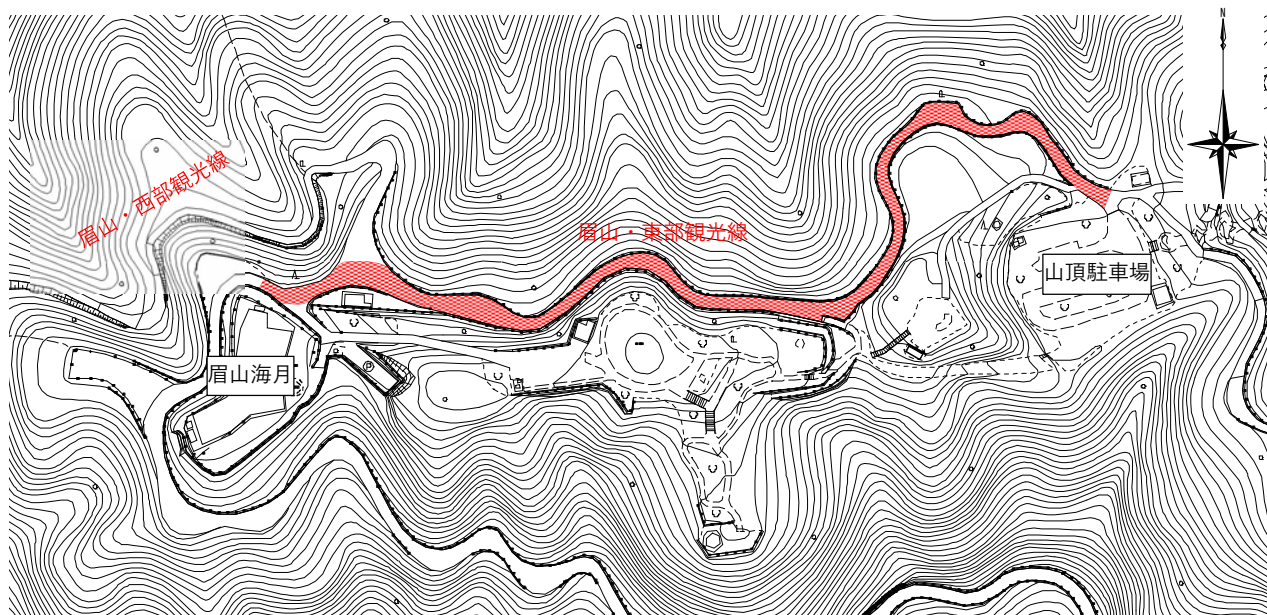
出典：徳島県 DM 地図データ

図- 4.5.1：眉山アクセス道路網図

(2) 整備方針

1) 山頂部道路の整備

山頂部道路は老朽化が進行しているため、現道路に設置されている防護柵は、景観に配慮した防護柵に更新し、併せて舗装更新や安全対策を行うことを検討します。



出典：徳島県 DM 地図データ

図- 4.5.2：山頂部道路平面図



眉山・東部観光線
防護柵の腐食



眉山・東部観光線
舗装のひび割れ・わだち等

2) エントランス及び交差点の整備

眉山・東部観光線と眉山・西部観光線が交わる交差点部は、交差点改良及び旧料金所施設跡地を眉山公園のエントランスとして整備します。

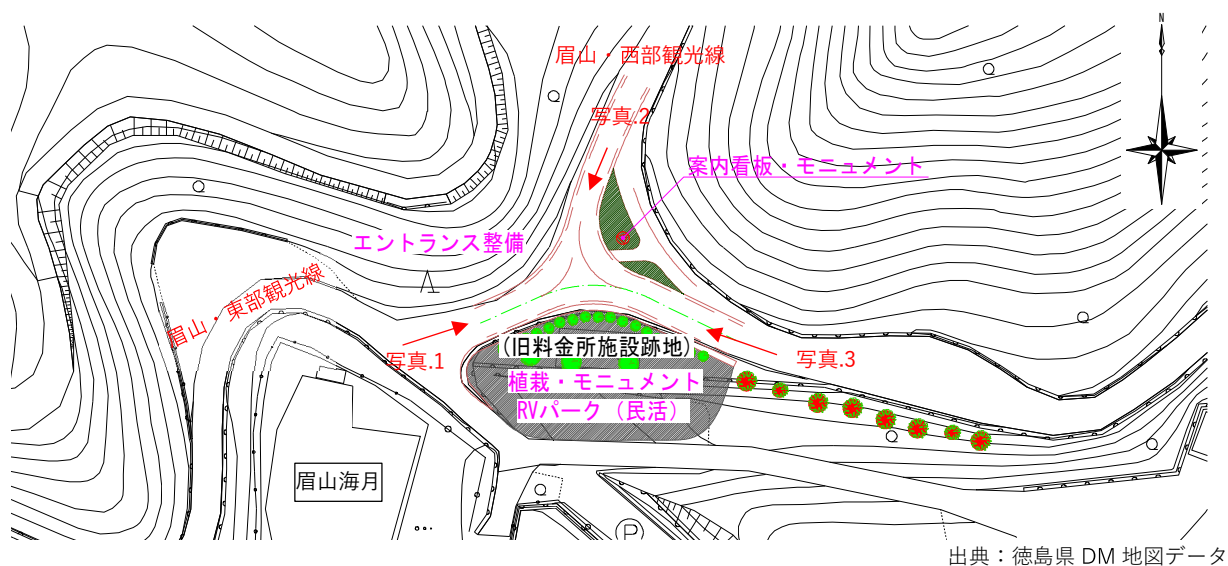


図- 4.5.3：エントランス・交差点平面図



交差点全景写真



写真.1



写真.2



写真.3

3) 交通安全対策

以下の交通安全対策について検討します。

- ・車線の引き直しやカーブ区間のドット標示などの路側帯標示、路肩外側のカラー標示、警戒標識（勾配標示、つづら折り標示など）

4) 標識・案内看板

デザインを含めた統一性のある、分かりやすい標識、距離標等の設置を検討します。

5) 適切な道路維持

大型車両のスムーズな通行及び交通安全対策のための伐採を検討します。また、傷んでいる構造物の修繕を検討します。

6) 駐車場整備

眉山未来プランにより、駐車場不足が懸念されるため、新たな駐車場を整備します。

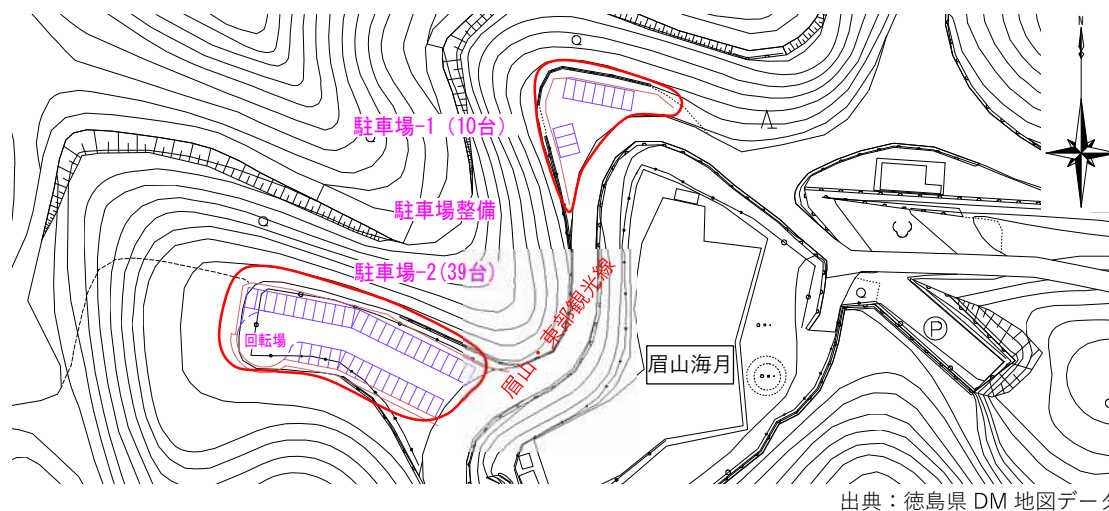


図- 4.5.4：駐車場整備位置図

4.5.7 移動モビリティ

「見るだけでなく、楽しみながら滞在できる 緑と景観のシンボル」という目標を実現するためには、眉山公園内の周遊性を高め、利用者の滞在時間を延長することが不可欠です。

利用者が多い展望施設がある東側エリアと、西側エリアの間の相互移動に影響している課題を解決し、公園利用者がより快適に公園内での滞在を楽しめる移動手段を検討する必要があります。

(1) 移動モビリティの選択

表- 4.5.1：移動モビリティ比較表

	モノレール・リフト	電動カート	小型モビリティ
項目			
人数	4人以上	3人～5人程度	1人～2人
必要整備	・ 駅舎 乗降地点ごとに駅舎が必要 ・ 軌道/索道 専用の軌道の敷設が必要	・ 路面整備 路面の凹凸の改良が必要	・ 路面整備 路面の凹凸の改良が必要 ・ 土地改良 安全な傾斜の確保が必要
	×	○	○
安全対策	軌道上の運行のため安全対策は容易	運転手が同乗することで安全対策は可能	利用者が運転するため、管理は不可
	○	○	×
総合評価	駅舎や索道大きな施設整備が必要であり、日常的な点検、修繕など維持管理費も将来的な負担となる。	車両の購入費（リース契約含む）と運転手による安全対策は必要であるが、自動運転の検討も可能。	大規模な設備投資は不要であるが、傾斜が大きい場所の土地改良は必要となる。また、歩行者との事故の危険性も排除できない。
	×	○	△



眉山公園内の高低差や、安全対策また維持管理面での将来的なコストを考慮し、比較検討した結果、電動カートの導入が望ましい

(2) 移動経路の整備

眉山公園内での電動カートの導入を前提に、適切な園路整備を行う必要があります。
既存の園路を可能な限り活用し、歩行者との分離を図り安全面に配慮した整備を行います。

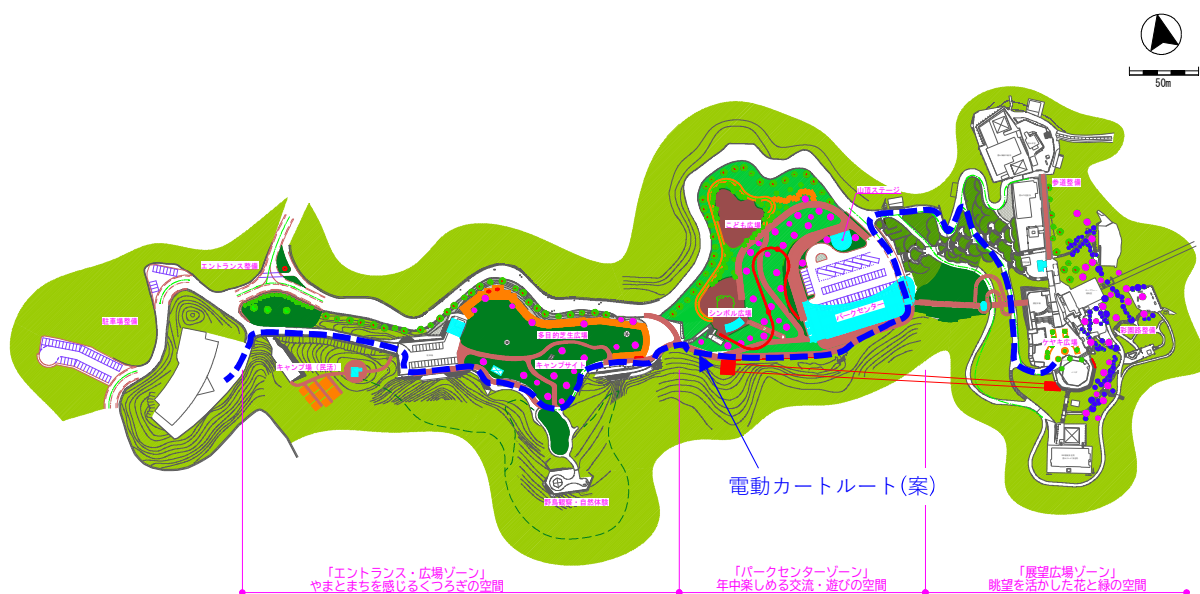


図- 4.5.5：電動カートルート(案)

(3) 既存園路の活用

既存園路について、十分に園路幅が確保できる部分や、近くに複数の経路がある園路について電動カートと歩行者の通行部を明確に区分けし、安全対策を図りつつ、電動カートの運行経路として活用します。



電動カート

(4) グリーンスローモビリティの導入

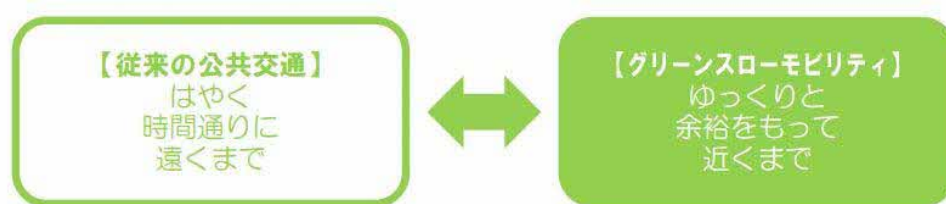
電動カートの導入にあたって、環境に配慮したグリーンスローモビリティの導入を検討します。

グリーンスローモビリティは、時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した移動サービス及び車両の総称です。

グリーンスローモビリティの導入によって、眉山公園内の周遊性の改善と低炭素型モビリティの活用という 2 つの課題を解決することが可能となります。



出典：グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き



出典：グリーンモビリティの導入と活用のための手引き

図- 4.5.6：従来公共交通（左）とグリーンスローモビリティ（右）の違い

グリーンスローモビリティとして区分されるモビリティは時速 20km 以下で比較的近い範囲内の移動手段として適していると考えられます。

眉山公園内においても、様々な利用者の園内移動の方法として、眉山公園内からの眺望を楽しみつつ移動を可能とする眉山公園の新しい魅力の一つとして導入を検討します。

(5) 自動運転の検討

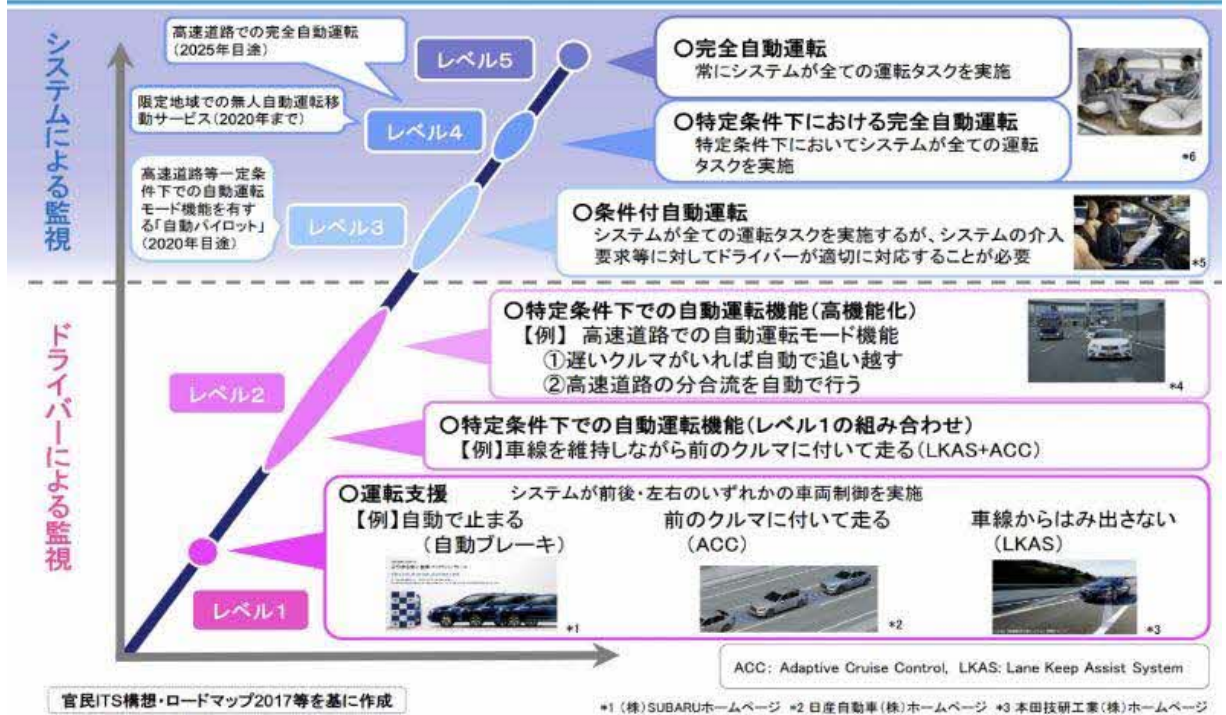
将来的に眉山公園内で運行されるモビリティはレベル 3 以上の自動運転による運行を検討します。

レベル 3 の自動運転では、一定の条件下でシステムにより全ての制御を行い、システムからの要求があった時のみドライバーによる運転操作を行うものです。

レベル 4 では、ドライバーを必要としない水準ですが、現実的には遠隔監視操作システムなどを活用して適時監視や操作介入を行っていることが多い状況です。

自動運転のモビリティを導入することで、管理者の負担を軽減しつつ、公園利用者の利便性を高めることが可能となります。

自動運転のレベル分けについて



出典：国土交通省

図- 4.5.7：自動運転のレベル分けについて

4.5.8 デジタル技術

デジタル技術の導入により、来園者等の利便性向上及び周遊促進、また、観光地として新たな価値創造の可能性が広がります。

QRコードやARを用いた園内誘導や施設説明、にぎわい創出のためのARサービスについて検討します。加えて、園内を快適に滞在できるようにするため、Wi-Fi等のデジタル環境の整備を進めます。

(1) 園内誘導

公園内を快適に周遊可能にすることを目的として、AR導入を検討します。

ARによる直感的な園内誘導、多言語対応等が可能になります。

(2) 施設説明

公園施設に対する理解を深めることを目的として、施設説明へのAR技術導入を検討します。

眉山の歴史や文化、公園施設に関する情報をARで表示することで、来園者等は眉山の魅力をより深く理解することができます。また、眉山の景色とARを組み合わせることにより、中心市街地や剣山をはじめとする徳島の山々にスマートフォンをかざせば、名称や施設情報等が分かるようになります。

(3) デジタル技術活用によるにぎわい創出

ARと眉山を組み合わせることにより、眉山の空間がキャンバスとなり、リアルとデジタルが融合した新たな体験と感動の場となることが可能です。

デジタルイベントや民間活力の導入も視野に入れ、眉山でのデジタル技術活用によるにぎわい創出について検討します。



えひめこどもの城 ARアトラクション

4.5.9 利活用

現在、眉山は各種イベントの開催やウォーキングやランニング、眉山の眺望を楽しむといった利用がされていますが、さらなる利活用の推進として多種多様なイベントの開催が望まれています。そのため、眉山を積極的に利活用していくための仕組みづくり、組織づくりについて検討し、様々なイベントを開催するための受け皿となる環境整備を行うことを方針とします。

(1) 組織づくり・仕組みづくり

今後、眉山の利活用を円滑に推進するためには、眉山及び眉山周辺で活動する関係団体等との間で情報交換や連絡調整を密に行う必要があります、そのための組織づくりと場づくりが必要となります。眉山利活用推進のための組織として「眉山利活用推進協議会（仮）」の設立を目指します。

眉山利活用推進協議会（仮）は、眉山で活動する団体や公園管理者（指定管理者）、徳島市で構成し、総合的な組織として利活用ルール、イベント等の企画、運営等を行います。これには、公園管理者や各種団体と連携・調整しながら進める必要があります。定期的に様々な活動を繰り返すことによって、最終的には民間主体の組織形成を目指します。これが眉山における利活用の推進主体となります。眉山利活用推進協議会（仮）は、市民・企業連携による環境整備、民間活力導入による眉山の魅力向上、民間主体による運営組織の自立を目指し、持続可能な眉山の利活用推進を図ります。

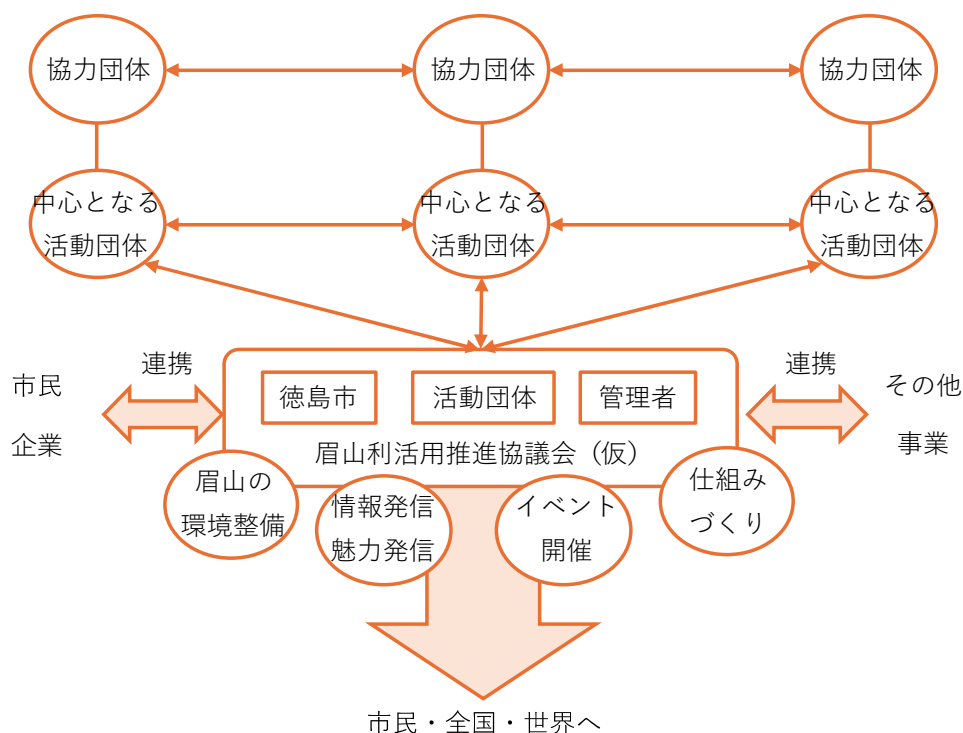


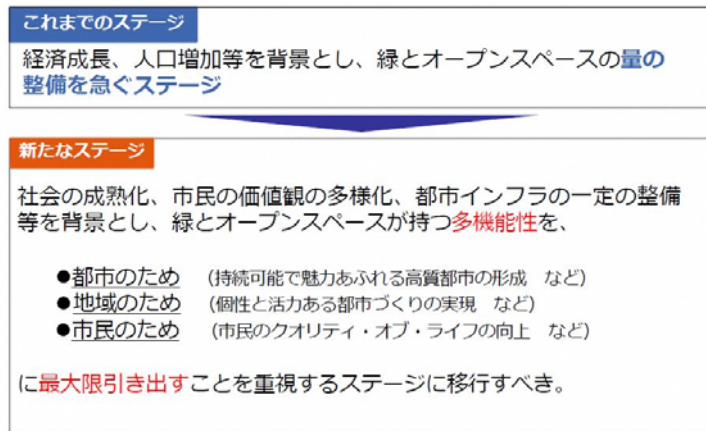
図- 4.5.8：眉山利活用推進協議会（仮）

5. 眉山未来プランの推進

5.1 民間活力の導入

5.1.1 民間活力の導入検討

経済成長、人口増加等を背景として緑とオープンスペースの整備や充実を求められていたステージから、市民の価値観の多様化や都市インフラの一定の整備等を背景として、緑とオープンスペースが持つ多機能性を最大限に引き出すことを重視するステージに移行しつつあります。



出典：都市公園法改正のポイント

図- 5.1.1：これまでのステージと新たなステージ

平成 29 年には「都市公園法」が改正され、公募設置管理制度(P-PFI 制度)の創設や、設置管理許可期間の延伸など、より柔軟な都市公園の活用が可能になりました。

眉山公園の整備や運営手法については、既存の公園や公園施設を活かしつつストック効果を高め、都市公園の魅力向上と民間のビジネスチャンスの拡大を両立できる民間との連携の強化、公園の個性を引き出し、地域に必要とされる柔軟な公園の活用に向けての検討が必要となります。

観点 1：ストック効果をより高める

- 都市公園は全国的に見ると一定程度整備されてきた
- 今あるものをどう活かすか、という視点を重視すべき
- 都市公園を活性化する、また、必要に応じて再編するという考え方が重要
⇒公園管理者も資産運用を考える時代へ！

観点 2：民間との連携を加速する

- 公共の視点だけでモノをつくらない、発想しない
- 民間のビジネスチャンスの拡大と都市公園の魅力向上を両立させる工夫を
⇒民がつくる、民に任せる公園があってもいい！

観点 3：都市公園を一層柔軟に使いこなす

- 画一的な都市公園の整備は× (とりえず三種の神器 (砂場、滑り台、ブランコ) 等)
- 画一的な都市公園の管理は× (一律でボール遊び禁止 等)
- 公園の個性を引き出す工夫で、公園はもっと地域に必要とされる財産になる
⇒公園のポテンシャルを柔軟な発想で引き出す！

図- 5.1.2：地域に必要とされる公園整備や運営手法の観点

5.1.2 官民連携の手法の検討

都市公園の民間事業者との連携には、指定管理者制度、設置管理許可制度、公募設置管理制度(P-PFI)など、様々な事業手法がありますが、眉山公園の目指すべき姿に向けて適切な手法の導入を検討する必要があります。

(1) 指定管理者制度

眉山公園は、他の都市公園と併せて指定管理者制度により運営しています。

公園の管理について他公園と一括して指定管理者制度を導入することにより、民間事業者等の人的資源やノウハウを活用した施設の管理運営の効率化が図ることが可能となります。

基本的に公園施設の施設整備は公共団体がを行い、指定管理者は委託を受けた運営維持管理を行う手法です。

(2) 設置管理許可制度

都市公園法第5条に基づく官民連携の手法です。

公園管理者以外の者が、都市公園内に公園施設の設置、管理を許可できる制度です。

売店や飲食店といった収益施設などの、公園管理者自らが、設置又は管理することが不適當もしくは困難である公園施設等を第三者による設置が可能となります。

眉山公園においても一部の収益性のある公園施設において、設置管理許可制度のもと、民間事業者が設置している公園施設があります。

(3) 公募設置管理制度

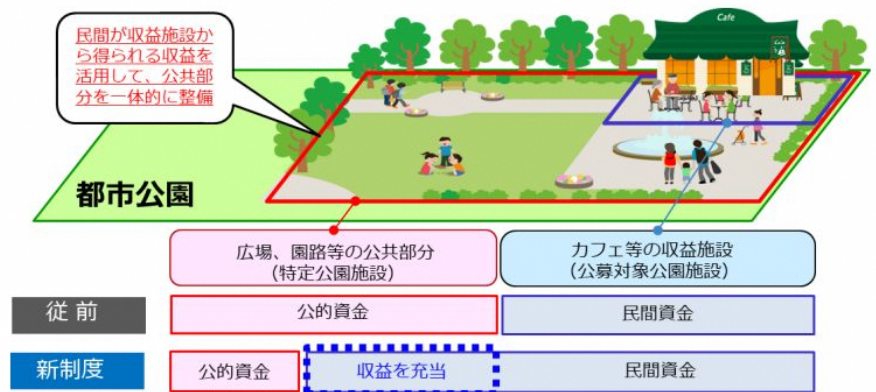
地方公共団体の財政面等の制約が深刻化する中で、都市公園の整備及び更新、公園利用者の利便性の向上を図るために、民間活力を最大限活用することを目的とした公募設置管理制度が平成29年度の法改正により追加されました。

新しく設けられた公募設置管理制度では、飲食店、売店等の公園施設の設置と、設置した公園施設から生じた収益を活用して、その周辺の園路、広場などの整備、改修等を一体的に行う者を公募により選定する手法です。

公募設置管理制度を導入することで、民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質向上、公園利用者の利便性の向上を図ることができます。

前述の設置管理許可制度の許可期間は最長でも10年に対し、公募設置管理制度は20年の許可期間を設けることが可能となります。

■P-PFIのイメージ



出典：国土交通省「都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン」

図- 5.1.3 : P-PFI のイメージ

(4) 指定管理者制度 + Park-PFI 方式 (公募設置管理制度)

Park-PFI 事業を担う民間事業者と指定管理者は、それぞれ別に公募・選定を行い、事業者を決定します。

公募設置管理制度のみで、公園一帯を管理するのが困難な場合にも有効であると考えられます。

ノウハウを持った民間事業者に、にぎわいや魅力向上に係る公園施設の設置・運営を任せ、公募対象公園施設から得られた収益を公園整備や管理に還元することで民間活力の導入し、それ以外の公園部分に関しては指定管理者制度などを導入することで、広い公園の管理を行うことができます。

それぞれの民間事業者が持つノウハウを活用することで、安定的な公園管理とにぎわい創出など魅力度の向上を実現することも可能となります。

表- 5.1.1 : 制度別の施設対応表

	根拠法	事業期間 の目安	園路及び 広場		修景施設		休養施設		遊戯施設		便益施設		管理施設
			園路 広場	植栽 芝生	収益あり キャンプ場	収益なし 休憩所 ベンチ	収益あり 遊具施設 野外ステージ	収益なし 遊具施設	収益あり 売店 飲食店	収益なし 駐車場 トイレ	管理事務所		
指定管理者制度	地方自治法	5年程度											
設置管理許可制度	都市公園法第5条	最長10年											
公募設置管理制度 (P-PFI制度)	都市公園法 第5条の2～5条の9	20年以内											



現在の指定管理制度、P-PFI 制度及び公園施設設置許可等、複数の事業手法を組み合わせるなど、効果的な事業手法及び管理運営手法を検討します

5.2 実証実験

眉山未来プランの推進のために民間活力の導入及び利活用の推進が必要となります。そこで民間活力導入及び利活用推進を見据えた実証実験を実施します。

【にぎわいイベント】

眉山公園（山頂部）展望広場から林間駐車場周辺においてにぎわいイベントを実施し、民間活力導入に向けた需要調査、併せて利活用推進に必要な環境整備等を確認します。



にぎわいイベント

出典：株式会社ネオピエント

【キャンプイベント】

眉山公園（山頂部）お花見広場周辺においてキャンプや自然体験イベントを実施し、民間活力導入に向けた需要、課題等を確認し、併せて利活用推進のための眉山公園に特化した公園利用ルールを検討します。



キャンプイベント

出典：一般社団法人 SMASH ACTION

【イベント開催支援】

眉山公園に特化した公園利用ルールの見直し等、民間事業者や団体等の眉山公園でのより活発なイベント開催に向けて必要となる支援策を検討します。

5.3 スケジュール

眉山未来プロジェクト事業スケジュールは以下のとおりです。

表- 5.3.1：眉山未来プロジェクト事業スケジュール

		フェーズ0 準備段階	フェーズ1 基本方針策定		フェーズ2 詳細プラン	フェーズ3 プラン実行			フェーズ4 利活用開始
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
眉山全体			基本方針策定						
眉山公園 (山頂部)	工事		測量		設計	工事	工事	工事	全施設 利活用開始
	用地		用地調査		用地調査	工事			
	民活	サウンディング	民間活力導入 検討		(民活)公募 <small>※導入手法による変更有</small>	(民活)設計	(民活)工事	(民活)工事	
	ソフト		民活及び利活用 実証実験		利活用実証実験	利活用実証実験	利活用実証実験	利活用実証実験	利活用新体制 運用開始
眉山公園 (大滝山)	工事				設計	工事	工事	工事	全施設 利活用開始
	工事(民)		地元調整		地元調整	地元調整	(民地部)工事	(民地部)工事	
	ソフト						マップ等作製	マップ等作製	
西部公園	工事					設計	工事	工事	全施設 利活用開始
アクセス 道路	工事				設計	工事	工事	工事	
登山道	工事				設計	工事			
	ソフト		用地調査		用地調査	マップ等作製	マップ等作製		